始

333-73

斯界之壹

百人

天之卷

染料塗料工業藥品新報社編

大正
7 12.11
内交

傳習錄

東洲

二種の思潮

工學博士　高松豐吉

時局に際して、我化學工業界は全く相容れざる二種の思潮を顯出したり、其一は時流に棹して大に射利を試んとするもの、他の一は化學工業をして、時の事業に非ずして國の事業たらしめとしたるなり。

此の異れる二種の目的に向つて努力したる其結果は、前者は既に小成乍らも其目的に達したるも、後者は尙未だ準備中なり、前者の成功は其輪廓も內容も極めて貧弱のものにして將來の化學工業發展に對し、殆ど幾何の寄與をもなさず、從つて我化學工業は後者の努力に依つて始めて、其發展を期待し得るものたるべし。

今や時局は終熄し、假裝の工業は悉く影を收むるの時は來れり、吾人は常に目前の射利に汲々たることを休め、可成資本を合同し、力を一にし、以て生產費を廉ならしめ、市場の競爭力を大ならしむるの、必要を切說したりしが、遂に時局の終結に至るまで、是が實現を見る能はざりしを遺憾とす、兎に角勃興の第一期は以上の二種の思潮あるが爲めに、其足並を一にすることを得ざりき。

吾人は之より第二期に入らざるべからず、然も數倍の努力を要すべきの時は來れり、第一其基礎工業たる曹達工業の如き、化學工業を獨立せしむべく、餘りに其發達の幼稚なるあり業界の人々は兎に角第一期に於て各々相當の成功を收めたるも、時機の第二期に入らば、彼の如く容易のものにあらざるを記せざるべからず。

要するに業界が力を今後に致すべきは、力の一致なり、資力の一致なり、技術の一致なり斯の如くにして始めて、今後に處することを得べし。

斯界の一百人に寄す

工學博士　坂田貞吉

歐洲戰亂中に於ける我化學工業の活躍は記念すべき事なり、然も今後斯る機會は二度來らざるべしとして、之を記念するは甚だ心細き次第なり、這次化學工業活躍の當初より、宜しく戰後に備ふべしとは、隨處に唱道せられたりしが、果して能く是に備へ得たりしもの幾人ありや、今や歐洲戰亂は漸く局を結び、平和次で臻らんとするに當りて、工業界の一部には早く既に倒産及び衰滅の聲を聞く、此事あるや今日に始れるものに非ずして、其勃興の當初より豫期せられたりしなり。

吾人は此時局に於て、衆に率先して業を起し、以て國富の增進を圖りたる、我化學工業界の人々に對して、其努力を嘉し、其成功を謳賀するに吝ならずと雖も、其努力が果して永遠に有功なるを得るや否や、又た其成功なるものが果して不斷の光彩を將來に放ち得るや否やに想到しては、遂に大なる樂觀を許さゞるなり、吾人豈我が化學工業界の將來を呪ふものならんや。

我化學工業界の前途は頗る遼遠なり、今は僅に發程の當初にして、今後始めて其試金石時代は來るなるべし、既往三四年間に於ける事例を以て將來を打算するものあらしめば、失意困憊竝び到るや、火を睹るよりも明なるべし、されば斯の如き痛恨事なからしめんとせば、今日の中心的人物自ら更に覺醒して其收めたる成功を保持すると共に、大に發展向上の一路に向つて邁進せざるべからず、斯くて初めて其記念するの大に眞意義を發揮するあるべし、斯界の一百人編成るに及んで、吾人は更に其感を深うす。

敢て苦言を卷頭に寄する所以なり

大正七年十二月

斯界之一百人序

吾僑曩に自ら揣らず、我業界に於ける人材を拉し來つて、是を月旦し、月毎に工業藝品新報紙上に於て之を發表し、以て一方に人材を紹介し、更に他の一面に向つては其批判の當否を問へり、然るに偶々大正三年歐洲戰爭の勃發するや我業界は忽ち輸入の杜絶に逢ふて、一大恐慌を現出したり、然も幾何もなくして自產自給の方針確立し官民相共に力を一にして、是が自給に奮鬪し、一面には市價暴騰して未だ曾て見ざる好景氣を現出したり。

然るに吾人が其月旦すべく、俎上に拉し來れる人々は、則ち此千載一遇の機會に於て終始中心となり樞軸となりて活躍したる人物なりき、今や我が化學工業は、近々三四年の日子に於て、頗る長足の進歩をなし、將來斯の工業を獨立せしむべく、或る程度迄其基礎を確立せしむるに至らしめたるもの、此等中心人物の率先して奮鬪し、且つ努力したるの賚なりと云ふも、必ずしも誣言にあらざるなり。

今や吾人は幸にして我業界の重なる人材の一通りを月旦したる時、偶々歐洲大戰亂は獨墺の講和に依りて終熄し、尋いて平和の來るに際會したり、乃ち時局の爲に生せる我業界の一大活躍時代を記念するが爲めに、其月旦せる處に向ひて補正修束して、之を梓に上し、以て部數を限りて我關係者の座右に致さんとす、唯憾むらくは吾人の筆拙なく、編中收むる處の人々をして、其面目を躍如たらしむる能はず、加ふるに蒐材の期間、甚だ永きに亙り、或は凡て其近狀を穿つ能はざりしやも知るべからざるなり、只夫れ我業界の活躍を記念する一端ともなるあらば、編者の望み乃ち足る。

大正七年十二月

編者しるす

我染料及工業藥品界の權威として、名實共に其完全なる體相を備ふるものを求むれば、東西市場を通じて、柴田清之助君を推する、何人も異議なかるべし、而して君は何故に斯くの如く重きをなせるや以下少く紹介する處あらんとす。

君の店舗は桂屋を商號とす、先代藤兵衛氏の創設に係る、氏は原と埼玉の人風に大志を懷いて横濱に出でゝ時の貿易商渡邊喜八氏に身を寄せて商道に學び、明治三年東上して、染料及工業藥品商を營みて、今日の業礎を築けるものなり。

現主清之助氏は、府下荏原郡品川町に生る、弟別家五郎氏の長兄にして夙に柴田家の繼嗣となり、先代經營の跡を襲げるものなり、明治二十九年組織を改めて合名會社となし、氏自ら代表社員として、親しく經營に衝に當る、爾來需用界の進歩と共に社運益々隆盛となり、取引も亦漸次擴張して、帝國の領土に普きを得たり、玆に於て京都大阪の兩所に支店を設け、幸に共に好調を擴大して、遂に染料顔料工業藥品商として、斯界の牛耳を採るに至れるものなり。

其後に至りて人造藍瓶賣の目的を以て大同藍株式會社の組織せらるゝや、氏は推されて專務取締役となり、又東京硫酸會社の興るや、重役として之が經營に貢獻するところ少なからず、曾ては東京商業會議所議員の改選に於て選出せられて議員となり、近くは東京染料工業藥品問屋同業組合の成立するや、其組長に推さる以て君が業界、又は一般實業界に於て、至大の德望と勢力とを有するを察知するに足るべし。

以上は單に君が私公人としての經營に過ぎず、而して今や業界に於て斯の如く重きをなす所以のものは抑々何ぞや、富の力なりや然らず、手腕なりや又然らず、曰く圓滿高潔偉大の人格の反映即ち是なり、元來の富の力は有限にして、手腕の力も亦或る程度を超ゆる能はず、單り德に至りては、一切を超越して、物を從ひ人を服し、求めずして其大をなすこと、金力手腕の比に非ざるなり。

今赤裸々に柴田君の性格内容を解剖すれば、天資正直高潔にして、絶倫の精力を有せり、併し君は正直なりと雖も道學先生に非ず、己れの所信を斷行するに於て分秒の假借なし、旦たに大阪に活躍して、夕に東京に奔走し、十年一日の如く些の荒怠を認めざる、其健康、其氣魄、其精力到底常倫の中に見る能はざるものなり此意味に於て君は一個の活動家として、殆と全き資格を有したる一人なり。

夏に一面より觀察すれば君は度量の濶大なる、以て人に幹する資質を與へたり、

關東業界の覇者

柴田清之助君

今日君が東西市場到る處に腹心を有する所以のものは、卽ち君の抱擁の大を示すものにして、業界未だ斯の如く多くの人を容れつゝあるを比見すべからず、所謂重望の存する所以、其傘下に人の集まる所以一に以て此處に存するを見ずや。

君は元來正直なり、正直なるが故に信義を重ず、凡そ商人の德として、何物か亦た信義の右に出でんや、其然諾を重んずること九鼎大呂よりも重く、順逆二境に處して曾て其行ひを二つにせざる宛として其快濶にして、一點暗澁の影を認めざる處、一度諾すれば水火亦た辭せざる處、德を經とし意氣を緯とし、以て大正の商界に活歩する處、自ら一種の異彩あり、顧みれば今や歐洲の戰局今や愈々其局を結ばんとす今後我業界が覺めたる列强民族と伍して大に戰はんとするに當り彼商敵は、一大トラストを組織して、近く世界の市場を攪拌せんと企つるあり、斯の如くにして業界の事、單に市價騰落の些末事のみに非ず、事端は益々之より稱く、重疊たる大波瀾は、必ずや今後に於て殺到し來るを疑ふ能はず、吾人が既往に於て認めたる、君の力量に對し、今後更に一段の期待を以て迎えんとする所以なきに非ざるなり。

特に知らずや敍上の獨逸の大トラストに對し君も亦先憂の一人として東西同士に檄し東洋染料株式會社の設立に奔走し曩日其成立と共に選ばれて社長となれり、今後君の此方面に活躍するの實況想見するに足る。

君は目下東洋曹達會社株式會社保土ヶ谷曹達工場の出資者として、關西には松田製作所の出資者として、其資本投下の範圍亦弘く、漸次業況發展し其基礎愈固を加へ來りしを以て、大正六年八月十五日組織を變更して資本金一百萬圓の株式會社となし新に雜貨及貿易業を起し、舊合名會社柴田染料商店を柴田合名會社とせも、而して氏專ら會社を代表して經營の衝に當れり、若し夫れ今後我色素工業界の大なる渦中に躍進すべく君に對して大なる期待なきを得ず。

大阪染料界の重鎮山田市郎兵衛氏は、今日に於て啻に斯界の重鎮たるのみならず新進染料普及の先驅として、我染料發達史上開却すべからざる一人なりとす。

君は當年年齒當に六十有五歳、其茶臼山の新邸は具さに君が晩年清樂の宮殿なり然も只之れ一片の外觀のみ、君は其實尙依然として、斯界に馳騁して、昔日の君と事實に於て何等撰む所なし、君の晩年や單に光輝ある晩年のみに非ずして、更に前途ある晩年を、故に意を世俗に寓して、偶々積勞を此清き新邸に醫しつゝあるに過ぎざるなり。

君は河内の人道明寺の林に生る、幼にして穎悟鄕黨君を呼んで神童と稱す、先代市郎兵衛氏は、屢々商用の爲めに同地を通過し、閭里偶々此神童の在るを聞知し自ら求めて携へ歸りて養子となせるもの則ち今の市郎兵衛氏なり、君が維新以降我染料及染色技術の發達に際し、常に先見の明と獨特の手腕とを具へて、以て今日の大をなしたるの梗概は下文に記する處の如し、加之も君は戰爭前に於て、少らず土地の將來に矚目し、其放資に由りて又た巨萬の富を贏ち得たるは、君が成功史上の有力なる一事例なりとす。

君が唯一商業機關たる大阪東區南久太郎町二丁目九番地所在、山田合名會社は、長男市治郎氏及女婿藤次郎氏次男岸太郎氏と及君との出資に係る五十萬圓の法人にして、更に東京には神田永富町十番地に、京都には下京區新町通蛸藥師下に、京城には漢江通り六番地に支店を設け、東西の商圈を統一し、居然として斯界の一大權威となれり、而して市治郎氏は本店の商務を總攬し、女婿藤次郎氏次男岸太郎氏は之を補佐し、女婿弟太郎氏は東京支店の主任として之總務の任に膺れり一門の福機斯の如く骨肉に依りて其一切を支配せらる、實に其幸慶や啻に資產の豐なるのみに非るなり。

今少しく君が一代の功業に就て回顧する所あらん、明治の初年に於ては上下悉く在來の植物染料を以て唯一優等のものと思惟し、彼の蠻開なる染色に滿足し加之東京方面の同業者が尙舊夢より全く醒め去らざりし間に於て、此新進材料の需用と輸入とに向つて渾身の努力を繼續したりき、果せる哉君の期待は違はず幾年ならずして、當業者も亦覺醒し、盛に之を使用すると共に、其大部分が神戸港に依りて輸入せらるゝことゝなり、全く染料の實力西遷の事實を見るに至りしもの亦與つて君の力大なりとす。

斯の如くにして漸次植物性染料の驅逐せらるゝや、君の事業は此風潮に掉して、極めて順潮の發達をなし、年と共に其商圈を擴大し、亦資力の大を來せり、而して日露戰後に於ては、財界一般の好潮に依りて色彩は極めて華美を好み、同業者は日に日に增加し、滔々たる輸入は遂に其消化に苦しむに至れり、然も此好況は全く短日月にして、直ちに其反動は財界を沈衰せしめ、需用從て激減し、此處に昔日の盛況は一變して、恐慌となり、再變して狼狽し、猛烈なる同業者間の競爭を誘起し、濫賣各所に行はれ、倒產者日に續出するの悲境となれり、而して此狀態は全く大正二年の下半季に入りて、其極に達し、優者獨り存して劣者悉く斃り去らる、斯くて大正三年八月に入るや突如として歐洲大戰亂勃發し、輸入全く杜絕するに至りて、再び斯界は高潮の波瀾を呈することゝなりぬ、當時に於ては同店の如きも莫大のストックを擁し、之が處分に痛心すること少らざるの時に當りて日獨の國交は斷絕するに至り、年末に至りては愈々戰亂は永續すべしとの斷定を得ると共に、市價は忽ち暴騰して平時の三倍を唱ふるに至る、斯の如き時に當りて、君は能く冷靜に此大勢を洞見し徐ろに交通の道を謀り、遂に思惑者流をして、一擧買占の狠心を成さゝらしめ以て華客の心を繫ぎたる、其の手腕と識見とは實に特筆せざるべからず。

然も國運の隆替に意を注ぎ、老來甞て寧處を求めざる、精力と志操とは畏敬せざらんとするも得ざるなり。君は天資機略に富み且卓拔の識見を有せり、終生の大業全く此二大特徴を有するの賚にして、群俗中一頭地を拔ける所以なるべし、其後大正六年十月同族社員を糾合して同店を資金百萬圓の株式會社となし、東京及京都に支店を設置し一層の發展を畫せり然も君は一の俗的趣味なく、居常店員を率ふるに當りては極めて實行を尙び、凡て其身を以て衆人の模範となし、無言の教訓を實施す、今日君の商圈が緊張して一毛弛緩の跡なきもの、全く君が人格の反映たらずんばあらず。

建設の人

山田市郎兵衛君

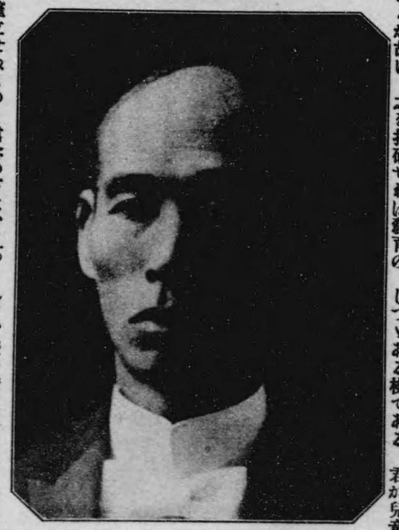
蓋は水府藩士藤田良衛右門氏の長男であつて、嘉永四年六月小石川水道町の水戸屋敷に生れ、明治十七年始めて、植田貞子の養子として、植田家を嗣いだ人である。

君は爾來其商運の隆盛と共に、漸時市民の輿望を受け、神田區會議員として前後九年間、東京府會議員として六年間、公共團體の代表者として、盡瘁した事は今更贅言を要さぬ事であるが、君は深く感ずる處あつて、今より九年前名譽職の一切を辭して、爾來心を傾けて育英の事に潛心して居る。

君が染料界の第一人者として、業界の記憶を深からしめたのは、往年秩父の織物組合内に粗製の弊が起つて、關係者が少なからぬ苦痛を蒙つて居つた當時、君は全力を傾注して、此弊害を一掃したのである、爾後關係者は之を德として、其功勞を永遠に記念するが爲めに、君に木杯を呈した事がある、加之秩父織物同業者に對して、洋染料を用ゐしめたのも、正に君の勸說に依つたものであつて、須く此方面に向つては、今日尙一大恩人として、推重せられつゝあるは洵に故なきに非ずである。

名譽職を固辭して以來の君は、毫も世上閑人の亞流を學ばず、春秋二季必ず兒童を引率して、湘南に修學旅行を企てつゝある事は、著名の事實であるが、君は此湘南の地を以て關東の奈良と觀じ、史跡を以て勸善懲惡を諭示する、好箇の教育場と考えて居る、其毎年同一の場所に旅行するよりも、折々其地を替ふべしと勸ひる人あるも、君の主義たるや素より快樂娛樂に非ずして、純然たる教育上の旅行なるが故に、湘南を以て最良の地として居る、斯の如くにして君は毎年私財を投じて旅行をする、其教育上の見地は、兒童教育を以て、單に學校教育にのみ一任するは、其全きを期する所以でない、學校教育其ものは則ち、家庭及實社會と云ふものに依つて、初めて消化され體得されるものである、兒童も亦只學校を以て修養の場所と心得て居るのは大なる謬想であるが故に、之を打破せねば教育の根本は確立せぬものと信念の下に、且つ主張し且つ實行しつゝあるのである。

理性と意氣の人



植田小太郎君

更に君の產業教育に關する意見は、一種の先覺とも見るべき深刻のものであつて今日の教員のみに一任して居つては、到底產業教育の目的を遂行することが覺束ない、於是乎學校以外の有志が、須く學校在職者と內外相應じて、力を盡すのが大切であるし、特に都市に於ては商工教育上、一穀の意を用へねばならぬとは常に君の主張である。

君は感情の人ではなくて、寧ろ極端なる理性の人である、從て君は其過去の反能に非常な思考を費した人に相違ない、假りに吾人の禿筆を以て君の理想を描き出すならば、人生を矛盾の生涯と認めて、其を幾分なりとも超越せんが爲めに、更に未來に清き美しき希望を湧起しつゝ、而も破綻多き今日をして、出來得べくんば、論理的歸著の享樂に置きたいと努力しつゝある樣である、君が兒童教育に對して、些の惜む處なく、其財を散ずるも虛名を售らんが爲にもあらず、勿論營利の材料とするにも非ず、全く君の理性と君の趣味とが、自然に凝成して此處に至らしめたのである。

由來理性の人は天下に乏しからず、然も其冷靜の思考と、深遠の理想とは、多く社會を動かす處なくして了る所以のものは。理性に富んだ人で限つて、盛なる意氣に缺如する所在るが故である、我植田小太郎君は、一面に於て理性の人であつて、其一面に於ては著實なる實行家である、否意氣の伴つた實行家である、思ふに君は當年意氣を以て天下を睥睨した水府武士の魂を享けて、更に之を商人化した、一種獨特の典型であると云ひたい、吾人が君に深厚の敬意を表するのは則ち此點に在るのである。

顧みれば我國の封建政治は、武士の意氣を以て、建造されたものである、實に國民の意氣銷滅して、何れの處にか發展興隆を望ひべき、理想に於て活き、意氣を以て行なふ、君の如きを中心とし導火線として初めて、革新的爆發は期待されるのである。

君は尙實業方面に於て、現在の店舗を經營する以外、硫酸會社の重役として、新進工業に携つて居る、則ち努力奮勵と云ふ樣な、個人的美德以外、寧ろ公人として、後代に傳ふべきである、斯くて君は業界に於ても、日に重きを加へ今回新に成れる染料問屋同業組合の副頭取として樞機に與して、大に盡す處あつたのである、實に南川翁と相對して、業界の變遷と見るべきものであらう。

君の終生の事業は取も直さず、過去を理解して、未來の希望と折衷し、其現在を建設的に自立して居る君の如きは、洵に人生々存の眞意義を悟了したるもので、君が俗界に貢獻した處の多大であると共に、又一面靈界に於て比較的多くの建設をなし、且つ其範を社會に頒つた功績は實に永遠の光輝を存して居る。

業界多事多端の今日に於て吾人は切に君の健在を祈る。

關西工業界に於て、近時錚々の名を成せるもの、先づ指を君に屈す、君は實に我邦一部工業界の先驅にして時代の進運に對して、貢獻する處の大なる、實に其閲歷を閲却すべからざるものあり。

君は文久二年十月京都に生る、明治八年京都府立師範學校の創設せらるゝや、選抜生となりて入學し、十年同校を卒業し時の知事槇村正直氏が府下の秀才を拔擢して、佛國留學を企つるや君又其選に加はり、工藝研究の目的を以て、元佛國領事レオン、ジュリー氏に伴はれて、佛國に赴き、明治十一年里昂工藝學校に入學し、專ら化學を研究し十三年同校を卒業し、夫より佛國工藝家の泰斗化學士マルナス氏の經營に係る工場に入り、染色の實地を練習し、居ること三年職長に任用せられ、後同工場を辭するに當りて、特別褒狀を受く斯くて明治十六年には和蘭首府に於て、萬國博覽會開設せらるゝや君は府下出品の總代を委託され、其滯在中、英佛獨白瑞等の諸國を巡回して普ねく染色工藝を視察し、其翌年には里昂大學に入學して、プロフエフル、ローラン氏に就て應用化學を專攻す。

斯くて明治二十年には、染織工業の發達を圖るが爲めに、大規模の工場設立の必要を認めて、澁澤男等を勸說し、京都織物株式會社を設立し、其設計及器械購入の要務を帶びて、歐米に航し、同社開業の當時は長くも皇后陛下の臨御を賜ひ君は技師長として、御褒詞を拜受す。同社技師長在職時代に於て君は南京繻子の輸入甚しきを慨し、君が滯佛中研究したる里昂黑染法を應用して、之に劣らざる困難を嘗めしも、遂に萬難を排して毛斯綸紡績株式會社を設立し、其建築設計の取調、及器械の購入を兼ねて渡佛するや、當時日清戰爭後にして外人は只管我の勃興を忌み、英佛領事は本國に打電して、君の調査に妨害を加へしめ爲めに非常の困難に遭遇せしも、不撓不屈遂に其調査を遂げて、諸般の設計に遺算なきを得せしめたり、

越て三十三年には、同社にモスリン晒白工場を起し幾多の研鑽を積みて、遂に精品を得支那印度濠洲方面に輸出するに至れり、又二十八年中京都綿ネル株式會社の創立に當り、本邦未だ捺染器械の應用なきを以て、完全の製品を得難きを慨し、自ら率先之を輸入して其翌年には稻畑工場を設立し染色界の面目を一新するに至れり、抑々當工場は婦人袴地綾モスリンの完成に全力を注ぎ、更にセル地の仕揚も亦同工場が天下に範を示す所たり。

更に最近に於ては、英軍が南阿と交戰中其服裝染色のカーキー色の大に功果ありしを認むるや、我陸軍も亦大に之が染色を研究したりしも未だ得ず、君更に英國に赴き、其英國に行はるゝものを研究して、之を我陸軍に採用を乞ひ、且つ國家多事の時に當りて、大に陸海軍の命を蒙りて軍國の爲に貢獻する所尠なからず、大正元年には、更に日佛貿易の發展を圖るが爲めに、佛國商務大臣の賛同を得て佛國貿易家と組合を組織し日佛貿易商會を設立したる如き、大阪に職業紹介所を設けて、失職者を救濟したる如き、關西貿易の隆盛を計るが爲めに、大阪貿易語學校を設立したる如き、其社會公共の爲に盡瘁せる所頗る多し。

以上は僅に君の略歷に過ぎず、君が十八年歸朝以來常に、時勢に先ちて時運を指導し、開拓し朝野の囑託を受けて、斯業の爲めに、其心身を勞したること實に枚擧に遑あらず、其間賞狀金牌又は金盃等の賞を受けたること亦擧て數ふべからず大正三年佛國政府よりシバリユ、ド、レジオンドノール勳章を與へられて、其佩用を允許さる。

君資性淵達にして、然も思慮周密事に當つて苟もせず、然も成算一度得るや萬難を排して之が決行に努めて曾つて撓まず其人を用ふるや一度之を信ずれば必ず大に之に任じて其特長を發揮せしむ、君又些の俗的趣味なく、意を傾けて事業を經營するを以て唯一の快樂となしつゝあり、今日關西染色界の大立物となる、蓋し所以なきに非ず、現今君は毛斯綸紡績會社の社長として、日本染料製造株式會社の監査役を兼ぬ。

同店は七月十日組織を變更して百萬圓の株式會社とし、各種物品の販賣代理仲立業を兼ぬること、せり、而して稻畑勝太郎氏、同二郎、同太郎の三氏取締役に任じ、大中直三氏監査役に就任したり、斯くて其地位格式一段の向上を見たり。

令夫人との間に三女一男あり、令息は目下商業學校に在學中にして、長女は愛婿を迎へて、君が店舗の監督に任ず、君の生涯の如き、全く眞の光榮あるもの也。

染色界の覇者

稻畑勝太郎君

君は嘉永三年神奈川縣に生れ、壯年にして小西商店に於て業務の修得を受け、明治十年の九月、南川家の養子となつたのである、資性高潔且つ廉直であつて、夙に府市の輿望を一身に集め、且つ業界からも重用視された人である。

君が一代の經歷中、最も重要の地位を占めて居るのは、府若くは區の名譽職であつた、抑々君が公事に携はつたのは、明治の初め商法會議所が出來て、澁澤男が會頭で大倉男が副會頭の時代に於て、君は議員となつたのが始めで、引續き商工會議所と改名され明治二十八年今の商業會議所が組織さるゝに及んで、氏は始めて其任を去つたのである。

明治二十九年、君は選まれて區選出東京府會議員となつて、爾來改選數度只の一度も缺けた事なく、大多數を以て當選し明治四十四年迄繼續したのである、之を以ても如何に君が名望家であつたかゝ解るのである、而して一時府會の大勢を左右した三日會なるものは、抑々君が主として設立の任に膺つたのであるが、後會中に幾多慷らぬ人物の跳梁する樣になつたのに得堪へず同年決然として府會を去るに至つたのである、君の名譽職としての閲歷は斯の如く右く其之を去るや斯の如く清きものであつた。

斯の如く長き期間府會にあつて、主として教育の方面に力を致し、更に同年全國の實業視察を了へ、間もなく職を去つたのである、一方區會議員としては、明治二十八年より、大正二年迄前後十九箇年間其椅子を占めて、區政に貢獻すること實に枚擧に遑あらずである、尙區の學務委員として、明治二十五年頃より現今に至るまで、之れ又毎會其選に洩れたることなく、明治二十七年以來、奬兵義會の幹事として會務に盡瘁し、其他衛生協會の理事として二十四年間、現時教育會評議員として尙其職に在る如き、公共事業竝に公共團體に盡瘁したること斯の如し。

更に同業界に對する君の經歷を見んか、明治二十六年以降、繪具染料工業藥品問屋組合頭取、竝に繪具染料商組合の推戴する處となりて、副頭取となり一意之が爲めに力を盡し。今回新に問屋同業組合の興さるゝや、君は中堅となりて其制定に盡瘁し、漸く成立されしより、其組合長を柴田氏に讓つて退き評議員となつたのである。

特に明治三十九年以降は實業聯合會の設けらるゝや、岩出氏會頭星野氏副會頭の後前川氏會頭となるや、君は選ばれて副會頭となり、大正四年に退職をした、斯の如く實業の方面にも、又公共團體の爲めにも、殆ど其の終生を捧げて、盡瘁努力を繼續した公人的功勞ある洵に當代の有志家である。

君は元來主義の人理想の人である、而して更に趣味の人である、君の主義は教育を作興して、嘱て實業振興の先驅となすに在りて、府に於て又區に於て、多年之が爲めに勞を致したのは、畢竟するに此理想を實現せんと努めたのであつた。故に君が東京府市は、君が教育上と實業上の功勞に酬ゆるが爲めに、銀瓶及銀盃を贈呈した事がある。君は一面に於て得難き有志家であると共に、其一面に於ては立派な文人である。君は少壯時代に於て、幕末の儒者芳野金陵氏に就て漢學を學び、續いて平田門下、河原玄齋に國學を修め、更に鈴木重嶺氏に師事して和歌を學び、而して有名なる春秋庵幹雄宗匠と交はり、俳を學ぶと共に和歌を授けたと云ふ一代の先學を師とし立派な學歷を有して居る。

斯の如くにして學は和漢を兼ね、更に敷島之道にも親しみ、且つ風柳をも解する君の人格が、超然として凡俗を拔いて居るのは、主として其深き修養から來たのである、之を以つて見れば、君の如きは只單に商道と云ふ狹い圈内の人として批判を下すには、餘りに大に過ぎる、君の終生の事業は只立脚地を商界に置いた丈で、其頭腦は全く、汎人類の爲めと云ふ、廣汎なる意味に於て働いたものである、されば其功績は、取も直さず社會的、公共的である。

此樣な經歷と修養とを有して居る君は、今や耳順を超へたるも、尙公共の爲に老軀を提げて盡瘁しつゝあるが、其輿望は暗に潛勢力となり、吸收力となつて、業界の中心樞子となつて居る、而かも同店よりは、君が多年の陶冶を經て、現今業界に頭角を現して居る幾多の偉材がある。

曾て本編の發行所たる、藥品新報子は君を評して、『秋の樣な人』と云つた、洵に穿つて居ると思ふ其一節に

『秋の樣な人』……南川福藏君を記者は『秋の樣な人』と言ひたい、秋氣の清爽澄朗なる何人も之に接すれば微の邪念なく些の汚點なく一切萬物を清明の理に包攬し何となく懷しさうな品高い心根を想像することが出來る。

南川福藏君は慥かに好人物として秋の樣な氣分に人が懷ひ寄るべき人物ではない乎、才長けた人は春の人南川の君子然としたシンとした樣な風采態度、秋の人、秋の樣な人慥かに『秋の樣な人』であると思ふ。

清節の人

南川福藏君

明と斷との人

君は慶應三年京都に生る、君の家は由來相當の素封家にして、又古き歴史を有す殷父を小兵衛と稱し、篤實を以て知らる君少年時代より沈思寡默にして、且つ果斷の氣に富む、君一代にして、今日の大成をなせるもの、全く君が先見の明と、性來の果斷とに、基因するに外ならず。由來明智の人は、其見る處人に先んずると雖も、往々にして其行ふ處、遲鈍なるを免れず、而して果斷の人は其行ふ處敏しとも、往々にして、無謀に陷るを免れず、畢竟するに明の人は斷を缺き、斷の人ものあるに拘らず、實弟傳次郎氏をして白耳義のアントワープ市商業學校に入學せしめ、傍ら泰西の商取引を觀察せしむ、斯の如くにして諸般の調査と其準備成るや三十一年遂に宿年の希望を達して、直輸入を開始す、實に業界に於ける直輸入の先驅たり。

君弱冠にして商業に志し、經營苦心自ら悟了する處深く、我商界の未だ多く信を外商に買ふ能はざる時代に於て、敍上の英斷に出づる如き、如何に其先見の明にして、其の行ふ處の斷なる、素より其天

長瀨傳三郎君

資之を然らしめたる處なりと雖も、抑々亦た君が永年の修養此處に至らしめたるに依らずんばあらず。

爾來君の商運は、年と共に隆昌となり、組織を變更して株式會社となし、大阪東區平野町三丁目に本店を、英京倫敦、東京日本橋小舟町二丁目及び京都四條通西洞院西入、神戸京町の樞要地に支店を設け今西貫二氏總支配人として、店務を總括し、紐育倫敦及支那への輸出入は本店輸入部及神戸支店の直轄とし本店は營業部輸入部の外に機械部を增設し、取締役支店長岩田龜次郎氏を東京に、牧野順孝氏を京都に、實弟長瀨傳次郎氏を神戸に、本店輸入部支配人として明路常逹氏、機械部支配人として森田儀一郎氏、本店支配人として森山勇三郎氏を任ず、以上何れも同店の鞠育せる人々にして、特に今西氏は今日に至る迄同店の柱石として專ら外部の折衝に當る、傳次郎氏の新事業創設に對する努力と相俟つて同店の雙璧となす、就中東京支店の岩田氏の如きは、三十年來同店に勤務し、手腕家として店主の信用頗る厚し、同店の使用人は東西を通じて百五十人以上に達し、其資産今や數百萬を超過するに至れり。尙目下支那、露國等支店設置中なり。

君は單に先見の明を以て商機を察し所信定まれば左視右顧する所なく斷々乎として之を行ふのみならず、人を用ふるに於て、亦た非凡の技倆を有せり、第一其人材を登用すること、凡衆の如く感情情實に於てせず克く之を信じ一度用ふれば、大に之に任じて、其手腕才能を發揮せしめて餘蘊なし、近來は其從業員にして中年以上に屬するものは、悉く學校出身者を用ひ、新知識を店内に吸收するに努めたり、而して之に接するや常に寛弘にして、之を仰げば愈々高きの感あらしむるを以て、一度身を君の店舗に奉ずるものの喜んで其命に服し、永く去らざる所以のもの則ち又た君の大を爲せる要素の一なるべし、然も君は業界抑々第一期の成功者にして、君の爲に記念すべき所以のもの、考へ來れば深くして更に大なるものなからざるを得ず、此點に於て特筆せざるべからず。

抑々君の直輸入計畫の擧に出づるや君の一門は大に其前途を危み、切に其止まらんことを勸めしと云ふ、當時若し君にして四圍の事情を憚り、鄕閭の小天地に蹰躇するあらば、假令明智人を凌ぐものありと雖も、今日の如く其家門を興隆し且つ國利を謀ること、遂に望んで得るべきに非ず大凡其過渡期に於て大事をなすもの、皆一度は外間の壓迫と、四圍の嘲笑とに妨げられ、然も其所信を變ぜずして遂行したるの結果たらざるなし、而して其一度失敗に了るや、嘲笑は更に其一身に蝟集して、之に同情するもの少なく一度其事の成るや、毫の嘲笑は變じて直ちに讃賀となり、推賞となる、大凡其離合の定かならざる人生に處し、況んや浮沈定りなき商界に身を置くもの、宜しく君の當年に鑑みる處なかるべからず。

因に取締役社長に長瀨傳三郎氏、取締役に長瀨千尋氏長瀨德太郎氏岩田龜次郎氏就任し、長瀨半二郎今西豐二の兩氏監査役として就任したり。

君尙春秋に富み、意氣益剛なり、今後の活躍に就て尙刮目すべし。

組織的成功者

小西安兵衛君

工業藥品界の覇王として、一代の成功者として、又た商界の長老としての、小西安兵衛君の、光輝ある生涯は、一言以て之を紹介すれば、其順應性の然らしむる處と云はねばならぬ、其傳性と手腕と竝び備つて、然も刻々に移り変りし時代風潮に極めて要領を得た順應をして來たのが、翁の今日ある所以であると思ふと、其所に敬虔なる一種の推重敬服の念が起つて來るのである。

君は弘化四年四月十五日、千葉縣千葉郡濱野在の蕭條たる村落に呱々の聲を揚げた人である、君は嚴父並木源七氏の次男であつて、夙に商賣に志して江戸に出で當時隆盛を極めて居つた、半田治兵衛商店に住込んだのであるが、一通り修養が出來てから 先代小西安松氏の養子となつて、明治八年五月其令孃と華燭の典を擧げたのである、斯くて小西氏が隱居すると共に、其家督を相續し、幼名の金次郎を改めて、安兵衛と改稱し、名實共に同家の主人となつたは、明治十四年の春であつた。

爾來君は多くの子女を擧げた、明治十一年長女おふじと嬢を擧げて以來、續いて四女を設けた、然も君は深くも思ふ處あつて、其長三人に悉く養子をなして、夫々之を一部の擔任に充て、いとも堅固なる商權を、骨肉に依つて確立したのである即ち、其長女おふじと嬢に娶するに、喜兵衛氏を以てし、次女おひさ嬢には安次郎氏を迎へ、三女おのぶ嬢に娶すに艶太氏を以てし、四女おうた嬢には長治郎氏を迎へ斯くして其主業たる工業藥品部は喜兵衛、艶太兩氏之を統括し、肥料部は安次郎、長治郎の兩氏が之を主宰をなし、君は之が總統として寃然として、一個の商業王國が成立したのである。

以上の如く、其家門の繁榮と、隆盛とは、一大異彩を放つて居る、が之も大正三年以降、吾が工業藥品界の、大活躍期に際して、其富の程度は一躍倍額にも乘んとするに至つたのである、君は實に一代の成功兒であると共に、又晩年に於て凡ての計畫に成功した一人である。

此處に改めて君の性格を一瞥するならば擒縱自在な、圓熟した世才以外に、常人の企及すべからざる、所謂如才ないと云ふ特徴を有して居る、但し此特徴が果して成功の要素であつたか否かは素より批評の限ではないが、少くとも衆人の今日迄君に傾服して來たのは、君に此長所があつたからであらう、元來如才ないと云ふ言葉には、語弊もあり、又は世上の誤解もある、何となれば巧言令色鮮仁佞辯もこれ悉く、如才ないと云ふ一語の内に葬り去つて居る、今日の世情の如くであつたならば、人格評價の標準と云ふものは極めて不鮮明なものであつて、動もすれば如才ない人とは、警戒すべき、又排斥すべき人格を加味することになる筈である、君をして如才ない人と云ふ仰景の下に、衆の之に推服措かざる所以のものは此間必ずや己れの赤心を人の腹中に置くの誠意が骨子となつて居るに相違ない、巷間傳ふる處に依れば、君は店へ來る客の小僧であると成人であるとに論なく、盤懃の度に於て、寧ろ小僧に厚くすると云ふは、一般の取沙汰であるが、之も所爾君の如才ないと云ふ、性格の一斑が流露したものではあらうが、此心事には幾多の研究すべき、而して玩味すべき眞理が含まれて居ると思ふ、凡そ人間通有の性情として、甚だしく地位の相違ある人に對しては、必ず先づ卑下して接應するが常である、此時に當りて相手方の言動態度が、有り〳〵と彼と自分との差異を示した時分には、溫厚寛恕の人と雖も必ずや不快の感を起すのである、況んや主角のあるもの、神經質のものは、直ちに不滿の念を起して抗抗の態度に出るのは、日常誰人も經驗しつゝあることである、君は夙に此眞理と人情の機敏とを體得して而して調和よく商略に結び附けたものである、要は唯商業本位である、されば圓滿なる商取引をしようと云ふ以外有ゆる感情の之を妨げざる樣に、異心を用ふるの久しき、遂に第二の天性となつて現れたものが、君の所謂如才ないと云ふ特徴になつたものである。

君は特に封建時代の萎縮した商界に身を託して、間もなく歐風謳歌の時代に處し更に世界的に接觸した時代を經て今日に至つたのであるから、幾多の過渡時代を經過して、其鍛錬の度も又從て深いのである、君の年尙壯なるや、非常の商略を弄んだ人であるが、其老ゆるに從て、溫厚寛容を以て、處世の第一策とする樣になつた、之も畢竟するに、世情の刻々に移ると共に、君の命運も亦須く革まつて來た結果でもあらう。

目下君の携はつて居る實業關係を擧げれば、東洋汽船の監査役、帝國生命取締役、關東酸曹の取締役、中央製紙の取締役、木曾興業鑛山炭鑛東洋硝子樺太工業大瀧銅山等の取締役を兼ねて居る、然も業界は尙之れ以上多くの期待を以てする所以のものは、君の其識見名望の能く業界の重鎭として、千斤に値するものがあるからである、折柄の多事多端なる業界に對し、其變幻たる餘力を以て、より多くの盡瘁を望んで竭まぬものである。

君は岐阜縣郡上郡八幡の人家世々土地の郷士として地頭金森氏遠藤氏及青山子爵の三代に歴仕し苗字帯刀の家格にして食祿も亦豐富なりしが君の先考の代に至りて不幸疲弊し僅に家代々藥種商を繼續して居つたが、明治九年君が二十四歳の時始めて金十五圓を懐にして、東京へ出て當時神田松枝町十八渡邊平八氏に身を寄せて居つた處、間もなく媒介者があつて、或る藥種店へ住込むことゝなつた、之れ君が東京に於ける主取の始であつて、又終りであつた。

斯くて明治十三年七月には、此主家の暇を取つて、愈々獨立の考を起して神田綿町に地を卜して、大枚一圓五十錢と云ふ家賃を契約して借家はしたけれども、其實何等の設備もすることは出來なかつた、時に偶々或る舊藩士の舊友から二十圓を借受けて、幸ひに内十圓を以て雜作を濟し殘る十圓を以て、製藥の原料を買込んだのであつた、元來注意周到な君は洽く適當の井水を求めた結果、遂に斯の如き狹隘な處で我慢をする樣なことになつたのである。

併し此企ては君の爲めには隨分、無謀の樣であつたけれども、抑々成功の端緒をなしたのであつた、斯くて君は薄弱な資本と、經營の難とに戰つて居る矢先、時も時實弟道三郎君が出京して來て、當時の印刷局に身を俸じて傍ら、家兄の事業を專心に補助して呉れた爲めに、此製藥事業も年と共に發達し、今より二十年前現住所たる、本町一丁目に移轉するに至つたのである、此道三郎君は今日では岸家を襲いで居るが、尙且昔を其まゝに依然として兄を補けて居るのは、之れ又一種近時の美談として傳へるの價値がある。

君は恐らくは工業藥品を卓見した先祖であらう、云ふ迄もなく今日でこそ工業藥品は大した勢ひになつて來たけれと、二十年三十年前に於ては一種の藥種商に於て取扱つたものに過ぎなかつた、然るに君は早くも工業の將來を想見して、近く之が獨立の商業となると云ふ事に著眼して當時既に全力を之に傾注し、おさ〳〵將來の準備をしたのであつたが、此先見の明は圖星に中り最近に於ける、工業の進歩に伴つて到頭一個獨特となつたのみならず、今回の戰爭の爲めに、空前の活躍を演じて、至る處に成金を作つたが周到の準備あつた君は、一舉して今回數十萬の巨利を博したのである。

斯う一筆に書いて終へば、君の一生も極めてトン〳〵拍子のやうに見えるけれども、其實既往六十四年の歴史は、全く苦戰惡闘を以て滿されたのである、限りある紙數に於ては到底其一半をも書き盡すことは出來ないけれども、凡そ君が此永き苦闘に耐へて、最後に其目的を達したと云ふには、常倫の及ぶべからざる、性格を具有して居つたからである、君の氣魄と剛愎と努力とは、則ち成功の要素である、如何なる場合に於ても其素志を渝ひないと云ふことゝ、其希望を盡くすに就ての手段の寧ろ果斷に過ぎるのは、或は商人の有すべき著實の德を缺くの憾があらうけれども、明治大正の如き、波瀾重疊の時代に於ては、單に著實の打算のみにては、必ずしも大をなす所以ではない、而して行住座臥常に志を商道に置いて一意專心他に顧みなかつたのも確に君に見るの美點であらう。

君の商業は最近になつて一段の隆盛を極めたものである、先づ諸官衙の得意だけでも、收益の大部分を占めて居るが、得意に對する君の營業振の如きも全く其例を見ない位、誠實と確實とを旨として居る君は此戰亂中に於て少くとも百萬の富を贏ち得べしと期待して居るが、必ず實行される事と信ずる。

尙家庭の人としての君は如何、今や愛娘に婿を迎へて、後圖何等憂ふる所なしと雖も、不幸女婿は天來の手腕家に拘らず、病多くして遂に永眠されたのは、聊か君の老後を悲ひるに缺く處である。

君は夙に錦を故郷に飾り、郷里には土木を興して祖先の家を修め、一郷の羨望する處となりつゝあるが、最近八幡小學校の新築さるゝに當りて正裏兩門と基本金とを寄附したるの廉を以て賞勳局より賞として銀盃を校舍に獻せり

尙君に學ぶべき美點は人情紙の如く商業道德の廢頽した今日君は誓て食言を戒めて居る君の隆盛は少くとも數十年間誠實の賜であつて店員を敎へるにも亦た常に此方針を取つて居られるのは全く他に例を見ないのである

君は斯の如く商道に熱心にして、又公共の事に力を致すを喜ぶ、最後に君に向つて特別の敬意を拂はんとするは、君の後輩を引立つる一事なり凡そ今日の成功者にして、果して後輩の爲めに誘掖の勞を執るもの天下幾人かある、事成れば必ず君は則ち商利を割いて、以て其志を致す事後輩の德として、措かざる處なり、更に近來資本確定の必要を感じ同店を資本金五十萬圓の株式會社となし、平野幾三郎氏社長に、岸道三郎平野豐藏氏常務取締役に、岸孝一郎小菅敏次郎の兩氏監査役に就任し、其基礎愈々鞏固となる。

商人の典型

平野幾三郎君

凡そ偉大なる抱負は、偉大なる信念の上に生ず、古來壯圖雄略を懷いて居た人で確乎不動の信念を有して居ない人はない斯くて信念と抱負とは、其人の人格内容に離るべからざる相對性を有して居ることになる。

而して其抱負の實現は實行力に依るのであつて、其抱負が大なれば大なるほど、强大なる實行力を要する、別言すれば其實行力は、則ち鞏固なる信念の後援に俟たねばならぬことになる。

今此處に月旦せんとする田澤君を一言に評すれば、吾人は抱負に活ける人と云ひたい、凡そ人生の凡ては必ず希望に活きて居る、丁零落魄の人も必ずや何等かの希望に活きて居る、併し乍ら希望なるものは、人間心理上に現影する固有性とも見るべきものであつて、内心に之を欲求するに過ぎないが、自ら能動的に之を計畫し、而して進で其達成を期すべく、積極的の手段を探る抱負なるものとは、大に其趣を異にして居る、則ち希望に活けるものは尙ほ凡俗の域を脱せざるもので抱負に活けるに及んで、始めて其超凡俗であることが解せられるであらう。

田澤君を評して、既に抱負に活ける人と云ふた以上、吾人は其言の根據として、强大なる信念換言すれば自信力と、精悍なる實行力とを有する人たることを信ずるものである、元來異點のあるもの特徴のあるものは、兎角に凡俗界の爲に誤解を受けることがある、而して其誤解にも自らの爲めに、好都合の誤解と而して甚だ迷惑の誤解とがある、されば君が今後如何なる人として社會に俟たるゝかは、一に凡俗界が君を正解すると、將た曲解するとに依つて定まるのである。

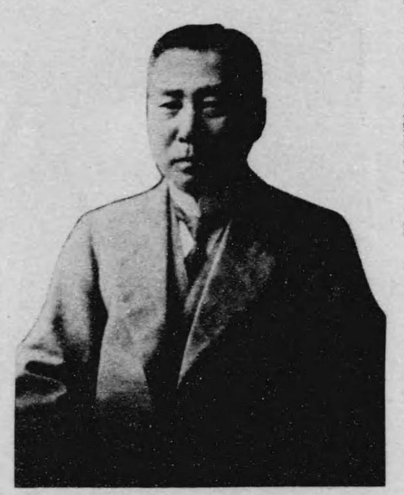
既に君は抱負に活ける人である、燃ゆるが如き信念と、而して澄澈たる其意氣とは恐らくは世俗の毀譽褒貶なぞは、多く心に介すまいと思ふ、寧ろ之等に耳を假さずして斷々乎として、所信の斷行に三昧なるこそ、君の光彩を發揮する捷徑ではなからうか。

君は藥劑師として、今の藥業界でも知識に於ても亦た錚々の一人となつて了つた、吾人は單に此世俗的立身を以て、君を一個立志傳中の人として了ふのは、何となく物足りなく思ふ、東京磁酸の監査役、東洋商事會社の取締、東洋曹達の取締、株式會社程ヶ谷工場の取締、日本機械會社の取締、大正製帽の取締、日本安全油會社の社長、一種の信用錄を編むならば、餘りある材料であらうが、素と之れ君の抱負を實現する道程の迂餘曲折に過ぎなかつたのである。

君が初志とも云ふべきは、其知識竝に經驗を基礎として理想的の製藥を試みんと したのである、本所柳島に於ける三田商會製藥所なるものは、則ち君の理想の實現された一端であつて、其設備から人材の收容から、何人も之を以て理想的のものとして賞讃して居る。

君は技術家として、而して次に商人として、今は儼然たる實業家として、業界に於ても亦た錚々の一人となつて了つた、

抱負に活ける人



田澤又右衛門君

經驗の數頭地を抜いて居るものがある、君が初志とも云ふべきは、其知識竝に經驗を基礎として理想的の製藥を試みんと したのである、本所柳島に於ける三田商會製藥所なるものは、則ち君の理想の實現された一端であつて、其設備から人材の收容から、何人も之を以て理想的のものとして賞讃して居る。

君は技術家として、而して次に商人として、今は儼然たる實業家として、業界に於ても亦た錚々の一人となつて了つた、

しかも君の理想とする處は、決して斯樣な外面的なる而して銅臭的なものではないのである。

暫く君の内面的解剖は措き、少しく其現はれた處に就て觀察せんか、著しく君に認めらるゝのは、社交の才と、談論の雄とである、君が一般實業家及一般商人に比して、一種の潛勢力を有して居る所以のものは、非凡の社交的才氣を有するからであらう、而して同業者が常に君に對して恩顧以外に一目を措く所以のものは其爽快なる辯舌と、理路整然たる談論の企及し難きに依るのではあるまいか。

其識見其抱負而して其信念、實に事業的才幹と相俟つて何等缺如する處はないが强て憎まれ口を云ふならば、君をして今少しく奸黠ならしめたい、君は參謀として申分ない人であるが、其正直なる性格は遂に人を欺き己を欺くことが出來ぬ、故に其信ずる處を云ひ、其信ずを處を行ふに當りて、極めて率直である、併し全體より之を見たならば、此天眞の率直が寧ろ君の光彩を發揮すべき天禀の美なるものであらう。君が柴田商店に對する、商人的情誼なとは、至善を了解する人ならずんば出來ない事である。

君が常に云ふが如く、藥劑師は宜しく其知識を基礎として、製藥界に新機軸を現すべしとは、實に碌々たる藥劑師界に對する頂門の一針であつた、果せる哉君は此主張を實現して、範を天下に示したのである、更に其斬新なる見解として、人材登用にも亦た人と趣を異にし、其從業員中には、高工高商出の人も多く、特に昨春店員西田右壽氏を瑞西バーゼル市に遣し、ガイギー染料製造會社と代理店の契約を締結せしめた如き、右の人材登用と相俟つて、其頭腦の進歩的なるに感服されるのである。

君の家庭は令閨との間に愛娘一人を擧げ家庭頗る圓滿なり特に趣味としては極めて俗的娯樂を遠けて一意事業上又は商業上に一身一家の向上に腐心し其日常は夙に後進青年の模範たるに足るものが多いのである。

斷性の人

岡本市太郎君

君は日本橋區本町一丁目に營業所を有し、今日の隆盛を見るに至つたのであるが其前半生は殆ど異郷に於て商戰を試み各地の風俗人情を解し商道の機微に通じて居ること業界稀に見る人である之素より大阪商人の特質でもあらうけれども君の努力は又格段であつた。

君の令兄は大阪に於て、有數の染料商であつて、令兄と氏との合名組織になつて居つた、君は商人の本場たる大阪に生れ、令兄の事業範圍に入となつたのであつて、一通りの教育を終るなり、何等多くの變化を見ずして、商人としての星霜を經たのである、曾て令兄が手廣く、各地に向つて販路を擴げた爲めに、大分に賣懸代金が固定したのであるが、就中東京は最も多かつた爲めに、明治三十五六年頃君は初めて此の賣懸金整理の爲めに、東京に派遣されたのである、處が屢々商人が苦い經驗を嘗めるが如く、矢張り同君も忽ち此回收困難に遭遇して、整理の實を擧げることが六箇しくなつたので、兎に角東京に何か一つ根據地を設けて本店よりの交渉接觸は、一先づ之を經由することゝしたならば、斯の如き苦痛を減ずるであらうと云ふので歸來直ちに令兄に謀つて、愈々東京に支店を設けることにした、之が即ち同店の今日ある、抑々の動機であつたの當時君は二十七八の青年であつたのである。

斯の如くにして支店は設けられ、君は丁度支店長の樣な姿で、一通りの賣懸金回收を片附けたが、支店が緒に就くと、間もなく君は店員に事務を一任して、大阪に歸つて了つた、當時令兄も甚だ、其放任なのを咎めたが、强て再び出京を命ずるでもなく、令兄自身が東京に出張して、大阪本店と半々に、事務を見ることゝし、君は專ら本店にあつて、販賣を專門にして居つた、而して近畿關西凡そ足跡の到らざるなく、極めて眞面目に、販賣に從事して居つたが、思ふに君として本當の商道の眞味を知り、其懸引上の謄略を養つたのは此當時の修養宜しきを得た結果であらうと思ふ。

斯うして居る中に、令兄も相應寄る年波に、本店支店を懸持ちに煩雜な事務を見るのが轉た懶くなつて來たので、君をして專心東京方面を受持たせやうと云ふ考を起して、先づ其序幕としては、東京支店を獨立させやうと云ふことになつて、昨年六月初めて君は同店の主となつたのである、君は斯の如くにして、始めて東京に獨立の店舗を持つたのである。順序として一樣君の性格を語らねばならぬが、君の特長は一の果斷にあるのであつて、今日迄の性行の上にも往々にして、此鋭鋒が現はれて居る、故に平常事なきに當つては、悠々迫らず第一に、此支店に就て譜代の臣とも云はれる、馬場氏の性行に信頼して、一切の事を依託してあるのみならず、日常の營業事項は悉く現在店員の合議に一任して、自分は其元を緊つて、小事に動せんと云ふ極めて下腹に力のある、所謂斷性の人である、故に意氣一度向つて來ると往々人の意表に出る樣な振舞が多い。然も君が此性格が日常の細事のみならず、商道の上にも發揮されて來るのであつた。

右樣の次第であるから、君は動もすれば現狀に慊たらん傾がある、破天荒の發展か、但しは局面展開か、何等かの動機に於て、異常の革新をすることは、君の寧ろ趣味とする處である、故に今日迄も屢々他人の思ひ及ばぬ思惑的行動をも執り、令兄の勘氣に觸れたことも、一再にして止まらなかつた、君は今日何を夢想し何を計畫して居るかも知らないが、頗る其平面に於て、何等かの用意あるものゝ如く見える。

目下の樣に商界の大變動を來した時には、君の性格としては、或る程度の果斷を試みたからうが、君が人に語る處を見ると、只單に時局に對して愼重に警戒して居る許りでなく、今や正に君は四十年の男壯りで、而も思想が漸々老熟に傾きかけて來て、往年の如く意氣の動くがまゝに直に英斷に出ると云ふことをせなくなつたに外ならぬと思はれる、其商家に生れ商家に人と爲り、而して其間相應に人情の苦味酸味を嘗め盡して、今日に至つた君が、商人として最も重要な果斷性に富んで居るのは、君が才商として大に前途ある所以である、

由來斷性の人は、動ともすると圭角が外に現れて、人情世界に立つに於ては、往々詰らん排斥を受けるものであるが、道に多年人に接して、苦勞をした人丈に、家人店員に接するに於ても、極めて溫和を旨として居るので、其家庭と云ひ、店舗と云ひ春陽に接するの感がある、吾々は今日に於て、必ずしも君の前途を卜する丈の識見と、材料とを持たないけれども、失禮乍ら半成の域にある君は到底此まゝに、十年同一の運命圈を廻つて終る人でないこと丈を斷言して憚らぬのである。

折柄の染料界の大變動は、時局終熄の後に於て必ずや志あるものゝ乘ずべき機會である、氏は大正六年八月、支店を獨立して令資會社となし、自ら無限責任社員として依然經營の衝に當りつゝあり。

大阪市東區北久太郎町二丁目松浦染料店の當主松浦房造氏は、江州伊吹山麓柏原村龜屋左京氏の三男である、元來松浦家とは親戚であつた、十四歳の時に京都の伯父の方に養子として行くことになつたが、商人となるには修業が大切であるから、直ちに店員の間に伍して、小僧同樣の格で働くことゝなり、斯くて廿三歳迄他の店員と共に、一通りの辛酸を嘗め、將來の相續人として今日に至つたのである。

君の商運は先代孝七氏時代より大に發展されて、君の代となつて一層の發展を見るに至つたのである、最近本店は合名會社組織となり、東京京都名古屋に各々支店を設置し、東西市場に活躍して居る。

大阪本店は富田八郎氏專ら之を支配し、京都は吉田久之助氏支配人として之を總べ、名古屋は松浦良平氏、東京は山本源次郎氏支配人に、何れも卓拔の手腕と犀利の頭腦とを以つて、內外の重望を擅にして居る、時局以來、彼の千載一遇の好機會に乘じて、社運をして一段の面目を高めしめたるの功績は、當主松浦氏が非常の商人的技能を有して居つたからでもあらうが、抑々亦以上樞要の地位を占めて居る支配人諸子の、應變の商才與つて力あることを閑却すべからずである。

同店が刻下業界に於て有する地位、並に信用の如き、今更事新らしげに縷說するの必要はないが、立志傳中の一人者たる君の天賦の特性を觀察するならば、其頭腦の級密なる、而して計算的能力の發達せる、當に商人としての必須の資格を具有したものであらう。機に臨み變に應じ施す處の商略は、總て其精密の觀察から透過して、精確なる數字に依つて打算されるのであるから、今日迄の商戰に於て差したる遺算を生じなかつたのは、蓋し此天禀の然らしむる處であらう。

加ふるに君は餘程强烈なる果斷性に富んで居る、成算一度なるや、凡衆の如く決して左視右指を許さない、決然として斷行すること常に人の意表に出づるのである然も其果斷は盲進にはあらずして、一度は其先天性の消化を受けて、一定の成算となりたる後の實行であるから、百發百中に非ずとするも、不慮の悔を貽すが如きは萬々なきに庶幾いのである。

大凡以上の如く、特有の發達をなした人は、必ずや己を以て人を揺るの風があつて、人を用ふるの術に至つては、蓋し至らざる處あるを常とするが、君に於ては之と全然傳を殊にして、非常に人を用ふるの妙諦を得て居る、君の成功すべき資質中此特性は蓋し其第一位に居るものであらう。一度君の指揮下に屬したものは其周到の注意と、至らざるなき溫情とに觸れて、知らず識らずの間に、牽き附けられて、勞を惜まざるに至る、之も亦た好んでなさんとするも能はず、言ひ換ふれば一種の德である、古來商人のみならず、苟も人の幹となつて、一事一業を成すものは、必ず人を率ふるの妙處を具有して居る、君の內外に重望ある所以のも、聞なきに非ずである。

八面完備せる

松浦房造君

最後に今一つ君の偉大なる德行を擧ぐるならば、慈善心に富んで居る事である、固より多勢の人を用ひて居る、君の地位より觀ても、慈善心の必要は云ふ迄もない事であるが、之も亦た自ら企てゝ到底行ふべからざるものである、君が人を用ふるの妙と云ふも、必ずしも權謀譎詐、徒に籠絡の術に長けて居る計りではなく所謂其妙所の半以上は、人心の機微に觸るべき慈善心の反映とも見ることが出來る吾人は曾て之を父老に聞く、由來君の鄕里たる柏原附近一帶は天惠少なく、細民其生を繫ぐに於て、勞力の甚だしきを他鄕に見ざる所なりと、從て堅忍不拔の人を出すこと素より其所ならんか、斯の如きの地に於て、百歳慰むなき無緣の靈多きは免る能はざる所なり、君後近大に啓儻の情に堪えず、幾多無緣の精靈を弔ふべく、其鄕里に碑を建設し之か維持費として相當の田園を給し、同時に一門及び從業者の重なるものゝ爲めに生前墓石を設けたりと云ふ、誰か之を以て奇憐の行と云ふや、打算的の人にして、然も如何に具さに物の哀れを知れるかを想像するに足るべし。

之を要するに君は商人として殆ど全き資格を具有せりと云ふべきである、更に關西商人として殆んど眞個の特色を發揮して居る、而して敍上幾多の德性は一個の好紳士として、更に志ある紳士として、之を江湖に紹介し、之を後昆に傳ふるの價値を有して居る、物質的の成功のみを以て、商人成功の能事とした時代は既に過ぎ去つたのである、所謂近江商人も、亦た君の如きを得て、始めて天下の誤解を釋くを得るであらうか。

君家庭の人として、令閨との間に三男二女を擧げて居る、長男孝造次男松造三男德造、長女福子次女淺子、共に健在であつて、家門の爲めに慶賀すべき事である。君廿三歳其家督を嗣て以來、僅に十年餘を閱するのみ、然も先代の志を續いで一門の興隆此處に至らしめたのは、須く孝の大なるものである。年齡僅に三十七前途に望を屬すべきである。

日本橋區油町繪具染料工業藥品商下田嘉右衛門君は、少壯實業家として其名聲は同業者間に嘖々たるものであるが、何しろ同君の店は、同君の先代が元治元年、即ち今より五十年前に於て、通油町に開店し同君は廿八歳の時に其家督を嗣いで今日に至つたのであるから、其境遇上には大した變遷がなく、寧ろ幸福の部類に入るべき人であるが、其主業たる今の繪の具染料塗料工業藥品なとは全然往年の商道とは其趣を異にして、一面科學の進歩と相俟つて發達したので、丁度氏が家督を嗣いで以來、始めて此商道に多大の知識と經驗を要するに至つたのである。

△併し氏は素より科學上の知識を以て、重きをなして居るものではない此新進の知識を要すべき、商賣に處して、常に其進歩に先だち、時流に率先して、最も機敏に而して潰漏なき商策の下に、常に商利を全ふして、益其家運を開拓すると共に、同物界にも重きを爲して來たのである、之れ吾人が氏を以て江戸ッ子的才商として推賞する所以である。

△元來才氣潑溂たる人物には動もすれば周密の注意を缺いて、常に失敗を招くが、同君は其活潑なる商才に加ふるに、周密の注意を有して居るが故に、半生未だ些の蹉跌を見なかつたのである曩に繪具染料工業藥品商組合は氏を推して組合の會計としたは誠に其人を得たるの措置であると共に、同君の器の一斑を知り得べきである。

△以上は單に商人として、又個人としての同君の素質を紹介したに過ぎぬが、同君には之れ以外更に人の主人として大に見るべき一種の美點を具有して居る、それは何であるかと云ふと、人を推服せしめるの德と、人を用ふるの妙を心得て居る、團十郎と雖も一人では迚も芝居は打てない世の中である、如何に商才があつても、又如何に個人として智慧分別があつても、人を推服せしめ人を用ふるの德がなかつたならば、迚も大を成すことは出來ない、此點は於て氏は比較的順流に掉さして來た人に似氣なく、非常に解つた主人としての特徴を持つて居る、それ以上の樣な缺點が少しもない、同君は飽く迄も此繪具染料工業藥品を以て、自分の天職と心得、十年一日の如く渝る處がないと云ふのが、商人として申分のない性質と云はねばならぬ。

△奈翁は王位を好むよりも、寧ろ戰爭を好んだものである、奈翁の成功は則ち、戰の嗜好から來て居る、今一面的觀察ではあるが、同君は非常なる商賣好きであるが、同君の商賣好きは少くとも其嗜好の

江戸ッ子的才商

下田嘉右衛門君

かあらぬか同君の店員は、一樣に此店と生死を共にしようと云つた風の心懸を以て、勤續して居る、誠に探つて以て他の範とするに足るものがある。

△一般の才人と云ふ肌の人に就て觀察して見ると、何としても其才氣に任じて、動もすれば甲から乙、乙から丙と仕事を變更して、只營利の跡を追ふが爲めに、終生大なる成功を見ることが出來ない人が多い、然るに才人としての同君には、全部でないとするも、其大部分である、如何に才氣があつても、又資本の後援があつても、其商賣に趣味を有たなかつたならば、長日月の間に順序ある成功の出來るものでない、同君の此商賣に趣味を持つて居るのは、決して先人の事業であるからと云ふ。お義理的の辛抱でなく、洵に天成の商人としての素質を具有して居るからである。

△加之も同君は、尙未だ春秋に富んで居る、假りに人間の時代を三分して見ると三十八歳の同君は正に活動時代に入つたのである、漸次潑溂たる鋒鋩は影を收めて、思慮も亦之より老熟して來て、基礎あり、根據ある仕事は、之より氏の手を假りて出來るであらうと思ふ、吾人は餘り同君の將來に就て多くを調るの資格はないが、同君は少くとも、今日の健康を持續したならば、將來大に成すあるの人であることは、云ふ迄もない、其先人の事業を嗣いで、今日に至つたのは、氏としては先づ準備時代であつたのである。

△推されて、同業組合の評議員となつてゐるのに就いては、一面から云ふならば同業者の爲めに非常に慶福すべき事柄である、第一同君の事業は社會の人文に非常に重要な關係があつて、加之も之より將に全盛を極めんとする工業界に對して一大活躍を試みねばならぬ立場に在りながら、從來は餘り社會上に重きをなさず却つて有りふれた製造業などが重きをなして居つた、今同の戰亂に就いて輸入杜絶の爲めに、我工業界が初めて、目が醒めた矢先、斯界の才商たる同君が同業組合に公の椅子を有しゐるのは確に斯業界の進歩に資する處大なることを信ずる。

△同君は以上の如く、先人の愛子として其事業を嗣ぎ、主人として店舗に重きをなし、才商として同業者間に重要視され來つたが、何れもそは個人として、其歴史を飾つたに過ぎぬが、即ち公共の爲め及び斯業界の爲めに之より活躍すべき使命を帶びたのである。希くは其天成の才氣と其奇慧を以て、益々商界の爲に努力せん事を望んで止まぬのである。

都下繪具染料工業藥品商として、最も普遍的に其名を知られたる、日本橋區伊勢町鱗與商店は、野田與兵衛氏の創設に係るものにして、而して同店が今日の隆昌を招きたるもの全く岩佐氏父子同胞が一門全力を其發展に貢獻したるの結果たらずんばあらず。

現代業務擔當社員、岩佐源次郎氏は、先代善兵衛氏の次男なり、善兵衛氏は最も當初より現主佐野氏を扶けて、同店の商勢を開拓したる人にして、人となり誠實にして能く商事に勵み、一店の經營自ら責任の衝に當り、屢々大難に遭遇するも毫も自ら屈せず、全く主公並に店舗の犧牲となりて、同店今日の基礎を成したるものにして、其操行實に一般店員の模範とすべきもの多く、幾度か其筋の旌表する處となりしなり。

實に善兵衛氏は斯の如く、一個の忠良なる支配人なりしのみならず、天資慧敏にして、頗る利殖の能に長じ、能く機を察し變に應じて、同店をして同業競爭の間に優者たらしめたるのみならず、亦能く機を制し、變に處して自ら商利を收め一個人として優に子孫の爲めに產を成す實に珍しき人格者にして能者たりしなり。されば佐野氏をして一箇の寶玉ならしめば、善兵衛氏は實に彫琢の工者なり、然も最も誠意ある工者たりしなり、而して同家を扞護すべく儘に己一箇一代を以て自ら滿てりとせず、進んで子孫をして其任を繼がしめ、其一代の功勞をして永遠に不朽ならしめんとするゝ共に、主從の緣由をして尙長一に繼續せんとするの姿心より、悉く君の子弟をして同店に從事せしめたり、明治三十七年同店が組織を變更せられて合資會社となるや、君の長男藤次郎氏は業務擔當社員として、同店經營の衝に當る。

由來同店は主として和製染料を取扱ひたるものなるも三十七年以降、時代の進化に順應して更に化學染料をも取扱ふこととなし、獨逸カセラ染料會社の日本特約店を引受け、專ら其販路の擴張に努力したり、爾來其計畫は日と共に效果を擧げ

主義の繼紹者

岩佐源次郎君

以上の如く本店は全く君が父子苦心の結晶に依りて今日を致せるものにして、君の今日や實に責任の重且大なるものあるなり、君の曩に本店に入るや、尙野田氏の個人經營時代にして、業界は尙未だ平凡なる景氣を繰返し、然も日露戰後頻年不況に陷り、幾多の倒產者日に業界に現れ、人心頗る恟々たるの間に處し、或は合資組織に贊して其施設を扶け、且つ此現代の如き輕佻浮薄の迹を見ざるは、凡そ君が父兄の方針を確立することの忠なりしに由るものたるを看取するに足るべし、斯くて君亦能く父兄の志を紹ぎ、苟も蹉跌せざらんことに意を用ふること切なるものあり、是を以て之を觀るも同店が今後幾多の波瀾に遭遇し、夥多の曲折を迚ることあるも、君が健在は以て意を强ふするに足るものあらん。

君天資醇良、溫厚にして、謙抑人に下る、其春秋尙遙に富み、前途に向つて未だ吾人の何等斷定を須ふる能はざるべしと雖も、後年の有力者として心窃に期待せしひるに足るものあり。

君は其年齒の壯なるに似ず、多くの俗的趣味を有せず、一定商圈を擴大し、業礎を確立し、以て累代立功の迹を意義あらしめんとする眞面目なる志操に至りては吾人の最も敬服に値する處なり、世間君一門の毀譽褒貶定まりなしと雖も、凡そ精神、物質、兩方面に於て苟も成功せるものにして、褒貶竟び有せざるものや幾人かある、吾人は君が一門の如き古風の律義を現代化して、範を天下の商人に現示する處あらんことを求むるものなり、君が家庭は令閨との外一男一女あり、家門亦春の如しと云ふ。

業況漸く隆昌して、同店の商道は此處に其面目を一新することゝなれり。

岩佐源次郎君(現業務擔當社員)は明治十六年一月を以て東京に生る、小學教育を卒るや即ち父兄に從つて同店に入り、專ら商事の見習に任じ、頗る誠忠勤恪して今日に至りたるが、大正六年業務擔當社員にして君の實兄たる藤次郎氏病を獲て長逝せらるゝに及び、其迹を襲いで擔當社員となり、本店經營の中心人物となる。

綱繆の任を分ち、凡ゆる斯業の苦痛を嘗盡して今日に至りたるに徵し、今や重きを雙肩に擔ふて經營の衝に當る。

同店の取引先は野田氏の個人經營時代に於て既に夙く擴大せられつゝありしものにして、最近に於て更に一層の頻繁を招致したるなり、其市內は勿論關西關東兩市場を通じて、其取引特に夥しく、東北一帶、北越、信州一圓等は全く其圈內にして、其商圈の鞏固なる點に於て寧ろ他老舗と遜色を見ざるなり。

若し夫れ之を其經營方法の上より見れば同店は必ずしも、最新の迹を趁ふに專らなるものに非ず、近次此種の商店が、自己の信用と內容とに顧慮せず、少しく商勢の擴大するあれば、直ちに其羽翼を擴げて、機關を增大し只管大を衒はざるもの果して幾何がある、同店は全く是等と其選を異にし、能く當初の計畫を尊重し、現代の如き輕佻浮薄の迹を見ざるは、凡そ君が父兄の方針を確立することの忠なりしに由るものたるを看取するに足るべし、斯くて君亦能く父兄の志を紹ぎ、苟も蹉跌せざらんことに意を用ふること切なるものあり、是を以て之を觀るも同店が今後幾多の波瀾に遭遇し、夥多の曲折を迚ることあるも、君が健在は以て意を强ふするに足るものあらん。

君天資醇良、溫厚にして、謙抑人に下る、其春秋尙遙に富み、前途に向つて未だ吾人の何等斷定を須ふる能はざるべしと雖も、後年の有力者として心窃に期待せしひるに足るものあり。

君は其年齒の壯なるに似ず、多くの俗的趣味を有せず、一定商圈を擴大し、業礎を確立し、以て累代立功の迹を意義あらしめんとする眞面目なる志操に至りては吾人の最も敬服に値する處なり、世間君一門の毀譽褒貶定まりなしと雖も、凡そ精神、物質、兩方面に於て苟も成功せるものにして、褒貶竟び有せざるものや幾人かある、吾人は君が一門の如き古風の律義を現代化して、範を天下の商人に現示する處あらんことを求むるものなり、君が家庭は令閨との外一男一女あり、家門亦春の如しと云ふ。

江戸生粋の稜々たる意氣と、公平冷靜なる其の感情、一點の圭角なき其溫顏とは斯界長老の一人として、推重せらるゝ細井喜助翁に兼備せる天成の美德である。然も君は隱れたる一箇の有德者には非ずして、既往幾十年間其美德は、常に業界凡ての方面に向つて、極めて多くの敎訓を與へ、行く處として尊敬を買ひ得たるものなり、事業又は資本の其れ以外に於て、確に斯界の一大重寶たりとなす。

君は十二歲にして、初めて小西安兵衞商店に入る、時正に明治六七年の頃ならん則ち三代安兵衞氏の晩年の頃にして、四代目安兵衞則ち今の安兵衞氏は、君の入店以後一二年にして入婚したるなり。

斯くて君は現主安兵衞氏に仕へて、十有餘年極めて勵精に勤續し、高橋庄太郎、山田太郎助氏等の先輩に伍して、專心商道の研究に從事し、明治二十四五年の頃君年三十歲にして、主家を退き、當時通番頭としての住宅なりし、住吉町の居宅に於て、獨立の商店を開始し、而して今日に至れるなり。

抑々君の幼少商家に志したるは、今更云ふ迄もなき事乍ら、當時の染料及工業藥品界は、極めて平凡なるものにして、後年同業が萬丈の波瀾を擧げて、商業界に雄飛するに想倒すれば、殆と隔世の感なからんとするも得ず、君が獨立以降は、逐年業界は面目を一新し、從て其商道も往昔と其趣を異にするに至れるも其商界を活步し、而して悖らず誤らざるの修養は、全く君が永年其主家に於て、鍛錬したるの賜にして、同時に其人格德風も亦此時代に於ける修養の結果たらずんばあらず

業界の緊縮力

細井喜助君

當時に於ける業界の狀態は敍上の如し、而して此間に於て、世態は文明の過渡期に際し、歐風崇拜主義は我社會を風靡して、一般に新を求むるに之れ急なるもの あり、是に於てか祖先の事業を拋ち、其家憲を無視して、滔々として新來の潮流を逐へるもの商家の大半を以て數ふ、君の如きも亦た實に此危險なる、過渡期に於て獨立の自由を得たるものにして、取て偶然ではない。

爾來業界に何事かあるに付けて君は常に幹事として內に翼贊せられしが爲め起らんとしたる風波も事無く收まりたると一再にして足らず所謂威在つて猛からず言はずして人服するもの世上稀に見る處にして吾人は偶々其活ける典型を君に於て目の當り之を見たり其克く斯の如きを得たるもの之を要するに君の天眞なりと雖も抑々亦半生四十餘年間の修養之を然らしめたるに依る。

凡そ人生は如何なる階級如何なる社會を問はず新進氣銳縱橫の才を有する者常に其中堅となりて全體を指揮し魅導し以て現狀を打破し氣運を促進せしむるに似たるも然も一度其內部に入りて仔細に其機能を査覈すれば老成の人常に其隱れたる邊りに於て一個調節の任に當らざることなし明治維新以降政治の交革と云ひ實業の振興と云ひ悉く青壯年者に依りて行れたる事實は蔽ふべからず之も其裏面には常に長老の手綱を携へて加減揭酌其宜しきを得たるに依らざるなし君の如きは譬ふれば我業界の調節機關として隱れたる功績も亦少なからず從て業界の期待する處も亦斯の如かるべきを思ふ君は確に其資格に於て缺點なき人なり。

洵に君は善良なる性格を備へらるゝと同時に獨自の地步に稜々たる意氣あるは又君の一大特色にして、且つは業界後輩の敎訓として傳ふべき事なりとす。

東京商人の大阪商人と異なる點は英國商風の獨逸商風に異ると比して若しも東京商人の特質を棄て、阪地商人の或る半面をのみ憧憬するが如きことあらば、異國の商風を破壞して獨逸商風を模したる英國人の愚を笑はんとすると同一なり、英國人の今に尊敬せらるゝ所以のものは、英國人の地步は如何に他の何者が之れに輸せんとして變せられぬ處にあり。英國人が其の商風を維持して渝變らざるが如く東京商人の一大特色を維持するに細井長老の如きを我業界に得たるを喜ばざるべからず。

溫顏なる、感情の平靜なる、公平以て持せらるゝ獨自稜々の氣品、一步は一步より進み、一事は一事より果して倦むことなく、營々として業界の一路を步み、遂に四十餘年間一日の如く今日に到りしは光榮ある業界の長老なりと謂はざるを得ず、其後業務の發展に伴ひ、六年九月日本橋區小舟町一ノ八長瀨商店隣に移轉し其商況亦一段の伸展を呈しつゝあり。

君は嘉永五年を以て大阪の藏屋敷に生れた人である、後に有名な白井染料店へ奉公をして一通り染料に關する知識も得、又相當其商道に就ても、研鑽をしたのであつた。

處が君は心窃かに期する處あつて、二十一歲の時に東京へ出で、渡邊利八商店へ住込んで、相變らず精勤辛抱を凝したが不幸中途にして、同店が沒落したので、其後君は初めて獨立し、而して今日に至つたのである。

扨同君の修業時代と云つても、未だ明治の初年の事であつて、同業者は只古來から有り來つた物品を鬻いで居つた丈の事で、此營業が將來如何樣に發展するか、又後日如何なる地步を占むるかと云ふ事は、最も未だ未知數に屬して、一片篤實の商法を以て、上乘とせられた時代であつたから、其商業上の變遷發達の活劇は寧ろ君が獨立後の事であつた。

是に於て君に對しては、二樣の觀察をせなければならぬ、兎に角君は明治時代の文物變遷に從て、巧に商人としての地步を築き上げ、而して此方面に成功した事と、自身大阪に生れて人と爲り、而して永き東京生活の間に、其悉くが全く東京に同化し、純然たる東京風の商人としての典型を造り上げた、二大事實は君の爲めに閑却することの出來ない觀察點である。抑々松村福松翁とし云へば、業界は勿論其德望は他の業界に迄も及んで、東京商人中にも相當に意味ある地步を占めるに至つたのは、畢竟するに以上の二大事實が其主たるものであつたに相違ない。其から更に今一步觀察を進めるならば、

斯界の長老

松村福松君

君が今日斯界の長老として、衆望を一身に集めて居る、特徵の其輪廓が極めて不鮮明な一事である、換言すれば其輪廓の不鮮明な處が、則ち人物として大なる處であつて、人を服し、人を從へ、又人を懷け、人を治むる唯一の利器である、誰人を以て翁を批評させても、之を手腕家と云ふ人もなく、策士とするものもなく、物質的成功者とする人もなく、又頭腦の人とする人もないけれども、兎に角長老松村翁も亦斯の如く、今日翁自身を中堅として、必ずしも大革新は行はれなかつたであらうけれども、翁の存在に依つて、幾多の紛擾も未發に防ぎ、幾多の改良進步も瞑々の裡に出來たのである。

上來述べ來つた如く、實は東京風の美點を、尙其まゝに醇化して、自己の人格と調節した人であるが、一面に於て之れ又大に東京商界を練磨するのである、近年東京の變遷に伴ひ、所謂大江戸の美風なるものは漸次退化し、消滅して、一種の新植民地風になる傾がある、敢て東京風を以て、必ずしも商人の上乘なるものとは云はぬけれども、美點は之を保護するの必要がある、君は其醇化された人格を以て、今日迄幾十百人の商人を養成して之れを社會に出して居る、而して君の家を母店として今日獨立して居る人々は、少くとも君の薰陶によりて、皆夫々大江戸商人としての餘風を存して居る、而して同時に異口同音に、君を以て侵すべからざる長老として、崇敬して居る處は、宛として是れ斯界の權威であらう。

溫厚篤實と云ふ言葉は事實に於て刻下は濫用せられて居る、因循姑息な人も、無氣力の人も、皆一樣に溫厚篤實を以て評せられるが、抑々溫厚と云ひ篤實と云ふも、畢竟するに、人格運用の形式にして一片外面の觀察を以て之を明知する能はず君の如き則ち之を以て事實人を服し人を化す、此評の當れる好個の範なるべし。

君家庭の人として、又最も清福あり、三男二女を有し、長男福太郎、次男松之助、三男金三郎、共に君が店舗に勤勵して、絕えて君の名聲を辱かしめず、特に松之助氏は兵役を卒へて、歸來君の主業に服す、君の長女は令婿を迎へて目下本所に在り、令妹又同じく新郎を迎へて、目下君の店舗に在りと。

明治十一年君の獨立以來、此處に三十有九年、其事業商勢人格共に漸進して今日あるを致す、君今や老いて、多くの前途を有さずと雖も、君が六十年來の鴻業と其德望とは、君が養ひたる幾多の人を通して永く其主義精神を後代に傳來せしむるものがあらう、既往數十年來只利殖を以て商人の唯一信條となせる社會に對し、人格の修養を不言の間に感得せしめたる君の日常は、今後我商業道德吹の上に、引例すべき第一人者なりと云はねばならぬ、今や業界は漸く、覺醒して今後大に發展せんとする時に當りて、君の如き人格者の斯界に長老たるは、全く斯界の福音である、吾人は此意味に於て切に君の健在を祈るものである。

君は明治十八年大阪に生る、君の家世々書肆たりしが、年少笈を負ふて京都に遊學し、尙東京に在ること數年にして家に歸りて家業を扶く、偶々にして其隣家水野家の先代嗣子なく、且つ烱眼にして君の資性凡ならざるを看取し、切に乞ふて其嗣とせんことを求め、君遂に其情誼に動かされて入つて姓を冒す。

水野家の先代捨吉氏は、今より卅年前見る所ありて其主業たる砂糖商を廢して染料業を創始し頗る堅實に經營し來りしが卅六年氏の長逝と共に、君年齢僅に十八にして其遺業を嗣ぎ、專ら家運の興隆に心を碎き、夙夜奮鬪しつゝありしが、其功空しからずして幾何もなく面目を一新し同業中斬然として頭角を現すに至り、人をして其先代の明察に推服せしめたり。

君の事業をして斯の如く其の發展を速ならしめたる最大の近因は、十年前外人ハグマンと提携して獨逸ダール會社の製品の一手販賣をなせるに基因す、越て大正三年歐洲戰亂の勃發後同業界に幾多の成功兒を出したるも、其機略縱横にして忽ち蘆儕を拔いて一擧躍進せるもの君の如き恐くは無類なるべく、今や新進の壯年手腕家として關西に於ける同業者中確に一方の驍將たり、現今の商舗は大阪市に於ける商業の中心にして四通八達なる堺筋唐物町通りを選びて、舊舗を移せしものにして近年更に尾張一ノ宮に分店を設け兩つ乍ら盛運の途に向へり。

君資性沈毅寡默にして、一見快濶磊落の如しと雖も、一度接すれば其半面には露然たる溫情を有し、一旦相結べる人にして急あるを聞くや必ず赴いて之を救ひ庇護至らざるなく、然も售恩の色を以て人に臨まず、又之を世に衒ふの風なし、故に其義俠善行の世に顯れざるもの頗る多し、されば君を德として寢ぬるに足を向けざるもの少しとせず、其他社會公共の志篤くして曾て名利を求むることなくして能く之に盡す、其風格他に多くの比を見ざるなり。

曾て　今上陛下御即位の大典に際し、其古來よりの式典の彩色として柑子色其他數種の色彩を制定せらるゝや、一般世人の明白に此の色彩の如何なるものなりやに通曉するもの尠少なるのみならず、適々其色彩を知るものありと雖も、果して如何なる染料と染料とを配合して之を得るやに至りては、之を詳かにするもの甚だ少なかりしが、君や當時種々苦心の結果遂に最とも適當なる配合を發見して、直ちに染色の一雜誌に其顚末を揭げて世に公表したるより店員其他二三の人々は

水野準之助君

隱德義俠の人

君を以て餘りに射利に迂なりとなし、若し其調合を祕して自家商店の特技とせば其利益する處甚だ多かるべきを說き、切に其殘部の發表を制止したるも、君言下に之を斥けて曰く

「我等は　陛下の赤子として千載一遇の佳節に遇ふ斯の如き少些事は宜しく之を社會國家に捧げて國恩の萬分の一に酬へざるべからず、之を以て一個の收利を策せんとするが如きは、斷じて臣子の爲す

余が贊同を表して出陳したるも亦其意に外ならず、之を以て自己の利を貪らんとするが如きは余の取らざる處なり、利を得んとせば宜しく他に多くの機會あらんと」其公に篤く私に淡なる概ね斯の如し。

又大正六年大阪繪具染料商重要物產組合設置の議の如き、君實に發企者の急先鋒にして、殆ど自家の業を廢し寢食を忘れて實行委員として之に奔走し、一意同業者の向上發展に力を致し、其身の利害を省みざるが如き、其心事の高潔にして寬宏なるを知るに足るべし。

上來記せる處を以て少くとも其の面目の一班を窺ふに足るべし君や外貌毫々落々の人にして、眞實陽春の如き溫情の人なり、斯くて其趣味も亦自ら兩方面を有せるものに似たり、其の自ら運轉手の免許狀を受けて、自ら自働車を操縱して市街を疾走する處、又居室の楯間に太刀山の描ける扁額を揭げて泰然として端座するを見れば少くとも運動又は競技等男性的の趣味を抱持しつゝあるを知るに難からず、然も一度入りて家庭の人とならんか其雄々しき奮鬪の武者振りは忽ち轉じてすべて團欒の主人公となり、莞爾として其得意の技たるヴァイオリンを奏し、以て自ら慰めつゝあり、君や又近時十三絃の和琴を彈じ、頗る熱心に研究しつゝあれは遠からずして妙技梁上の塵を動かすものあるべし、出てゝは牙籌の間に奮鬪し、入つては風柳に親しむ、何等の情趣ぞ酒地肉林の外自ら慰るを知らざる當代の紳緒正に學ぶ處あつて可なり。

幸に國家の爲めに其の健在を祈るものなり。

君は岐阜縣惠那郡岩村の人、君の先代は松平能登守の藩士にして、君は嘉永五年江戸屋敷に生る、幼にして維新の革命に逢ひ、君の一門は罹災を除くの外、悉く鄕里に歸り、十三歲の時初めて上京し、所謂上屋敷に於て、大原少將の使用人となり、續いて摩藩置縣の當時、新富町に整理事務所の設けらるゝや君も亦之に從事して、忽窮かに風雲の到來を俟つたのであつた。

思ふに當時は、武士の土地人民を支配するの權を失ひ、官人のみ獨り權勢を擅にした時であつたから、恐くは君も亦少くとも風雲に乘じて一身の榮達を計らんとの希望であつたらうが、深く信ずる處あつて、愈々商人として身を立て樣と決心したのである。

當時日本橋區長谷川町に、太物商沼田萬兵衛と云ふ店があつた、君は此店へ住込んで懸命に修業して居つた處、君の十八歲の時に、不幸にして同店は沒落して了つたのである、然る所同年同町に蔦屋平兵衛と云ふ店から、君に手傳ひを求めたので、君は取敢へず同店に勤務して居つたが、當時君の店で取扱つて居つた、綾は之を本職の手に掛ると、一反七匁(今の十一錢)位の工賃を取られるが、素人に渡すと云ふと二錢又は三錢位の低價で出來ると云ふ事を研究して、少なからず同家の爲に盡瘁したものである。

君は當時尙は年少にも拘らず、斯の如く商才に富んで居つて、且つ貨殖の才に長じて居つた、斯くて十九の時に此店を退いて高砂町石藏新道始めて家を持ち、太物仲買を初めたのである。所が太物商として君は重に裏地を多く取扱つた者であるから自然染料との緣故が深くなり、開業後五六年にして、染料商となつたのである。然るに中途一度業界の不況に逢ひ、貸賣は悉く固定して、回收全く不能となり、一時休業して店務の整理をすると云ふ悲境に沈淪したのであるが、幸にして明治十八年には全部の整理が出來て、再び開業することゝなつた、今度君は前回の蹉跌に鑑みて、貸賣を嚴禁することゝして、二度目の旅揚をしたのが、則ち現住所橘町であつた、當時君は今の家屋を七十圓前後で手に入れたけれとも、失敗の曉として一時に入金が出來ず、月賦にした位であつた、加之何等豐富の資金としてもなかつたから、僅に空藏を併べて、店の體裁を作つて、苦戰惡鬪を經續したのである。君は一方に斯の如く苦痛窮乏を忍び一方に於て盛に得意の開拓に努めた、結果頹勢は漸次に盛り返して、業境は自然に順調になるのみならず、其後當時

近藤賢一君

順調に闘へる人

何人も未だ用ひなかつた、化學染料の正紺染を用ひて、江湖の信憑を博し、僅の間に之を以て一廉の資本を得るに至つた。爾來君の商況は、比較的順調に發達して遂に此千載一遇の好機會に逢ふて、莫大の利益を上げたのである、然も幾遲なる君は長き此苦辛に依つて、今日の運命を拓ち得たとは、蔽ふべからざる事實であるが、之を以て一切天與の祉福として毫も功を己れに歸さないさうである、君は令閨との間に二男二女を擧げた、然も君は長男德太郎君をして染料店の商務一切を任し其他三人をして悉く自立せしめて居る、而して夫れが悉く呉服屋である、先づ次男が水天宮前通りに於て、長女が本鄕弓町櫻木天神前に於て、次女が本鄕淺嘉町に於て、同じく立花屋の屋號を名乘つて孰れも隆盛を極めて居る、君が此樣な一種獨特な處置を取つたのは、一は君が最初手を染めた商業を記念すべく、二つには君の實驗が好個の指導者として、又好箇の監督者として、最も安全な資格を有つて居るからでもあらう。

之を要するに、君は健實なる奮鬪家であつて、又一種の幸運兒である、其資性淳直、溫厚であつて、商人としては最も適材である、抑も君の品性の他力本願は本體の信仰じやないが輪廓の信仰としては結構至極である君が淡々として水の如く己が今日の地歩を他力なりとするは君の德、君が松平能登守の舊士であるの面影だと思ふて偲ぶよすがとはなる、而も今の君は輪廓の信仰を捨てゝ本體の信仰に進まねばならぬ、否君許りではない、日本の產業家は幾時まで他力に座して居られよう、什麼しても跳ね反りの必要があるのである。

吾輩は我染料界が決して今日の儘ではゐぬと思ふ、今日の如く混濁たる狀態は決して永い期間ではないと思ふ、先づ今暫らくは靜思沈默の時代であらうが、歐洲大亂の終熄後に於ては、果して業界に如何なる變調が來るか、之れ今日に於て大に留意せねばならぬ所であつて、此時代に餘程有用なる資料を得て置かねばならぬと考へるのである。

君の水の如く淡々たる風格を思ふと同時に我染料界の少くも表面に於ける悠揚たる風潮を愛せずにはゐられない。

君は今や立派な相續者を得て、店舗の萬般に任じ、君は溫顏を能理に藏し中心の栄を配しつゝ、三軍萬馬の陣營として、更に確實健全なるものとなさしめつゝあるのである。

斯く淡々たる水の樣な君の前途に更に如上の希望を重ねたいと思ふのである。

君は明治四年府下千住に生る、少くして商道に志し十九歳より二十一歳迄横濱松村商店に勤めて、繪具染料工業藥品に關する一通りの知識を得て明治二十二年同店を去り、以來北海道小樽に於て、商業を營んで居つた、處が日露戦役間際に於て、非常の不況を喰つて、業況意の如くならず、其より上京して、馬喰町二丁目に店を開いて、繪具染料工業藥品及織物用澱粉の販賣に從事し、今回の好機會に於て少なからざる大利を博し、組織を變更して一大合名會社となす。

君は斯の如く商道を中心として、甚だ多方面の人である、故に君を單に既往の商人としての經歴の上から許り觀察しても到底君の全幅を見ることが出來ないのである、凡そ市井の人としては其精神的生活の廣況なること稀れに見る處である君は實に趣味、研究、求道の人であつて君の天才と精力とは、遂に何れの方面に於ても、翳然として各々一家を成さしめたのである。

『頌の人』として吾人は豐田喜助君を觀察したいと思ふ、頃、青年實業家、新進家の諸君が、業界諸元老などの思ひ及ばぬ程自箇修養の尊さに食ひ込んで、幾多の波氣の裡に大なる角度に向つて跳ね返らんとする態度あるは非常に嬉しく思つてゐる底力のある元氣を藏して、嬉て大なる跳ね返りに向つて備へつゝある態度注意に敬服する。

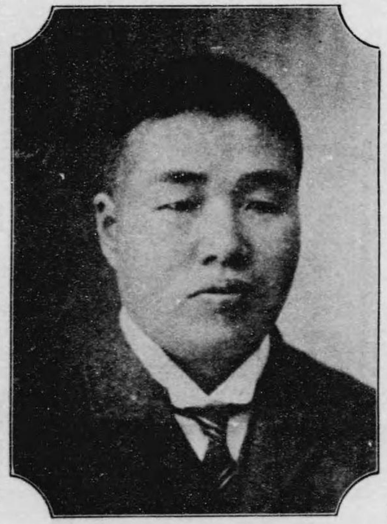
豐田喜助君の如きも正にそれだ、一箇の自己の店舗の傳襲性、同業間の一種傳襲的商風に超然たる處があるのは洵に敬服する、私の愛顧者當間安太郎君、少からず尊敬しつゝある脇與藏君などの親友であるのも奇縁である、脇與藏君は人も識る如く本町藥種商間の一異人である、當間君は我が塗料商界の飛將であるのは吾輩の據言ではない。

一體此の三者は共に合資會社松村商店出身で、三者の夫々に各特徴の發揮があると同時に非常に親密な間柄で、殊に面白いのは三者間に一種の『肯の作法』があることである、暗默の間自他共に相許す處あるは面白い、而して三者共に感情の上に超然たる偉風のあるのは、東京商界の感情八分、理論二分の有様なるに對して洵に偉とし壯とせねばならぬ。

豐田君は多藝多趣の人である、多藝多趣と云ふと日本人は妙な考へを持つが、豐田君の推賞すべき美性は實に此の多藝多趣なる君本來の性質を、君の明確なる反能性に訴へて、自覺作用を經た處にあると思ふ。

君は正風派の俳句人である、君は實生流の謠曲家である、君は一時參禪の人でもあつた、佛教には深い研究をせられてゐる、而かも俳諧師とならず、能役者ともならず、野狐禪ともならず、佛者ともならずと云ふ處に君の本領がある、君は帝國民として、生産的働きの人として、精進しつゝあるのである。

君は洵に消化力の強い人で、君の多藝多趣を他の消化力の弱い人にやらせたなれば、胃擴張を起して仕舞ふのである。



肯きの人

豐田喜助君

君は謠曲の素人大家で、商賣にせぬうちは矢張り素人であると云ふまでの素人で立派な商賣人素足だけの腕前は慥かにあるのである。

殊に謠曲道に對しては非常な愚人であると云はねばならぬ。二三年前の議會に能樂保護案が出た、兩院は立派に通過して年に十萬圓の補助金が日本能學會に下りた、十萬圓の政府補助があつて音樂學校内に日本能學會ある、今日を致したのは君等の盡力である君は謠曲をやると同時に立派な演藝保護論者になつて仕舞つたと同時に其實行家になつてゐる、一片只能學を樂むと云ふ以外に君には其一事に對して立派なる保護論を持すると、同時に其實行を策してゐる、世の暗愚者流と其面目を殊にする一般は是の一事でも解ると思ふ、君は恁ふ云つてゐるのである……謠曲愛好者には堂上貴族の方々が澤山あるのですが御當人は謠曲の保護せざるべからざるは御存知であるが、さて金と云ふことになると彼の三太夫先生が家憲の家法のと云ふてウヅがゆい樣ですよ什麽しても我々商人がやらねば駄目です……殊に精神修養の方面に到つては君は法華修者で日蓮の精力主義に歸依する多大であることは世の佛者と少々異つてゐる精化主義是れは君の元氣で消化力で、嬉て多藝多趣なる君をして胃擴張たらしめず敢て時風に超然たる所である、中野武營氏の長息岩太君に師事し、謠曲を樂みつゝある如きは素人謠曲家の本領を發揮して面白い、今の處君の商賣は工業用澱粉が一等得意な商品である家庭に於ては三男四女の父である、大阪商風の大いに學ぶべきを感せらるゝと同時に長男を廢學せしめて大阪に遣はしたる如きは君の性情の一面であると思ふ。

之を要するに獨り商工業のみならず一般の文化は、其國民の消化中如何に依つて其國の文野が岐れるのである、一口に業界の進歩とか革新とか云ふけれども、大多數の人が、之を消化し體得することが出來なければ、進歩も發達も遂に期することが出來ない。

洵に我が業界に君の如き、消化力強大なる『肯の人』の多からんことを欲して止まない。

日本橋區濱戸物町繪具染料工業藥品商黑田市之助商店は、先代市之助氏が明治十八年八月二日の創業に係り、三十有餘年の歳月を閲し、其間年と共に發展して今日の盛況を致したるものなり。

先代黑田氏は越ヶ谷の人頗る豪放不羈にして、青壯時代は氣を以て往々長者を凌ぐ、年齢十二三にして日本橋區の鉅商平田喜十郎商店の店僮となり、頗る長年月在勤したるものなるが、性來の豪放磊落は時折人の意表に出づる振舞をなし。

一時の評判男なりしが中年に至るに及んで、大に自ら悟る處あり、居を淺草にトして氷屋を營まんと志したるも、之が營業には少くとも數金豈に開店設備に要する費用の準備なかるべからず、然るに氏は半錢の貯を有せざりしより、此處に氏生の我を折りて、舊主平田氏を訪ひ平素の不始末を陳謝し且つ其開業に就て一臂の援助を求めたり、當時平田氏は言下に之を拒絶し、『斯る頽瑣の商賣は素より汝の性格に伴はず宜しく方針を轉じて他の營業をなすべし、幸にして汝が妻は人心を收ひるに能あり』と案外の挨拶に氏も亦悄然として去れり。

是に於てか氏は心中大に舊主の言を記し、宜しく今より大に奮發する處あるべしと堅く心に決する處あり、是より意を決して始めて繪具染料工業藥品商に志し、舊朋輩の援助に依りて、南川商店より若干の商品を借受け、明治十八年八月二日淺草黑舟町五番地に獨立開店し、日日の賣上を以て必ず南川商店に納金し徐々に其商運を開拓したる當時の判取こそ實に同家創業當時を記念する好個の重寶なり。

斯くて氏は日夜勵精し間もなく正紺染を發明して江湖の愛用する處となり、五年の後には相當の基礎を開拓し、取引先の信用も亦た漸次に增大するに至るや、不幸にして祝融の見舞ふ處となり、類燒の災に罹りしが、豪放なる氏に似氣なく平素の用意周到にして、家財商品一切を非常準備を施せる井戸の中に投じ其賣一品をも燒失せざりしより衆其奇智に感じた

理想の守成者

黑田市之助君

策を獻し、債權者を訪ふて叩頭哀請すること一再ならざりしと云ふ、其至誠想見するに餘りあり。

現主市之助氏は明治五年下野足利郡北鄕村に生る板橋半次郎氏の四男にして、明治十九年父に伴れて上京し、其翌二十年一月三日同店に入りて始て店僮となれるなり、爾來氏の創業期に際して氏と勞苦を共にし恪勤十年一日の如く、加ふるに溫厚にして悃篤なる性格は頗る氏の屬目策を獻し、債權者を訪ふて叩頭哀請すること一再ならざりしと云ふ、其至誠想見するに餘りあり。

現主市之助氏は明治五年下野足利郡北鄕村に生る板橋半次郎氏の四男にして、明治十九年父に伴れて上京し、其翌二十年一月三日同店に入りて始て店僮となれるなり、爾來氏の創業期に際して氏と勞苦を共にし恪勤十年一日の如く、加ふるに溫厚にして悃篤なる性格は頗る氏の屬目するに至るや、其間氏の性格の豪放は何時も店員に對しても或は峻嚴を極め、一度怒れば眼中一物を止めざることゝして君の如きも、隨分堪へ難き場合に際會したるありしも、何時も善良なる調停者となり、同業得意に對しても艶曲なる社交振りを以て常に事なからしめたるは今の未亡人則ち氏の令閨なりしなり、未亡人は斯くて黑田家をして今日あらしめたる功勞の殊勳者たりしなり、而して君の長ずるや端なくも結婚の議あるに際し思慮ある氏は夙に舊主平田家の二女を娶すの方寸を定めたり、蓋し氏自身は主從の關係あるが故に疎ならずと雖も、氏百年の後に於ては或は人情漸次薄からんことを思へるが爲なりと、君亦其意を知るや大に諒として之を迎ふ今の令閨則ち是なりと、兩つ乍ら美談と云ふべし氏は大正五年六十五歳を以て長逝せらる。

君亦深く先代意のある處を體し、平田氏を見ること子の如く百般の援護至らざるなし、如之知友の急あれば必ず赴て之を救ひ、創業上の恩人たる南川家に對しては常に所謂足にして枕せざる謝恩の意を表して、一片輕佻の迹なし、特に同店出身者を以て五日會を組織し、以て舊緣の繼續を謀りしが如き智德兼ね備へたるを見るべし、業界君を以て義俠慈仁の君子人と云ふ蓋し故ある哉。

今や店員十數名を有し、敍上の外荒物を兼ぬるが故に年中商況に閑散なく、其多忙なる瀬戸物町附近の一偉觀なり、開戦以來の好況に乘じて巨額の利得を擧げ其資産も亦た今や大に增大し、今や越ヶ谷は先代が長息たるの故を以て分家とし、君は當主市郎左衛門氏を輔佐し、未亡人（女母）の爲めに別莊を設け、數十石の作米の納入ある地所の管理等、其の老後を慰むべきに遺憾なき準備を了し、凡そ人の嗣として一點間然するところを見ざるの用意には、君を知るものゝ齊しく感ずる處なり。

若し夫れ一度去つて君が店舗の出身者を訪はゞ君の人格は則ち知らる。

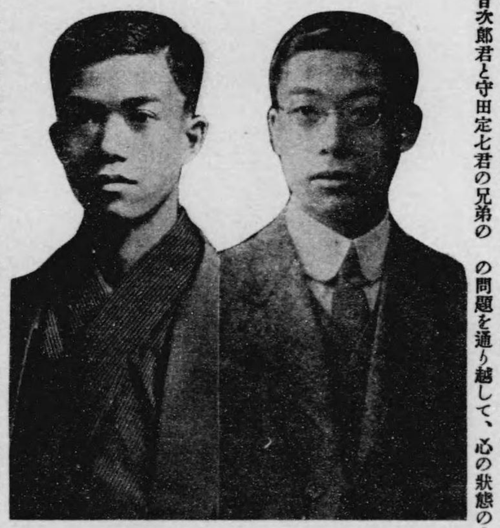
正木音次郎君と、守田定七君とは、寧ろ異名同人、二身一體、然も最も前途春秋に富める人々である、先代の守田定七と云ふ人は柴田の藤兵衛さんが仲介人で守田家へ養子となられたので、今に柴田家とは親類の交際をしてゐる、松村福松さんと一處に横濱の桂屋に居た人らしい、故に先代と松村福松翁とは友人否親友であるらしい、明治三十七年二月の頃、丁度今の店が新築最中に逝去せられたのだ先代の養子に守田家に入られない前の名は正木音次郎と云はれた、其處で長男を正木の名目にして置いた、處が突然の死であるから長男を元に復して守田定七を襲がしむることが出來なく遂に二男をして守田定七と改名して合名會社組織となし業務擔當社員として正木音次郎君が一際采を配してゐらるゝ譯である、丁度十八の時慶應大學の豫科時代に廢學して業務擔當の人となつた

一時音次郎君の姉君に當る人と母君とで幼少な音次郎君の佐輔役をしてゐたのである、次男の守田定七君は慶應の理財科を卒業して今では正木音次郎君と俱に兄弟仲睦まじく業務を執つて居る、實に斯界の一美事たるを失はぬ守田商店は斯く青年者の經營によつて業界に生氣を吐くと俱に恐しく健實な營業振りは主人が青年者である丈け一異彩を放つて面白い。

一體東京の商店の健實と云ふ奴は土藏の薄暗い處で大福帳と白眼みッコをして居ればよいものゝ樣に考へられてゐたものだが時代はドン〳〵走つて行く今ではそんな弊見は少なくなつて來たがまだ隨分ある、吾輩が守田商店の營業振りを健實なりと云ふのは此の意味ではない、本社の運動會の時に是非小僧衆を出席させて呉れと云ふと直ちに快諾された、舊を忘れず新を離れずと云ふ態度の裡に守田商店の健實な營業振りはあるのである、舊弊な嫌に格張つた奴に限つて小僧を運動會抔に出さぬものだ

先代は餘程子福者であつた、長女の方と當主正木音次郎君と守田定七君の兄弟の

希望に滿てる



守田定七君　正木音次郎君

さねばならぬ

斯く守田商店は青年商店として和氣に充ち、元氣を包みつゝ一歩々々健實なる進行をなしつゝあるのである

一態『青年』と云ふことは歳の若い人の名詞で老人に對する二十歳位ゐから三十前後の人の總稱であるは勿論だが吾輩達の云ふ『青年』なる言葉の意味は歳の多少抔の問題を通り越して、心の狀態の上からなる

由來日本の社會には、長者尊敬に伴ふ一種の弊害がある、老成者は兎角青年の爲す處を危み、餘りに警戒し過ぎる爲めに遂に無意味の干渉をする、其一方に於て青年は、事々に責任ある地位を避けて、妄に老成人に依頼する風がある、之が單に長者尊敬の禮意から來るならば、或る程度迄は稱揚すべき事であるが、現在の樣であつては、徒に青年の自立自任の氣象を殺ぎ、徒に老人の冷水を甘受せねばならぬことゝなつて了ふ。

青年は前途の希望に活き、老人は僅に過去に依つて慰む、其精神生活狀態に於て到底霄壤の差のみでないが、此兩者が事實に於て今少しく折衷されたならば、我社會は面白く改造が出來やうと思ふ、之には青年の發奮が勿論必要であるが、老人の反省も亦肝要である。

正木守田の兩君が、紅顔の青年を以て一店舗の主人公として切廻して居る、之をしも舊弊な老人者流に見せたならば、明日にも潰れさうに感じるであらう、併し乍ら吾々をして云はしむれば、過去を省みて慰む底の老人の店よりも、其處に花やかな色彩と偉大なる活動の背景が現れて、如何にも床しく頼母しい感じがするのである、

試に見よ百二十五歳説で有名な大隈伯は慥に其齢七十にして其精神生活は尙青年である、伯の當代に重きをなすは主として此點にあると思ふ、今兩君は心身共に青年である、事業史成功史から云ふならば、無論未成品であるが、未成品であるだけ夫れだけ永き前途を有して居る。

外に家にあつて通學勉强してゐるのがヨノ子、ヒサ子、正三郎、四郎、彌之助、エイ子と都合八人の兄弟姉妹である、兄弟の仲は實によろしい、洵に和氣藹々たりとは此事を云のであらうと思はれる樣である

山本萬藏氏は此青年主人の傍にありて君候遺愛の繼子と事業とを輔佐しつゝあるのであると云ふべきで其人を得たるを敬

老人になると陷り易い老人弊から離脱して、其處に一種の若い〳〵時代の香を幾時までも續けて、次に〳〵逐ひ來る歳月の波を越して越へて、若く〳〵而して幾時までも若くありたい、『死』はさうしてゐる間に降つて來やう湧いて來やう、只天與の人生を元氣に充して有意義な生涯を送りたいと願ふ心の祈り……その心を『青年』と云ふ二字で現はしたいのである

近時東京染料工業藥品商中に嘖々の名ある大竹商店は、當主幸助氏の創立にして、其今日に至る實に君一代の功業なり其年齢を問へば未だ僅に三十九、少しく其閲歴を聞く又一興ならずとせず。

君は明治十三年一月二十八日、淺草田圃加藤邸に生る、六歳淺草小學校初等六級に入り、八歳學校の改革に因り、尋常二年に編入され、故ありて一先退學し江西私塾に入りて學ぶ處ありしが、翌年嚴君の創立せる新谷尋常高等小學校に入る、君年十三の時嚴君病を獲て半身不隨となり已むなく退學して家道を助くることゝなれり、君の少年時代は實に斯の如く、數奇參差を極めたり。

當時君の志の那邊に在りしかは之を知らずと雖も、當初新に高賈を以て其身を立て家を興さんと志し、染料工業藥品商として根據を其生地たる淺草に置き、黽勉勵精一意地盤の開拓に努力したりしが、大正三年歐亂勃發し、輸入杜絶と共に我染料界が未曾有の好況を呈するや、君は此機會に乘じて縱横に奔走し、著々地歩を進めて商況月と共に面目を一新し、大正五年二月には日本橋區小舟町に出張所を設け、更に一段の活躍を試みたり。

此前後に於ては君は努力勵精、市内及地方に亘りて頗る廣汎なる高圏を領有し來りしより、此處に愈々之が統一を圖るの必要を生じたるより、日本橋區小舟町に於ける從來出張店の稱號を廢し、折柄淺草新谷町の本店が頗る狹溢なると、且つ地の利を得ざるより、小舟町出張所を以て營業所となし、淺草本店を閉鎖し、斯の如くにして營業方面の整理を斷行し更に一方には府下北豐島郡岩崎町舊豐島特產會社の資產事業一切を讓受け、大竹工業所と命名し全く工業營業の二方面を截然分離し、同工業所には引續き從來のアンリン染料、中間染料幷に捺染の外新進の染料研究を繼續しつゝあり、而して其發祥の地たる淺草新谷町の本店は大正六年十月五日限り閉鎖して自宅を上根岸百十二番地に移し、其業況に對して一

膨脹性の人

大竹幸助君

何分此工業は君自身相應の經驗と手腕とを有するのみならず、時代は當に染色の勃興を促進しつゝあることゝて、同業界の重なる人々は大概之に贊意を表しつゝあれば、株の公募をなすと否とに拘らず不日會社の成立を見るに至るべし。

之を要するに此處數年間は實に君が能力の最高潮時代なりしなり、其發展の迹極めて速かなりしは、此處十數年來顯著したる積實の極めて長足なる能率を以て君は一個强烈なる膨脹性を有す、則ち其觸るゝものをして悉く膨脹せしめずんば罷まず、古來發展性の人往々にして、集結に志ざすに遑なく折角の功業をして尾大不掉に終らしむるもの少らず、然れども君には一方に極めて緊張せる統一力を有せり、故に君の膨脹性に對しては、多くの杞憂を要せざるべきを思ふものなり、世俗以て君を達辯宏辭の人とする所以、氣骨稜々の人とする所以、必ずしも轉八方に宜しき人とする所以、必ずしも之を以て君の全部を道破したるものに非ず、其達辯なるは君の天才の一部のみ、氣骨の稜角あるは君の性格のみ、而して圓轉八方に宜しきは、自己の中心生命を損はざらんとする君が處生上の注意のみ、膨脹性は實に君の生命の全部にして又體なるべく、統一性は正に其用なるべし、世上事を誤るもの體在つて用貧しく、用餘り在つて體なきものに多し、此體用兩つ乍ら比較的程好く兼ね備へたる君の前途に向つて、吾人は一種の期待なからんとするも得ざるなり。

試に今譬つて君事業を一瞥すれば、其商圏は今や擴大して東京並に大阪、及兩毛方面に亘りて、其實力將に老舗を凌がんとす、今後君が平面的に關西若くは東北に發展を策するか、但しは空間的に事業界に向つて其豐富の經驗を實行するかは、固より門外漢の窺知し得べき處に非るも、吾人は君が其二つの中孰れか一つを選びものに相違なきを確信し時の推移と共に、一種の期待を以て矚目せんとするものなり、此意味に於て切に其自愛を望む。

大革新を斷行したり。

斯くて大正七年五月、其業況益々段盛に、其基礎漸く牢乎なるものあるより、更に大竹商店の組織を變更して、資本金二十萬圓の株式會社となし、一切の商業及事業をして法人の下に所轄することゝなしたり。

君は更に最近に於て資本金五十萬圓の東京染色株式會社の創立を企て、自ら發企人として業界の賛成を求めたりしが、伸展し來りたるにも依るべしと雖も、抑々亦君が千載一遇の好機を逸せず、斷行其宜しきを得たるの結果たらずんばあらざるなり。

世上に於ける君の毀譽褒貶は固より區區なり。然も吾人の看る處を以てせば、君は機警にして頗る經濟に富めるの人なり、換言すれば決して現狀に滿足することなきの人なり、更に切言すれば終生君は滿足を知ることなきの人なるべし

日本橋區鐵砲町田中半兵衛氏は、繪具染料工業藥品商として、市内に於て比較的古き履歴を有する店舗なり、當主半兵衛氏は年齢僅に廿二歳の青年にして、日夕店員の間に伍して、一家の經營に任しつゝあり。

君は不幸、年僅に五歳にして嚴父を喪ひ七歳にして襲名せるものなるが、普通教育を卒ゑて、中央商業學校に入り、十八歳卒業と同時に、親しく店務を見ることゝなれり、其家庭は母キミ子、弟誠治郎氏の兩人にして、令弟は目下早稻田大學に就學中なり、

抑々人生の幸不幸は素より比較上の問題にして、又主觀的に屬するもの多し、從て外觀を以て、直ちに之を卜することゝ能はざるも、最も冷靜に之を客觀すれば、君の如きは、人生第一期に於て極めて不幸にして又危險なる運命の航路を通過したるものなりとす、累代の名門が多く崩壞の厄に逢ふは、當主夭死の後に多し、則ち其嗣子の尚幼冲なるの時に當りて、奸人邪を逞うして、未亡人に臨み、以て竭蔘の慾を擅にすること世間其例に乏しからず、君は慈父を喪ふて以來十有七年最も恐るべき一家興廢の險惡期に於て、尚能く祖先の業を全うすることを得たるは偏に君が慈母の賢明と耐忍の偉大なりしに想像して、此處に感謝の念なからざるを得ざると同時に、君が親戚故舊の如何に誠意を以て、家門の擁護に助力するの厚かしかを見るに足る。

現代の識者なるものは徒に孤獨の性格を私議す、畢竟するに、女性の手にのみ養はれたるものは、往々にして意志薄弱にして、感情のみ發達し、剛健嚴明の人となるものの少しとの見解より來れる斷定に外ならざるも、古來の偉人傑士中、其の兩親の孰れかを喪へるものは、統計に於て早く父を喪へるものに多し、其未亡人にして一文不知の婦人ならしめば、或は心操の何等見るべき所なきの人ならしめば、或は不知不識の間に、其感化を受けて、所謂不肖なる凡兒を生ずるも固より其所ならん、苟も凛乎たる一片の心操ある女性ならしめば、遺子の未來は寧ろ平

田中半兵衛君

必ず前途あるる

以上の如く極めて古き歴史を有し、且つ小賣商店としては。大阪の繪安、名古屋の澤十、東京の丸内は殆を屈指のものとして業界に重きをなしたるものなり、然るに近年業績の上ると共に、其高圏も亦擴大せられ、從て店舗の資格も亦向上するに至りしを以て、漸次小賣を謝絶するの已むなきに至れり、一方歴史を回顧すれば小賣として發達したる歴史と華客を有し、今一朝にして悉く之を失ふは、情實に於て又利害關係に於て忍びざる處に

小川厚一君

に經ざる君が、既に早く商人としての妙諦を暗んじて、一廉の如才なき青年商賈となれること、更に常に時代の進運に省みて、健實持久毫も輕佻の跡なき事父祖の遺業を重じて恭儉自ら持すること及び向上心の旺なる事最も進歩的の頭腦を有せる事等を列擧せざるべからず。

僅に弱冠を超えたる君を拉し來つて、其人物を解剖せんとするが如きは蓋し早計なり、何となれば一個の人物としては寧ろ餘りに多くの未來を有するが故に其將來をトするの、却つて老成者よりも多くの興味あるを開却する能はず、元來商人社會の特有性として、其如才なきものを求むることは至極容易なり、如才なき人を以て只管有望の人とするは、餘りに淺薄の所見なりとす、然も今日青年商業家の多くは勤もすれば如才を以て、商人處世の武器となして、向上心の魔醉せる甚だしきものあり、又偶々之ありと雖も多くは、新進の知識に乏しく、從て進歩せる著眼に缺如するもの多し、吾人は敍上の理由に於て、一兎にも角にも、未來の商人として、君に多くの望を屬せんとするものあり。

君の店舗は十二名の店員を雇ひ、市内七分地方三分の商圏を有せり、然も君が商人として其陣頭に立つや、天は直ちに切磋の好機會を君に附與したり、大戦亂の波及は、業界未だ曾つて經驗せざる、大波瀾を釀し、以て得易からざるの商人的修養を得せしめたるや知るべきのみ、今後緊張せる商界に立ちて、益々修養する處あらしめば其前途頗る期待さるべきものあらん。

君は元と尾張の人、明治四年を以て生る夙に武人たらんことを志し、明治二十年出京して修學すること前後三年、苦學大に心身を損したるも、然も武人以外の修學は素より其志に非ず、頗る取捨に惑ひたりしが、幾何もなくして、病の冒す處となり、前後一年空しく恨を抱いて、病院の人となり、藥餌を友として、辟肉の嘆を喞つの已なきに至りぬ。

此間に於て君の同輩は、各々向上し榮進するあり、血氣頗る逸るも、既に健康を損ひ、時機を失したる君は、此處に愈武人たらんとするの志を飜さゞるを得ざるに至れり、轍ち商業生活に入るべく先づ大阪に赴き、道修町小西儀助氏に身を寄せ、世の所謂中年奉公なるものに入れり、之れ寔に君が商人生活の初歩なりき其後幾何もなくして日清の役起り、偶〻小西氏の糧食御用達を命せらるゝや、君親しく其衝に當りて、夙夜具さに辛酸を嘗め、以て此大任を全うしたりしが、幸にして中途君の發議は容認せられて、戰爭終局前に手を收め、遂に主家をして後難を免れしむることを得たり。

翌二十九年に至るや、君が家族を養ふべく到底御店者としての薄給に甘ずる能はず、且つは當時更に大に感ずる處ありて遂に同店を辭し、偶知人某氏の北濱に株式仲買店を設くるを幸ひ、其店員として日夕慘憺たる市場の間に馳驅して、具さに人生の苦味酸味を咀嚼したり、然るに居ること三年餘、君の店主は不幸にして、一朝の蹉跌に遇ひ倒産の悲境に沈淪したるより更に之が整理に從事し、三箇月の後漸く整理の緒に就くを得たるより、始めて辭して、紐育生命保險會社の廣島支部創設に聘せられて、此創業期に處すること半歳、然も到底出資多くして堪ゆる處に非ざるを知るや、又之を辭して舊主小西儀助氏の東京支店創設に際し、再び同家の聘する處となりて、始めて東京の商界に活躍することを得たり。

君の東京生活に移るや、最も其印象を深からしめたるものは、其人情の敦厚なる而して比較的商業道德の堅固なるに在りしなり、君が支店閉鎖の事變に遇ふや、元と之れ薄給の身にして、財の貯ふるものなく、更に家憲冒すべからずして、舊主の援助なし、然も僅に數百金を以て獨立の開業を試みたるは、無謀にも一大快心の英斷にてありしなり、古諺に云ふが如く一人之を捨つれば、一人必ず拾ふと情誼に厚き幾多の同業は、君の獨立開業に對して、衷心より之に同情し、或は商品の供給を甘諾し、或は特に其商品を購入し、時としては前金を與へて、其運轉を援くる等、期せずして君の業礎は日に益々衆固と擴大とを加へたり、今尚ほ君が當時を偲びて、其情誼ありし人々を語るに聞けば、田中半兵衛氏當間安太郎氏渡邊雄藏氏飯塚仁兵衛氏小西安兵衛氏小西新兵衛氏等は東京に於て小林桂助氏は横濱に於て又春元合資會社は大阪に於て、實に絶大の援助を君に與へたるものにして、君頗る之を德とし、今日の福祉を以て一に敍上の人々に得たる賚なりと

晩成の人

しが如く、君が各地に馳驅して未だ嘗て經驗せざる妙趣を感じ、即ち其身を委するの地は、先づ東京を措て、之を他に求め得べからずと感せしめたり、君は斯くて最も愉快に、而して眞摯に前後四年一日の如く店務に盡瘁したりしが、不幸にして小西氏は、四圏の事情之を許さずして東京支店を閉鎖するに至れり、實に君が年齢三十七歳の時なりし。

然れとも小西支店の閉鎖は、實に君が發祥の時機にして、又獨立の一大動機なりなして、感謝措かざるは又實に業界の一美談なり。

爾來君の努力は年々に其效を奏し、歳を追ふて其業績を上げ來れり、然るに偶大正三年歐洲戰亂の勃發するや、染料工業藥品界は、此處に萬丈の波瀾を誘起し所謂隨所一夜大盡の簇出する間に處して君は極めて沈著の態度を捨てず、悠々として、故に牛歩を學びて、一念其本據を失はざらんことに努め、實際の成果を擧ゞることを以て念とし、頗る健實に奮闘し以て少なからざる實利を獲得して、一躍其面目を改めたり。

以上は實に君が四十餘年の苦闘史としての筆書に過ぎず、此間に於ける君が心的狀態を解剖すれば、尚幾多の趣味ある材料を得たるなるべし、之を要するに實に君の半生は所謂數奇に富める人生の傳記なり、弱冠にして其素志を飜したるが如き生活の壓迫に堪へずして、其從事する處を捨つるが如き、中年江湖に放浪して、再び舊主の業に就くが如き、何れか人生悲慟なる半面の暴露ならざる、然も思操の甚だ健實にして、確實苟も移らざるものありしより、短日月にして、一大運命を異鄕の天地に拓き、遂に半手拔くべからざるの基礎を確立し、以て子孫の業を成す、誰か之を以て單に第三者の後援のみに依れりとするものぞ、即ち燃ゆるが如き獨立心と、石の如き志操とを以て、幾多の難關と戰つて、遂に勝てる優者の業績たるを疑ふものあらんや。

君や年齢尚未だ知命に達せず、活躍の機會は今後に於て更に〳〵多かるべきを信ず、幸に健在して、其若くして得ざりし處を老後に獲得せんことを望むなり。

一時積極政策と云ふことが流行つた、何んでも積極式でなければ不可の樣にせられた

人間は跳ッ反りの動物である以上『噛さない』よと云ふ話は聽きたい動物である、語らないと云へば言ふ程、聽きたがる動物である之を申して跳ッ反りの動物と云ふのである

時代が積極式であると云ふことは嘘て消極的に跳ッ反るべき前提ではない乎

積極の破綻が消極の實現となる、紛糾せる時局は過去に於ける積極政策の破綻か彌縫か

どちらにしても我政運が消極化して來たのは事實である

減稅論の如きも政府者として一種の消極式だ、行政、稅制の兩整理等も消極式だと云つてよい

要するに積極と云ひ消極と云ふも是非善惡の判別は時代思想と時代傾向とに依るの外はない

之を更に大觀すれば積極消極の兩式が相呼應すればそれが所謂健全な發達と云ふべきである

政府が消極式の時は國民は積極式の時である、國民が消極式の時は政府は積極式の時である

明治政府は封建時代から大なる跳ッ反りをやつたものと見れば其歷史は積極式であつたに相違ないのである隨分無理な獲我慢もやつたに相違ないのである

大正政府は此の積極式跳ッ反りの時代、所謂消極式跳ッ反りの場である云はゞ整理の時代であるのだ

政府が消極の時は國民は積極の時である國民は商工的に大いに跳ッ反らんとしてゐるのである、文物制度の建設實地時代は過ぎて、運用上の機微時代が來たのである、國民は正に商工的經濟的に大なる跳ッ反りを必要とする時代に遭遇したのだ、然り正に國民は產業的に大積極式を發揮せねばならぬ時代になつたのである

大いに實行べしである

先づ時代は各方面から我商工家に大なる跳ッ反りの轉期を與んとしてゐるのである、商工家も時代の傾向思潮要望に對して運動開始の姿勢を執つてゐると云つてよからう

大いに跳ッ反り、日本は今や商工的に積極的に跳ッ反らねばならぬなくなつのである

時代は今や我商工家の積極的跳ッ反りを要望して居るのである、而し裡に永く永く消極的信仰に育まれた處の日本商工人が什那積極式の跳ッ反りを試みんとするかは慥かに興味あることではない乎

積極の人

高橋善郎君

君は今年三十歳、明治二十年生れ洵に青年實業家の嗜々である、野州足利の產で二歳の時に出京して十二歳の時石町時代の合名會社高橋商店に入つたのである、丁年軍隊生活を終へて來ると高橋家の養子となつて今日瀨戸物町の店舗を經營してゐるのである。

積極人である以上活動家である、寸時も停止することなく活動する、走り廻り屋である、大阪に行く、地方に出掛ける、吾人は此興味ある商工的時代轉期に際して『積極の人』としての高橋善郎君を觀察するのを痛快事とするのである、淺草の大竹君の如きも慥かに積極の人だ、而して大竹君が高橋君のことをよく識つてゐるのも友は連を躊ふと云ふ格か

大竹君を茶人のような積極人とすれば我が善郎高橋君は非茶人式の積極人である骨ッポイ處はないが可愛さがある、痛罵骨を射す樣な大竹式に代ふるに覇氣に充てる無邪氣な愛すべき點が高橋式である仲間を廻る、實に君は活動家である、平野幾三郎翁の商賣振の如きは君の崇拜的である、大阪人に對する研究に對しては豐田喜助君と同じく却々面白い觀察を持つてゐる

君の商業は無論工業藥品染料にある時代は積極的商工主義を孕んでゐる君の如き積極人を此際我商界に得たのを吾輩は非常に愉快に考ふるのである

之を要するに積極は、一つの主義である型である、即ち心的生活の方向である、併し此主義が實行され、此型が活動を起すには、一種の動力と精力とを要するのである、有りと有ゆる人々を解剖すれば、無論積極か消極の何れか其一つでなければならぬ、されば其人の主義が從て積極であつたからと云ふて、吾人は俄に之に向つて敬意を表する譯には行かぬ、其活動力と精力とか、之に伴つて、而して時間と共に其處に事功を表すを以て、始めて其人格が躍如するのである。

高橋君に向つて、吾人の敬服する所以のものは則ち、以上の主義を遂行すべき、活動力と精力とを具備するの一事にある世には隨分消極の活動家がある、現狀を以て到達點とするものには、維持保存の念は強いけれども、進步革新は期せられぬ、平易に云へば、君は現狀其物に滿足が出來ず、絕えず改進し、絕えず昂上して止まぬのである、君が十年の拮據美事に今回の機會を按排して、到頭高橋商店を物にして巨萬の富をなし豪商の列に加はつたのである、春秋に富める君の前途は、實に希望を以て滿されて居る、吾人は君の健康と奮勵を囑望する。

都下の同業中、其才略は兎も角、其膽の大なるとに於て、恐らくは金井君に比儔すべきものなかるべし、然も世上多く君の眞價を知らず、唯一不可解なる商人として、其行動を怪るに過ぎず、君は實に斗の如き膽と、鏡の如き明晰なる頭腦を有せる怪商なり。

怪商金井君は明治十四年五月一日、上州邑樂郡渡良瀨村字下早川田に生る、勇次郎氏の三男なり、幼時小學教育も寧ろ半ばにして上京し、先代黑田市之助商店に入りて店僮となる、實に明治二十五年十一月十九日なり、

年齒僅に十二歳にして商店に從事したる君は、既に他の店僮とは大に趣を異にし、當時より長者をして其不可解の小僧と云ふ印象を深からしめたり、第一君は通常の兒童に見るべからざる程の强情者にして、其意一度是なりと決すれば、先輩長者と雖も斥けて用ひず、爲めに長者の折檻を受くることも屢々なりき、然も君は平然として、敢て恐れず敢て怨まず從容として其所信を斷行することにのみ極めて忠實なりき。

一日自己の計ひを以て市に浸水せる線香を買入れ、先代主公の譴責を受け、塵芥と共に捨つべしと命せらる、然も君は自若として其失策を謝することをせず、東西に奔走して間もなく是を處分したり是れ君が內外に留目せらるゝの始なり、稍々長ずるに及んでは、其同僚にして寧ろ後輩なる、服部、尾關、林の諸兄が盛に地方廻りを命せらるゝに對して、何故か君は是を避けて市內の商事に從ふ、店員の地方に出づるや、主公の膝下に在ると趣を異にして些の窮屈なく、半ば見物を兼ねて各所に周遊するの特典あるを捨て、强いて其窮屈に甘んず同輩其心事を解する能はず。

何ぞ知らん君は市內に奔走し、努めて官公衙に出入して其註文を受け、又た入札をなして幾多の納品を試ひ、然も往々にして其取扱以外のものをも引受くることありて結局主家を利益せしむることなく、寧ろ迷惑と損害とを負はしめたる位

膽略の人

金井仙次郎君

なりしかば、先代主公の覺え甚だ目出たからず、前後十六年の久しきに亙りて、一日の如く忠勤する處ありしも、未だ主公の心を收むる能はず、顧れば、林、尾關、服部の諸兄は、疾くの昔獨立して其然かあるべき君は依然として尙番頭たり然も君は毫も意に介せず、孜々として他念なく店務に忠勤せりき。

現代黑田市之助君深く君の心事を解し老公の知る處とならざるを憐み、當時の店員中最も先に入店して、最も後れて尙留るもの君の如きなきの故を以て、三十九年獨立を勸めて、現所に店舗を開營せしむ、當時黑田氏は陰に少なからず君の爲めに其獨立を扶けたりと云ふ。

君大に主家を德とし、爾來同業を營むことの却つて主家に累するを慮り、漸次舵を轉じて塗料の取扱をなしたるが、君が天禀は此處に到りて愈々遺憾なく發揮せられたり、爾來同業者も君の方針の何處に在るを知る能はず、是を知るものは唯君のみ、斯くて君は不可解なる怪商として刮目せられたり。

繪具染料工業藥品商には相違なきも、塗料商と云ふも亦た不可なし、更に雜貨貿易商と云ふも中らざるにあらず、恐らくは君は商品に國境を設けざること、故に若尾逸平の若く、而して其頭腦の明晰と豪膽とを兼備することも復然るならんかされば歐洲戰爭の起るや、其肚裏の磊塊を瞥すべく大なる試みをなして、痛痒を感じたるも、斯く許りの事にて屈するが如き君にあらず、爾來引續いて露領に輸出をなし、大に物々交換をなし、最近には纖の輸入と雜貨の輸出とを以て一擧巨額の利を收め、今や其基礎牢として拔くべからざるものあるに至れり、最近我皇師の露領に向ふや、名たゝる豪商も亦た逡巡措かず、獨り君は從容として屬々大貨を提げて彼地に往來し、恰も無人の境を行くが如し、其膽の大さ如何許りぞや今や漸く戰亂局を結で、平和尊いで來らんとす、今後此大陸は、此豪膽兒が跳梁すべき唯一の舞臺なるべし。

君の行動の一斑は概ね斯の如し、然も君は頗る謙遜家にして、自ら衒はざるが故に、人其眞價を知らず、東京商人を小兒の如く思惟しつゝある橫濱の商人等と雖も、金井君の膽力と頭腦の明晰とには常に一目を措くに見ても、蓋し君の價値を知るに足らん、君又深く主家に服し、堂に上るや羽織を用ひず、銀行取引の如き漸く昨今に至りて其名を用ひたりと云ふ、以て其人格の凡ならざるを見るべし。

是を要するに其膽力と自信力とは、殆んと君が天禀の大部分にして、成敗一に其運用の如何にあるも、彼の聰明と鍛練とは、蓋し今後大過なく、益々其商運を發展せしむることと疑なからん。

令閨との間兒女四人を有し、今や兩親を膝下に招き、更に二弟の爲めにも、各家をなさしめ、其血緣の爲めに綢繆する處少なからず、吾人は戰後我が商人の健闘を要する時に當り、君の如き利材の健在を祈るや切なり。

今や東京藥種商中隱然として、代表的人物を以て目せられつゝあるものは、實に佐藤長四郎君なりとす。

君は明治九年德島縣脇町に生る、明治十五年僅に七歳にして故郷を去り、大阪に於て小學教育を受け、十三歳にして道修町の藥種商半井商店の店僮となり、累進して番頭となるや、偶々主家の沒落に遇ひ、初めて東京に志す、實に君年二十三歳の時なりとす。

現住本石町は實に東京に於ける君が發祥の地なり、主家の沒落するや、幾何もなくして東上し、地を現住に卜して、仲次業を創め、前後二十餘年幾多の變遷に處して、遂に今日の業礎を築く。

大正三年歐洲戰爭の勃發するや、重要藥品の輸入は全く杜絶し、市價俄に大暴騰を演じて、市場空前の活況を呈したり、君は實に巧に此間に馳突して、自ら利すると共に又大に公益の爲めに其才腕を揮ひ以て其地位と名望とを兼有せり。

獨り藥種商のみならず、凡ての商業は從來は分立的にして、漸時期體的・統一的ならんとす、個々分立的の時代に於ては偶々にして稀世兒を出すと雖も、同業の間何等意思の疏通なく、又何等の連絡をも有せざるが故に、共同の利益を促進し、且つ共同の危險に備ふること能はざるも最近の風潮は全く之に反し、孰れの業界も一定の目的に向つて統一し收合しつゝあるが故に、不測の變遷に際して其宜しきを制し、不斷の進出力を以て其商運を促進するを得べし、而して斯の如く統一され收合せらるゝや、必ず一箇又は數箇の中心的人物に依りて、鼓吹され、指道せらるゝを常とす、勿論之が中心的人物中には、名望家あり、資產の卓絕したるあり、天成の手腕家あり、渾然たる人格者あり、固より一樣ならざるべしと雖も、必ずや人物に於て傑出したるものたるや論なし。

仲次業者としての佐藤君は、其商業的沿革に於ても、亦必ずしも短しとせざるなり、日清日露兩役後に於ける、我經濟界が豫想外の大變遷に遭遇したる凡ゆる經驗を有し、而して今又空前の時局に處す

標柱的人物

佐藤長四郎君

個人としての經驗及其商界に於ける閱歷は所謂市井の老舗と比して必ずしも遜色あるを見ざるなり、

今や君は實に東京藥種商界に於ける、事實上の代表者なり、或は其資力を以てし、又は格式を以て故らに窮窟に穿鑿すれば他に幾多の人物を得べしと雖も、最も印象を東西市場に深からしめ、直ちに聯想を惹起せしむるもの丶點に於て君は一種の代表的人物たるを疑ふの餘地なし。

君の斯の如く業界に勢望を繫げる所以は如何、單に沿革又は商業的經驗を以てせば、業界に其人を求めて、十指二十指を屈すること容易なるべし、唯夫れ其識見の高邁と、縱橫の商才と、圓轉淀みなき交際術とに至つては、是を兼備するもの業界果して幾人かある、況んや爽快なる辯舌を以て公私を處決するの材に於てをや、只之を有するものに至つては、佐藤君の右に出づるもの或は恐くは其人なけん君の業界に重きをなせるもの全く之が爲めのみ。

吾人は君を以て故らに代表的人物と云はんよりも、寧ろ中心的人物と云ふの時節柄穩當なるを信ずるものなり、君が東京藥感會の牛耳を採り、且つ仲次團の主力たる東京商友會の特別名譽會員として、其發達に資しつゝある處、何等君の野心に出でたるものなく、悉く君の人格及才能が自然に人心を吸收して此處に到らしめたるの結果たらずんばあらず。以上は吾人の見聞に仍つて知了したる處なるが尙玆に吾人の見逃すべからざる一事は君が注意周到の人なるに似ず、其商略に向つては頗る剛愎にして、常人の企及を許さゞるものを閑却すべからず、今一例を擧ぐれば或る時の交換會に於ては其出來高の十分ノ七迄は殆ど君の買物に屬したること、あつて、業界此事實を知るもの、往々君の一擧手一投足に注意する處あるは、實に君の面白き半面を物語るものならずや。

飜つて君個人の展開の迹を見んか、仲次業の有力者として二十年間の歲月は、愈々此處に一新記元を劃し、大正六年を以て問屋業者となれり、確に君が實力の一進歩と見るべし、更に實業方面に於ては其指を染ひること、比較的日淺く、目下香取化學工業會社の取締役、竝に東興業會社の監査役として現任せり。

以上の如く其紛糾を調和し、共同團結を促進するの主力としては、頗る其人を得たるものなり、若し夫れ個人の君としては、情味渾然交友全く其人格より露出し、些の才發の迹を止めざるは、自ら人を其傘下に吸收して共鳴せしむるに足る、吾人は實に幾多の方面より推察し批判して、我業界中重なる一人としての君の將來に期待する處何ぞ一二にして止まんや、戰後不測の大變革の業界に投せらるるの時、復更に此後强烈なる覺醒の來れる時、恐くは吾人の所說必ずや徒爾ならざりしを知らん。

君夫人てう子との間一女あり。

君は明治十三年八月大阪市西區京町堀に呱々の聲を揚げた而して君は物心附くや少くとも學問を以て身を立て機と思ふて長ずるに及んで所謂青雲の志となり希くば東京に出でゝ修學しようと云ふ希望は燃ゆるが如くであつた當時半田治兵衛商店と云へば我業界に於ての老舗であつて此處の先代治兵衛氏は則ち君の伯父に當る人であつた。

燃るが如き君の修學希望に對し伯父治兵衛氏が引取つて必ず修學させて遣ると云ふ言葉掛りに幼ない君は雀躍して喜んだ斯くて笈を負ふて鄕關を出づるの格で君は東京の土を踏むことゝなつたが恐くは當時君の竹馬の友達や學問を以て立身を希ふ知人は定めし君の幸福なのを羨望したことであらう時に君年僅に十二。

處が東京へ來て見ると事實は大に君の希望に反したのである君は直ちに半田治兵衛商店の弟子となつて商賣道に奉公することになつたのである此失望此驚駭少くとも君は遺憾の涙を揮つたことであらう併し乍ら素と之れ雙親緣者一同の措置であつたから如何に君が小さい心を傷めても如何とも仕方がなかつたのである併し之が抑々君をして東京の商人として牙籌の生涯に入るべき洗禮であつたのである斯の如くにして君は其志望に反した境遇の上に十二の時から異鄕の商界に投じたから君の觀察眼は比較的鋭利に養成されて文物の客觀的觀察も亦人より多量にあつたことであらう。

君は元來感情の人でなく極めて冷靜なる理論の人である由來東京の商人が極めて感情的であるに反して君が何處迄も理論の人であるのは少くとも君が此客觀的觀察をなし得たる境遇の然らしめた結果ではあるまいかさればこそ後年半田治兵衛商店が廢業せる當時に在りても君の一擧一動は理論的であつた感情の高い半田治兵衛氏の隱居即ち君の叔母さんに對しても又小西安兵衛氏の態度に對しても君は理論の命ずる最後の判斷に靜かなる行動を執つたものと見える。

斯くの如くにして君は半田商店に於て相

客の人

牛田右一君

凡そ自ら滿足の出來ない境遇に終生甘じようと云ふことは何人にも出來ぬことである少なくとも己れの信じて是なりとなし又其仕事の上に確信を持つた以上何時かは機會を捉へて其初一念を貫くことが出來るのである今吾人の知れる君の既往の事實中專ら同情に耐へないのは幼時其修學の目的が齟齬した一事である而して此事實は丁度明治二十五六年の事であつた當時は所謂吾國が歐洲文明に心醉し切の人であるのは少くとも君が此客觀的觀

當の修養を造り今より八年前則ち君が三十歳の時に日光商會と云ふを興して愈々君は獨立したのである其當時に於て君は誓つて主家の營業課目外の商賣にすると云ふ條件の下に工業用の鹽の專賣に從事したのである機業用澱粉は現今君の商賣の骨子であつて府下三河島に拾馬力の電力を以ての工場を建設し電氣モーターに依つて盛に澱粉の製造に從事しつゝあるのである。

つた頂上であつて而も官尊民卑の氣風上下に漲り青年各々青雲の志を抱へて偏に學問を以て其身の榮達を謀らんと熱中した時であつた然も其一面に於て敬服な事には當時の實業家丈は未來の社會的地位と社會的勢力とを支配するものは必ず物質である實業であるとの信念が凝結して居つて後進子弟を率ふるにも亦甚だ嚴重であつた果せる哉日清戰後約十箇年の間に於て前者は遂に行詰つて了つて後者は遂に豫想の境内に到達したのであつた。

今に於て吾々をして推測せしむれば君の出京が今五七年後れたならば又は當時君が今少しく年長であつたならば青春血氣の希望は必ずや伯父の制壓を凌いで其好む處に向つて突進したであらう然るに能く自我の希望を制抑して一意伯父の處置に從ひ身を傾けて商道に服した君の心懸も感心なるものであつた併し假りに君をして當時頑然として此境遇から脫出して其好む處の學問に親しましめても頭腦明晰にして論理的徹底した性質は必ずや相當に運命を開拓し得たであらう併し君の伯父が君をして商道に導いたのは天成の利器をして唯其向ふ處を異にせしめたに過ぎなくて毫も天才の進路を遮つたのではなかつた此邊の消息こそ探つて以て今日青少年の貴重なる參考となる事實である由來東京人は理論三分の感情七分である從て東京の商人も亦之れを關西の商人に比して冷靜の態度が少ない是に於て其商取引は言ふも更なり店員又は使用人の任免黜涉も亦往々にして感情を基礎とするの傾があるさればこそ一朝業界に何事が起つた場合にも內外の關係に照し本末の由來を推究すること少なく直ちに其中心人物と自分との情交の上から打算して攻防の策を定めると云つた風であつて甚だしく後半面の熱し過ぎた感ともがする。

敍上の如く君の天然の美質は君の事物に對する客觀化であつて此の感情の高い東京の商人の中に君の樣な頭腦冷靜理論の判斷を武器とする人のあるのは誠に敬服に堪へない工業界お祭り騷ぎの今日幸に冷靜なる奮鬪を望むものである。

進取主義の權化

菅生彦四郎君

君は横濱の人明治十年婦光寺山に生る當年正に四十の男振りである幼少の時分より敏活の才を有し十四歳の時に東京染料界の重鎮南川商店の徒弟となつたが大成の器は此時分から他の靈儕とは選を異にして苟も暇さへあれば染料の見本を陳べて其研究に餘念なく從て他の朋輩は君を一種の偏狂として驚しなかつた位であつたが果せる哉君の研究は日に月に進んで二十四五歳の時分には染料の鑑識に於ては同業者中稀に見るの異材となつて了つた斯くて君は一面に染料實質の研鑽に心を碎くと共に一面更に販路の方法に就ても又少からず思を致して果ては製造者の事情等をも詳にし曾て他同業者の思ひ及ばざる所迄をも探究した位であつた。

於是乎店主福藏氏は深くも君の將來に望を屬して店務の萬事は殆ど君に一任して何等の干渉を加へない樣になつた元來同店は本邦品のみを取扱つた店であつたけれども君の研究の進歩に伴つて遂に輸出入工業藥品染料雜貨商として一躍斯界の重鎮となつた畢竟するに是れ主人の君を信ずるの厚き結果とは云ひ抑々亦君の精力主義が此處に至らしめたのであつた。

君は斯くて二十有五年の主取の間に於て親しく染料の鑑識と其の商道とに多大の薫蒸を得て初めて南川商店の營業主任の地位を辭して大正元年獨立自營を以て濱町二丁目に開業したのである而して更に染料に直接の關係を有つて居る工業藥品をも取扱ふこゝなつた折柄同業界の稀有の不況時で業界は具さに委靡不振の苦境を嘗めたが君は天成の精力主義を以て殆ど晝夜の別なく東奔西走した爲めに最も順調に然も優良の商績を擧ぐることを得たのであつた。

斯の如く君が不斷の努力は業界不振の時に於てさへ然く好績を擧げ得た位であるから千載の一遇とも云ふべき大正三年の世界的戰亂に伴ふて輸入杜絶と共に染料拂底が天下の問題となるや君が年來の鍛錬と精力とは遺憾なく其效果を發揮して僅に七八箇月の短時日に於て巨萬の富を獲得したのである而して今や斯界に於ける優然たる紳商となつた。

併し乍ら巨萬の富は未だ必ずしも君の最終目的ではない願れば君が二十餘年の細心なる研鑽は唯々片々たる商估としての富を得んが爲めのみに非ず更に其深き胸底には更に〳〵大に進んで化學的研究の歩を進めて將來の發明發見に貢獻したいと云ふ遠大な志が潛んで居るのであるから決して小成に安せず最も東京に接近したる南葛飾郡附近に地を卜して研究所を新設せんとして既に其計畫に著手し藏前高等工業學校卒業生中應用化學二人染色二人外に理學士一人を聘用して之が研究を託すると共に更に進んでは大正六年米國を視察し紐育フィフスアヴーにも支店を設け廣く輸出入の展開を計つて居る。

今君を俗人の云ふ處の運命の上から觀察して見ると幼少より頗る順調であつたと云ふて宜しい十四歳に得た主人に仕へて二十五年歳と共に其信用進み獨立以來間もなく未曾有の好機會に遭遇して一躍家産を興した如き少くとも一面に於て運命の寵兒と見て宜しい、併し乍ら君の內面的生活は此表面の如く然く坦々たるものではなかつたであらう君と雖も恐くは染料界が今日の樣に大飛躍をするとは豈夫れに入店の當時に於ては豫期しなかつたであらう然も他日之を以て立身榮達の道を拓かんと志した不斷の努力は求むるともなく遂に今日あらしめたのである凡て一事に熱心なれの敎訓は實に君が活ける證明者の一人であらう。

社會組織の粗雜なる時代に於ては所謂行く處として可ならざるなしと云ふ間口の廣い人も須要であるが今日の如く社會萬般の事が組織的に改まつた時代に於ては卽ち其分業に精通して奧行の深い人が最も須用の人である此點に於て君の如きは業界濟々の人士中其白眉なるものであると思ふ。

君の前半生涯は實に精力主義と進取主義とを實行するに殆ど寸暇を謬めなかつたのである精緻なる研究の半面には常に時代の趨勢を先見して之に順應した處は最も敬服に値するのである曩に化學染料の輸入と需用の盛なるや君は敢然として南川商店をして一躍輸入者たらしめ又工科の卒業生を個人の商店に聘用するが如き則ち見上げた識見である。

終りに臨んで君を家庭の人として見んか二嬢の父として君は暖き家庭の主人公である元來斯の如き天才肌の人には往々何物か道樂の伴ふものであるが君に於ては曾て何等の道樂として認むべきものがないのである強て之を求むれば喫煙位のもので工業藥品と染料の研究之れ君に取つては無上の娛樂である君が其業を愛し之を樂むこと常倫の及ばざる程度にある所に君の技能は發達し君の運命は開拓されたのである當に後進子弟の好亀鑑と云はねばならぬ。

SHIBATA SHOTEN, LTD.
ESTABLISHED 1870

TRADE MARK

營業品目

染料各種、媒染劑、精練劑、整理劑、
工業藥品、松脂、硫黃、塗料各種、
植物油各種、輸入肥料、內外雜穀
其他雜貨一般

桂屋（株式會社）柴田商店

本店 東京市日本橋區瀨戸物町
電話本局（時長六五、長八五）九八八二一一三 振替口座東京八九五三

支店 大阪市東區北久寶寺町二丁目
電話 東（長三一五七〇）三九四二一八四五 振替口座大阪一一三五番

出張所 京都市錦小路新町西入
電話中長七五八 振替口座大阪一四八六〇

出張所 上海江西路A八號
柴田洋行
電話四八三七

株式會社 山田商店

本店　大阪市東區南久太郎町二丁目
大阪船場郵便局私書函第五號
長電東 二二四八 二二四九 五〇

支店　東京市神田區永富町
長電神田 二二四一 二四三二

支店　京都市新町通蛸薬師南入
長電中一八六〇

繪具染料
工業藥品　問屋

利　植田小太郎商店

東京市神田區鍛冶町

電話神田 長 七七七〇番 七七七二番

振替口座 東京二六五〇番

營業品目

染料　皮革丹仁劑　原毛
顏料　香料　毛絲
工業藥品　醫藥品　雜穀
エキス類　諸機械類　諸金物類
工業用石鹼　油類　其他

直輸出入商 IK 株式會社 稻畑商店

本店　大阪市南區順慶町二丁目　電話 船場三六三番 船場三六四番 船場三六五番　振替口座大阪壹八參壹番

東京支店　東京市日本橋區堀留町一丁目　電話 浪花四貳七番 浪花四〇參六番　振替口座東京六五九七番

京都支店　京都市下京區油小路錦小路角(新築中)

神戸支店　神戸市榮町通三丁目六番地　電話 長三宮二八五五番

天津支店　支那天津日本租界壽街二十九號　電話 八五五番

豐田合名會社

營業品目

化學用藥品、工業用脂肪
諸媒染劑、製革、ゴム、製紙
石鹼、漂白、琺瑯、礦山、紡織藥品
其他一般原料紡織糊料整理糊料

工業用藥品內外澱粉直輸出入商

東京市日本橋區馬喰町二丁目八番地
電話 浪花 長三二五八番 長二四五六番
振替東京九五八一番

工業藥品及化學肥料

小西安兵衛

日本橋區伊勢町十六番地

電話本局 ☎九一五番 二九一五番 四七二五番 二八一一番

商號伊勢屋

東京市日本橋區馬喰町四丁目十五番地

繪具染料
工業藥品 商

南川福藏商店

電話 浪花 ☎一一一八番 一一一五〇番

電信略號（ナン）

振替貯金口座東京一九五五一番

瑞西國バーゼル市

ガイギー染料製造會社

日本及支那

代理店

二田商會

本店　東京市日本橋區伊勢町二十六番地

電話本局　長三五九番　長六七六番　一四一〇番

出張所

大阪市東區北久寶寺町一丁目　電話東長一七一二番

支那上海江西路A八號

英國ドンモナラブ會社
英國ユニツテイナーカルアトクリ會社
英國ユシツブ會社
東關東曹酸株式會社
東京硫酸株式會社

特約販賣

藥品繪具染料器械

直輸貿易商

東京市日本橋區本町一丁目十五番地

株式會社

平野商店

電話　特長一四一五番　長四九九五番　四八二〇六四番　〇九七〇番

東京

東京市日本橋區本町一丁目

染料顏料
工業藥品 商

岡本合資會社

電話 特長 本局二七八四番
長本 局 一六四九番
振替 東京 一八六二三番

岡本

M.G.K.

繪具染料工業藥品問屋

合名會社 桔浦

本店 大阪市東區北久太郎町二丁目 電話 長東四四〇七番 東四四八八番 振替大阪 一五〇五番

支店 京都市綾小路烏丸東入 電話 長下一九一番 下七三二番

支店 名古屋市東區針屋町三丁目 電話 長一九四三番

支店 東京市日本橋區小舟町二丁目 電話長浪花一四二三番

瑞西バーゼル化學工業會社
大日本代理店
大阪本店新營業所
大阪市東區平野町二丁目六番地七番地
電話本局 長四一 三七二三 三七二五 三七五七
長四二 三七二四 三七五六

營業科目

染料各種
工業藥品
チバ醫藥品
パルプ各種
機械各種
雜貨

直輸
出入

株式會社長瀬商店

支店 東京市日本橋區小舟町一丁目
電話 浅花 三七六〇 一六一五
東京振替口座 一五三九七
出張所 伊豫國一番町八
電話 八二

支店 東京市日本橋區伊勢町六十八番
電話 三宮 八六 五一八 九八五二 九二三
出張所 米國紐育ブロドウエイ一二〇エクイタブルビルディング内
EQUITABLE BUILDING, 120 BROADWAY, NEW YORK, U.S.A.
電信電話 NAGASE NEW YORK.

支店 京都市下京區四條通西洞院西入
電話 長中 七九四
出張所 天津法界バンド洋行街

支店 神戸市京町
電話 三宮 八六 五一八 九八五二 九二三
出張所 長瀬バンド洋行街

支店 英國倫敦フェンチャーチストリート六十五番
Frenchurch St. LONDON, E. C. ENGLAND.
電信電話 EURASIAN LONDON
出張所 漢口英租界泗碼頭華昌街

染料工業藥品問屋
合資會社鱗與商店

本店 東京市日本橋區伊勢町
電話本局 長二四一番 五二〇二番
振替口座東京一八八五一番

出張所 下野足利町井草
電話八百二十八番

顔料、染料
絹練石鹸
布海苔、膠
澱粉、生澁
工業藥品

合名會社 守田商店

東京市日本橋區伊勢町

電話本局 特長七五四
振替口座東京 四五六〇五八八
八六二九八八

繪具染料工業藥品問屋

東京市日本橋區小舟町一丁目十八番地

『細井染料商店

長電話浪花三千七百四十七番
振替口座東京壹八九九貳番

佐藤長四郎商店

藥種貿易商

東京市日本橋區本石町一丁目

電話※長本局七八七番

電信略號（サト）

繪具染料　工業藥品

荒物　問屋

東京市日本橋區瀬戸物町七番地

黑田市之助

電話本局二六三二番　振替口座東京三五四番

豐錦 布袋印商標

染料工業藥品荒物問屋

東京市日本橋區鐵砲町

田中半兵衛商店

電話神田(長)二三三四番

振替口座東京四四六九番

小 小

●塗料製造用原料品一般
●工業用藥品一般
●製紙用藥品一般
●輸出向工業藥品取扱
●製菓用藥品一般

●鳥印ヱナメル、ワニス發賣元
●精喜記號シケラックニス發賣元
●水晶印各種光澤ニス發賣元
●ダイヤモンド印グラスペーパー發賣元

小厚一商店

東京市京橋區築地三丁目十五番地

電話(長)京橋七七一番

各種在庫品豐富に候間御注文被下度候

●特に輸出工業藥品は懇切に取扱ひ可申候間賣買共御用命奉願上候

小 小

彼の山越へて、次の山の麓までの競爭に亀は兎に勝つことが出來たと云ふ物語がある。

亀は兎に勝てぬと云ふ確實なる環定が打破せられて、遂に亀は兎に勝つて次の山の麓へ先に著いたと云ふ確實なる事實を生ひに至つた。

是れでてそ世間は興味のあるものとなるのである。

亀は兎の所詮敵でないと云ふ智識の斷定…確實なる智識の斷案は、最後の事實に於て破れたのである。

人生は洵に其最後の事實の決定を俟たねば、所詮の是非は審されぬ。

亀は兎の敵でないと云ふ智識の斷定を最後の事實に於て破れないものなれば、木堂大養は我政界より隱退した方がよろしい、學堂尾崎も亦然りではないか。

政閥を打破し、法治與論憲政の實績、其眞相を發揮發揚せんとする運動は今日の處で前途遼遠で、兎に對する式た亀公るを免かれぬのである。

智識に於て、今日の事情に於て、亀公式の遲々たる有樣であつたなれば、遂に兎の敵でないとせられて排斥せらるゝが至當であらうか。

亀公式たるものも亦排斥せられて、仕方がないとアキラめるのが至當であらうか。此の間一髪の時に當つて『齷齪の人』としての價値なき人間も出來るし、『奮闘の人』としての價値ある人も出來たのである。

木堂や、學堂が絶叫する今日の主張、現在の主義が、更に精しくば彼等の抱持する政見さ、一度叫べば明日實行せらるゝと云ふなれば、木堂もなく、學堂の必要も我政界にはない、兎が亀に必ず勝つと云ふ智識の斷定が其最後までの確實なる事實であつたなれば、亀たるものゝ存在の價値はないのである。

國民の多數が木堂や、學堂の活ける味方として…吾輩は更に念の爲めに精しく云ふ：或物識顔の少數なる國民を除くの外なる多數國民の味方を背にして絶叫に次ぐに絶叫を以てせる木堂大養や、學堂尾崎が今日の存在の價値は彼等の絶叫彼等の政見が明日の實行となりて現れ來ると否とに係らず、其尋き健氣さには些少の増減もないのである。

兎は亀よりも強い、而かも兎は孤獨の寂寞、亀は兎よりも弱い、而かも活ける同情に包まれてニコ〳〵者

『天即我』の生涯は天道の世渡り、人間と生れたからは男と生れたからは男らしい生涯を送りたいものではないか、亀の生涯は眞に男らしい生涯ではないか。

亀對兎の鳴に永く懸つた、世の中には兎の樣な人もあらう、又亀のような人もあると思ふ、兎を取るか亀を取るかと云ふ場合、誰れも亀を取るに異議のあらう筈はない、私は此の意味に於て『亀の樣な人』として森峰次郎君を尊敬したい。

森君に吾輩が始めて會ふたのは昨年の七月の頃であつたと思ふ、本紙の第十六號に染料界の長老として松村松翁を紹介したことがあつた、其の時に『東京によく同化した大阪の人』と云ふ題で君は一論を本紙に寄せた、松村福松翁は實に君の舊主人で、みやこ染で名高い青山君は君の先輩でもあり、朋輩でもあるのである。

君は明治十四年に松村福松商店に入つてから君の業界に於ける亀のような生涯は始められたのである、明治三十三年まで前後十有五年間松村商店に於て、人が見れば遲々たる如き歩みを續けてゐたのである、洵に亀の樣に遲々たるの歩み…最後には強かるべき亀の樣な生涯を君は續けたのである。

而して三十三年松村商店を出でゝ又君は亀のように最始の一歩を仲買に奉げた、各店舗を廻つて仲賣仲買をやうた、亀のやうな一歩、亀のような二歩、三歩四歩は程なく君を手の本銀町三ノ十三番地の立派な角店に其の看板を持てされたのである亀の樣に著實なる商店として斯界に多大の信用を博しつゝある現在の君は最早、最後には強かるべき亀のような世渡りの道程の最後に程近く進みつゝあるのである。

亀は遂に兎に勝つた、世は浮雲の如く然り洵に輕佻浮薄なる時代思潮の横溢せる裡にあつて、亀は兎に勝つと知つても仲々亀にはなれないその亀の樣な君の營々たる態を見る時に吾人は君の影に云ひ知れぬ教訓と根強さとを味ふことが出來ると思ふのである。

今の時勢角度の大きい跳反りを望み、一躍して大富豪となり、大政治家となり大詩人となり、大宗教家たらんと希ふ處の人多き世に『亀』は實に吾人に對する、一大教訓の表象ではないか。

君の商業は云ふまでもなく染料工業藥品商で君の未來、君の前途に輝やく光明は慥に『信用』と云ふ無形の『能』あるにあることも言を俟たぬ。

君は未だ前途洋々たる青年者である其亀の如き生涯すらも未だ永い永い道程にあるのである。

斯く君は現在に於て、君の亀の樣な生涯にあつて最早人も許しつゝある實績を擧げつゝある有望家である。

耐久の人

森峰次郎君

染料工業藥品問屋

東京市日本橋區瀨戸物町

松村染料商店

長電話 本局四八二番

振替口座東京八三一八番

君は慶應三年野州足利郡菱村に生る明治十一年君歳十二にして上州桐生の新居良助氏方へ奉公に住込み後主人が足利に轉ずる事となるや君も亦附隨して行つたのである然るに明治十四年主家が祝融の祟に罹つて店舗家屋の全部は灰燼となり僅に土藏一個を殘したと云ふ悲慘な狀態となつたので良助氏は再興を企てゝ、妹夫婦に間もなく其店舗を讓つて上京した。斯くて荒井氏は其後東京に轉住することとなり地を堀留に卜して繪具染料工業藥品店を開始したのであるが君は斯の如くにして主人に附隨三箇所に轉々したのである斯の如くにして君は忠誠を旨として明治三十五年迄前後殆んど二十餘年間主家の爲めに貢獻したのである。

君の修業時代と云つては僅に以上の一項に過ぎないのであるが君が三十五年愈々獨立して日本橋區蠣殼町三丁目に開店して以來君の運命は既往の數奇參差たるものと異つて洵に順調に發達し大正二年には店舗狹隘の爲に小舟町に移轉し更に今回の染料基臘に依つて多大の利潤を博し一躍して數十萬圓の資産を築き上げたのである斯の如く云ふならば其經歷は頗る平凡であつて其中年以降は頗る好運兒の樣に見えるけれどもそは表面の一斑に過ぎぬのである。

最近の熟語に能く商業道德と云ふことを云ふが武士に武士道ある如く商人には商業道德がなくてはならぬ然れども世人は此商業道德を頗る狹義に解釋して單に商品取引の上にのみ必要と心得商人としての處世商人としての社交商人としての人格と云ふものに想倒しない風がある物質的文明の進歩するに伴つて所謂師弟の情誼と云ふものは日に月に冷薄となつて專門學校でも卒業したものでも再び舊師を訪ふものは果して幾人であらう斯くて商人も亦主從の情誼は之れも同じく冷薄となつて一度獨立でもして不如意の時にこそ一にも主家二にも主家と其機嫌を伺ふに日も亦足らぬけれども、一旦順調に行つて二度主家の援助が要らぬとなると昔日の情誼は之を忘れて動もすれば反噬を試

商業道德の實行者

小島伊勢次郎君

智義となり全く苦艱を共にし來つた點に至つては其緣戚關係のあつた田村君に比して更に其れ以上であつた失禮な云分ではあるが勤勉無比の田村君と忠義一徹の君とが在つた爲に或は主家の運命をして最近に迄存續せしめたのではなかつたらうか。

其間に於ける君の苦心と主家閉店後に於ける君の美擧は市井に傳へられて業界の美談となつて居るが故らに此處に揭載するが如きは君の主家の爲めに吾人の憚る處であつて同時に君の好まざる所であらう兎に角君としては既往主家の爲めに殆んど盡すべきの凡てを盡し而して又我が家門の爲めに畢生の能力を注いで今日の繁榮を見たのである此點に於て君は確かに後進子弟の立派な儀表である。

榮枯盛衰有爲轉變は人生の常態ではあるが凡て此の主從の關係ほど奇しき緣因を持つたものは少ないであらう君の主家が堀江町に於て閉店するやゆくりなくも君は其屋敷跡に新築して最近之へ移つたのである理由は素より別個のものではあるが或る意味に於て後繼者の感なきを得ない元來人間は其經驗しないものに對しては圓滿に悟りすることが出來ぬものである人間は人生の最大要件則ち榮枯盛衰の悲劇喜劇を實驗しない間は所謂眞の苦勞人となることが出來ない君は幼少にして主家の厄に遭遇し之れが因を爲して主家は更に地を換へて營業を繼續した時代から君の頭腦には人事の定りなき世相を描いた事であらう而して長するに及んで主家の振はざる帷幄に參畫して其心血を注ぎ遂に主家と榮枯顚倒するに至つた活きた人生の悲劇喜劇に逢遇して更に其實驗を深からしめた事であらう君や年齢既に知命に近く血氣既に收まり智慮益々圓熟しての成功であるに加へ常人の知らざる諸々の經驗を有して居るから君の向後は更に〳〵一層健實の經營振を見ることであらう。

君は令閨との間に男子二人を設け長男は名古屋の商業學校に目下修學中である店舗には七八名の店員が頗る家族的に働いて居る吾人は寡聞にして君の半面を知悉しないから如何なる趣味を有して居るかを知らぬ。

噫々光輝ある四十九年の君の歴史は一面は好個の奮鬪史であつて一面は商業道德の好範である君の加き子弟を持つた主人及君の如き主人を持つた子弟は之を他に比して一段の幸福であると思ふ輕佻浮薄只才氣を以て處世の武器となす當代青年の爲に洵に活ける龜鑑ではなからうか。

君は山峻にして水清き豆南の一角に生れたる人幼にして駿河國沼津の某下駄屋の小僧となり心竊に將來の立身策を求めたけれども幸運拙なき君は中途にして不幸にも主人に死なれ店は遂に閉店の餘儀なきに至つた爲めに更に轉じて同町の某藥種商の番頭となつて十年一日の如く商道の修業をした而して二十六歳と云ふ男盛り迄辛棒をしたのであつた。

然るに幸運の神は尙君に十分の運命を與へて與れなかつた此の忠實な辛棒强い君も遂に主人の大失敗に逢ふて十年の辛苦俄に一朝の夢と消えて了つた順當にいつたならば最早相當に店の一軒も持つて立派な主人公となる筈であるのに徒に涙を忍んで住み慣れた主家と親同樣の主人とに別れを告げるの餘儀なき事となつた、君の心中や果して如何許りであつたであらう。

併し普通の人間であつたならば必ずや落膽の結果自暴自棄となつて墮落をするか邪道に入るか脫線して了ふのであつたが元來健實な性質の君は一難を經る毎に所謂勇氣百倍して敢然として東京に出で來て黒田市之助商店に奉公住をしたのであつた。

田舍商人としての譽は斯の如くにして愈々都の商道に熱中した而して明治三十六年迄孜々として怠らなかつた其效空しからず遂に同年日本橋區本銀町四の二六に一戸の商店を持つたのである。

元來黒田商店は錚々の人物を出す店である先づ服部重右衛門、金井仙次郎氏を筆頭に尾關商店の主人の如き又近くは同君の如き實に此業界に於ける一種の蔽ふべからざる光榮であつて又誇りとすべき處である。

君は元來一方から批判すると一個の樂天家である細事に拘泥せず感情に走らず自ら信じ自ら實行して默々として天命を受けて其進ひべき道を開拓する人である然も日常の百事に對しては如何にも無邪氣な處があつて永年の苦勞の半面には一種云ふべからざる愛嬌を持つた人で社交の上にも甚だ得な人と思ふ加之其多趣味な

天に勝てる闘商

林彦次郎君

後天即ち此の十餘年の主取の間に於て具に人生の具味を解し世路の艱險を踏破して兎にも角にも處世上に一道の悟道をしたものと思はれる。

更に去つて其經營振りを見よう同君の第一の華客としてあるのは重に甲州信州遠州方面である營業上大體の方針は地方賣であつて都會の需用は先づ第二位としてある奉公人としては番頭以下七八人を使役して居るが氏が多年の辛苦は此處に思ふる半生逆境に居た人に似合ぬ處がある片々たる當世の才者にもあらず神出鬼沒の策士にもあらず底力のある而して容易に外界の誘惑に應じない處に君が天命に勝つ丈の素質が窺ひ知らるゝのである。

元來半生間苦勞して來た人と云ふものは頑固になるか邪推深くなるか陰險になるか殘酷になるか其赴く處は大抵極まつて居るが同君に於ては斯う云ふ樣な缺點が少しも見出されない之を要するに君の今日の性格は恐くは先天と云ふよりも寧ろ遺りのある主人として店中に其恩威が行はれて居つて如何にも床しい。君には妻女の間に二男二女を擧げてある而して故山には年老いた老父母が今尙ほ矍鑠として餘生を樂んで居るとの事であるが思ふに君が今日迄の波瀾重疊の生活から脫して立派な獨立の男子となつた爲めに老いたる二方の心中には如何許り嬉しい誇りを刻んだ事であらうと思ふ。

吾人は未だ君を知ること日淺く從て其將來に向つて君が如何なる抱負と主義とを持つて居るかは今此處に明說するの資格はないが君は先づ如何なる場合に於ても先以て人後に落ちぬ人である。兎に角吾人が同君の半生の歴史を以て後進子弟の立派な教訓と思ふのは人生の死亡及倒產と云ふ樣な必要な要件に遭遇して早く世の具相が頭に這入つたことが後日の戒となつたこと、最も人生の恐るべき青年期に於て誘惑を受けなかつた事と其期間內に於ける自信力の强かつた事とである。

人に依つては餘りに早くから苦勞艱難の目に逢はせるのは考へものである古人も艱難に逢はざるは人の不幸なりと云はれたけれども併し仔細に人物に就て鑑別すると苦勞をして益々健實圓滿な人物となるものと其反對に頑固執拗な人になるものとの二種がある斯樣に大別すると君は矢張り前者に屬する素質であつて所謂天寵として成功の素質を持つて生れた人の樣である。

氏の人物經歴は大體以上の如くであるから業界に於ける信用も厚く特に其出所が出所である丈に一段の重きをなして居る尤も君が今の處に開業をした以來少くとも其主家の體面を傷けない樣と心懸けて人知れず幾多の苦心を嘗めた事が分る。

元來人間は喉元過ぐれば熱さを忘れるを常とするが君が主家を思ふの深きは沼津に於ける奉公振りを見ても證明が出來る。膽力才氣智能は商道上の財產には違ひないが君の如きは夫以外に於て他人の求めんとして得ることの難い人生の或る神祕を悟つて急がず焦らず悠々として其赴かんとする處に赴いたのである暴評多罪。

年少にして父を喪ひ、少年商估の徒弟となりて、復た其主を喪ひ、後入隊軍役に服し、年漸く盛なるに及んで、始めて現業に指を染め、然かも多くの修養を得ずして、一躍獨立して今日の業礎を築く、亦以て一種の快男兒たらずとせず。

日本橋區大傳馬町二番地、染料工業藥品商原彌助氏は、神奈川縣橘樹郡中原村字宮內の人、明治十五年を以て生る、君の嚴君傳左衛門氏は、家農にして、德望閭里に洽ねく、推されて戶長となり明治二十二年市町村制を布かるゝや、引續いて村長となり、其間太く心身を勞して健康を害し、同年遂に長逝せりき、君は實に氏の三男にして、當時年齒僅に八歲なりしなり。

斯くて君は鄕里の小學を卒へ、當時土地に私塾を設けて育英に力めたる、宗澤支山先生の門に入りて、漢數英學を學び十六歲にして決然學を廢し、將來商道を以て其身を立てんことに志し、始めて出京して、日本橋區小網町荒物商半田屋に入りて徒弟となる。

爾來數年黽勉刻苦、商道の研鑽に餘念なかりしが、明治三十五年入隊服役するとなり從て一時修業を廢するの已むを得ざるに至れり、其後に至りて君の主人夫婦は不幸にして、相踵いで死亡し、嗣子尙幼なるの故を以て、遂に全然廢業するに至れり、君の入隊するや其翌々年に於ては、日露の風雲漸く急にして、翌年二月には、宣戰の布告となり、君も亦た軍に參じて、朔北の野に轉戰し、國家干城の任を全うして、明治三十九年凱旋したり、時や既に舊主夫妻亡く、當時の店舗又た既になし、斯くて君は新に將來の運命を開拓すべく新たなる生涯に入らざるべからざるに至れり。

同年君は年齒二十五歲にして、日本橋區小舟町靑山染料店に入る、是ぞ君が染料界の人となれる最初歩にして、商人としての素養を造れる、搖籃時代は既に經過して、其の修養を以て直ちに他方面の開拓に全力を傾注したるなり、斯の如くにして、專心斯業に從事すること、前後四年極めて健實に且つ眞摯に、之が修得に腐心し、少なからず內外の輿望を得、遂に明治四十二年獨立して、日本橋區本銀町に開業し得るに至れり。

精進と手腕の人

原彌助君

今や君の成功史を敍するに當りて、最も注意すべきは、君の獨立したる當時に於ける商況を一瞥せざるべからず、按ずるに日露戰役後は人造染料の普及と共に、極めて幼稚なりし我が染織界は頓に一大進歩を劃し、從て染料商も亦た、順調に發達し得たり、是に於てか染色工業の殷盛は直ちに染料商に從事するものを激增し、寔に染料界の膨脹其極に達したり、然れども甚しきに好況なりし業界も當時既に末季にして、各々多くの契約を有するを以て誇りとし、明日如何なる風雨の襲來するを知らずして、徒に盛況を夢想しつゝありしなり、寔に君の獨立時代は敍上の如く、山雨到らんとして風塵に滿てるの時なりしなり。

果然其翌明治四十三年に入るや、一般財界の不況となり、染色界は好調の反動を受けて、需用の日毎に減退するに反し、一方約定染料は容捨なく輸入し來り、忽ち染料界の恐慌を招致し、遂に猛烈なる競爭を激成し、所謂血を以て血を洗ふの體實も何等緩和の上に效あることなく、染料界稀有の沈滯時代を現出するに至れり、君が開業の初期は洵に斯の如くにして經過せられたり。

然かも此危險期は容易に回復せられずして、大正二年より同三年の上半季に入りては、倒產者相踵ぎ、殆と瀕死の狀態に在るものの枚擧に遑あらざりしなり、君が開業以來、此暗澹たる業界に馳驅すること此處に數年、尙能く人後に落ちざりしを見ては、其間如何に綢繆宜しきを得たるかを察するに餘りあるべし。

斯くて日獨戰爭起るや、業界は再び未曾有の活況を呈し、世界的に活躍すべき好個の機運を將來したり、君は此好機に乘じて、苦鬪奮戰刻々其業圈を擴張し、極めて鞏固の基礎を確立し、大正五年現所に新築移轉したりしなり。

君の店舗は專ら卸問屋として、市內三分地方七の割合を以て營業し、地方は主として東北に多くの華客を有せり、而して日常君自ら數名の店員と共に店頭に現れて、店務を見ること一日と雖も苟もせず、獨立以降僅に九年にして、業況能く今日在るを致せる、蓋し君の天稟に依るべしと雖も、亦一種努力の賜たらざるなし。

君未だ嗣なし、而して俗的趣味なく强て之を求むれば、旅行に異鄕の風色を愛するか、然らずんば盆栽花卉に自然を訪ぬるの外なし。君尙頗る春秋に富めり、其眞骨頭を現して一代の快心事を成すは、寧ろ今日以後の事にして、之より第二期の活躍時代に入らんとしつゝあるなり。

君資性機警にして然も極めて寡默、寡に多く其功果を語らず、故に君が眞個活躍時代の俤を敍するに當りて、吾人は寧ろ隔靴搔痒の憾なき能はず、然れども之れ寧ろ君の華を捨て實に就くの美點にして、大に世の俗衆と其趣を異にする所以なり、吾人は更に敍上の如く君が今後の活躍に刮目する處あらんとす。

日本橋區伊勢町十四番地に營業所を有し、頃來新進の名を以て旺に業界に活躍しつゝある、足立辰三君は橫濱の人にして明治十三年を以て生る。

明治二十四年十三歲にして、上京して半田屋善八商店に入りて店僮となり、同店に在りて親しく商道の研鑽をなしつゝありしが、明治三十三年壯丁適齡にして騎兵課に入り、除隊の後明治三十五年山田稻吉商店の養嗣子として入り初めて其姓を襲ぐ。

明治三十七年日露の役起るや、之が召集に應じて軍に從ひ、屍山血河の間を往來して、終始其任務を全うし、三十八年凱旋して故の如く養家に在りて、熱心に商務に從事したるなり、吾人は今君に冠するに驅質の人を以てす、驅は則ち不眠不休の謂なり、支那人は馬を以て龍とす、明治十三年庚辰の歲に生るゝもの、星家は直ちに其本命の三碧を提へて、東方生氣の宿る處、配するに舟を以てし雷を以てし、更に干支の辰を以て龍となす、吾人は必ずしも荒誕無稽なる、干支陶宮の說く處を以て人に躊ひの愚を學ばずと雖も由來庚辰の生れ、生々發展の氣旺にして寸時も休止せざるの質に多きは、統計に於て然く信せらるゝが爲めと、君の其資の息むことを知らざるに想倒して冠命したるに過ぎず。

此驅質が商人として君の行動の上に如何なる形式に依つて現はれたりしか、君の山田商店に在るや、山田氏は桐生の出にして、其商業上兩毛方面には接觸交涉頗る多きものありしより、君亦此方面を擔任して活躍する處久しく、其勢々たる活動の氣は遂に舊式なる同店の家憲に從ひて汲々吃々たること能はず、必ずしも之を衆長に謀ることなくして、足利方面に支店を設けて、其羽翼の擴大を謀りたるのみならず、更に戰局の影響に依りて、一大景氣を業界に添へるに及んでは、驅氣は遂に君を驅つて大正四年堀江町に假の店舗を設くる等、其の搖貨經綸の有らん限りを盡して活動し邁進し躍進したるなり。若し夫れ之を成敗の上より說くに及んでは、商事に門外漢たる吾人は、君が

驅質の人

足立辰三君

分別盛りの年代に於ての此躍動に依りて幾何の勢力と商權と而して信用とを贏ち得たるかを知る能はず、少くとも此僅々十年間は其天與の驅氣に驅ちて思ふ存分の活躍をなしたるものに相違なし、未だ以て必ずしも其事功の大小は君に於て問ふ處にあらざるべし。

君は大正六年五月三十一日を以て其養家たる山田家を去りたり、然も其最愛の妻子を殘して去れり、而して君は十五年前の足立姓に復して新たに活躍を開始したり、由來驅質の人數奇の閱歷に多し、君も亦た其範疇を脫することなく能はざるの一人ならんか、されば君の山田家に在るや、尙尊族のあるありて、一意君の方寸のみに依りて能動すべくもあらず、其血肉と離散したるが如きは人生の悲痛事にして、同情禁ずる能はざるものに屬せり、然れども恐くは此一事君が既往を以て三十九年の夢となし、再生の意氣を以て新たに活躍するに於て、更に一段の便宜あるものなからずや。

果然君は要部に相應の店舗を設けんとして今や伊勢町に壯麗なる店舗を新築し、其獨立日尙淺しと雖も、大に其商權を關西にも振はんとするの準備として、大阪東區北久寶寺町に支店を設け、用意一日も怠る處なし、元來君の商圈は舊養家の關係に依りて、兩毛方面に弘く、昔日の活動は其根蔕頗る深きものありて、大阪方面と相俟つて其地盤の極めて鞏固なるものあるなり、加ふるに市內は最も久しく勢力を扶植したる處にして、現狀を以て推移せば、頗る有望なる發達を見ること疑ひなかるべし。

上來說く處に於て君の性格は少くとも其一斑を窺ひ知るに足らん、一言に盡せば君は常に現狀に滿足する能はざるの人なり、切言すれば其現狀の打破が利害關係に依りてにはあらずして、唯滿足すべからざる先天の驅質に依つて然るなり、斯の如くにして其既往に於ける成敗利鈍も一に係りて此性格に基因したるものにして今日以後の榮枯盛衰も亦必ずしも是に依りて分岐せらるゝは多言を要せざるなり、斯くて成功するの多くして亦失敗することも亦從つて多かるべきを免るゝ能はず、されば此邁進性の君の後へに最も利害の念高き細心にして保守的なる一人の女房役あらしめば、必ずや君をして多くの蹉跌なく、其發達すべき邊りに至らしむることを得るなり。

若し夫れ君の趣味を求むれば、曰く只商賣なり、進んで止まざるなり、曰く邁進なり現狀に滿足すべからざるなり、極めて最近の獨立にして、既に古き同業と比肩する程度の商權を具有するを見て、如何に此處十數年間に開拓したる天地の廣大なりしかば頗る瞭々たるものあらん、前途春秋幸に高し、是より思想年と共に圓熟し來らば、興味ある好個の賈人を得るならん、家庭に新婦よし子を迎ひ、一門春の如く、十人の店員君を擁して頗る靄々の裡に活動しつゝあり。又以て其前途を祝福すべし。

若し兩毛地方に於ける、染料工業藥品商としての鉅商を數ふれば、先づ指を足利町の柳田商店に屈せざるべからず、同店の今日ある實に先代以降奮鬪の結果に外ならず、然も今や家門の沿革は暫く措き現主柳田市郎右衛門氏に關し、僅に知り得たる處を錄して、天下に紹介するに止めんとす。

現主柳田市郎右衛門君は、栃木縣安蘇郡界村の人なり、元治元年五月を以て生る、幼少にして同店に入りて店僮となり、十年一日頗る忠實に勤勵し、常に先代市郎右衛門氏の嘱目する處なりしが、長ずるに及んで機警にして商略に富み、得易からざる青年なりしより、遂に求められて同家の婿養子となり、斯くて先代の歿後家督を相續して今日に至りしものなり。

君が先代の遺業を紹ぐや、此處に昔年の抱負を實現するの時は來れり、當時恰も染料界は舊套を脱して、化學染料に移らんとするの時にして、日はゞ染料の一大革新期たりしなり、特に君の地方たるや關東織物の代表地にして、多くは中央部の商賈に依りて、大勢を制せられ、其土地に在る同業は寧ろ比較的に振はざるの慨ありしが、君は能く此大勢を察し、能く機先を制して中央商人の蹶起を遮り、巧みに商圏を維持するや、偶々今次の歐洲戰爭勃發し輸出の杜絶に伴ひ、染料界は未だ曾て見ざる大活況を呈し、到る處名もなき塞商の一躍して染料成金となるもの枚擧するに遑なし、此時に當りて最も苦痛を嘗めたるは染色業者にして、中には閉業の悲境に沈淪するものさへ續出したりしが、由來土地の產業振興に熱心なりし君は、必ずしも此好機を以て豺狼の慾を厭かしめんとはせず、一面能く染色業者の爲めに宜しきを謀り、自らの商勢を損はざる範圍内に於て、土地の產業維持の爲めに努力する處あり、從て開戰以降二三年の好況に際して、君の資產は年毎に增大し、商況月と共に面目を改め來り、同町に有する支店と共に頗る殷盛を極むるに至れり。

商業家としての君は實に錢上の如し、然も君は普通商人に見る能はざる頗る外角的の人物なり、其公人として公事を料理するに於ても亦た、實に足利町に於ける第一人者たり、曩に推されて足利繪具染料組合長となり、近來の革新期に處して按排其宜しきを制し、些の批難なかりめたるは齊しく公衆の認ひる處にして、又た郡會議員として郡治に盡し、更に町會議員として足利町の爲めに施設し貢獻したる處多き、其間君自ら中心となりて計畫したる處のもの多くは好結果を奏し輿望日と共に高きものあり。

足利町は關東有數の機業地として、其の發展の迹頗る著しく、町勢の膨脹に伴ひ近く市制の執行を見んとす、聞く處に依れば君は市制執行と同時に市長たるべく其候補者として最も呼聲高き一人なりと傳へらる。之を君の閲歷に照し、其性格に鑑みて、蓋し當然の事なりと謂ふべし。

君が同町に於ける勢力家たるは敍上の事實に於て粗之を知るに足るべし、今更に君の性格に就て少しく窺ふ處あらんか、一言にして盡せば君は最も圓滿なる人格者なり、自己の感情に依つて行ひを二三にするものにあらず、又黨に同して異を伐つの權策を喜ぶ人にあらず、來るものには公平にして、遠かるものにも亦厚し君が公人としての生命の永き畢竟此德性の反映たらずんばあらず、若し夫れ其私德に至つては義俠慈任の人として、實に鄉閭の渴仰措かざる所なり、從來天災地變に際して貧者を惠み、更に鰥寡孤獨の爲めに惻隱の情禁ずる能はずして、其私財を投じて之を救恤したる等、美談枚擧に遑あらざるなり。以て君の德望ある所以のものを知るに足るべし。

敍上の如く君は商業上の地盤と、而して自治の上に於ける勢力と、而して、其德望とを兼ね備へたり、されば今や此地方に於けること、凡そ爲さんと欲して得ざるなし、若し市制執行の曉に於て、君が市長として就任するの日あらんか、其慶福や單り足利町民のみにあらざるなり、君の趣味の人としては頗る男性的にして性來角力を好み、同縣出身の栃木山の爲めに、春夏二回の大角力には未だ曾て東上せざることなしと云ふ、又以て愛鄉の精神が斯る小些事の上にも能く表現せらるゝを見るべし。

戰爭の繼續と共に化學工業は發展し、染料市場亦空前の大活躍を演じ、人心亦少しく驕らんとするの時、戰局は轉た吾人をして甚だ永からざるを感せしむ、假令其基礎の幾分鞏固なるものあるも、一度戰局の終末を告ぐるあらば、業界は此處一大混亂を來すこと頗る明かなる事實なりとす、此時に當つては既に單なる富の力は必しも以て唯一の恃となすに足らずして、却つて人心の結合こそ其時艱を拯ふ唯一のものたるべし、吾人が各地の業界に人物を要望するもの全く是が爲のみ君の如き德望家にして、然も實力を存する人の地方に雄立するは、平時に於ける同業の發展に資するは云はずもがな、有事の日に於て、之が匡救按排をなすに於て、缺くべからざるものあるが爲也

德望勢力を兼ねたる

柳田市郎右衛門君

今を距ること無慮三百有餘年前、丹波國多紀郡福住村より、京都に移住したる福住家八代の孫（舊姓古島氏）は實に福住清兵衛氏とす、君は安政六年八月を以て生る、君幼にして家督を次ぎ、其主業たりし染織業によりて、染料に關する深奥の知識を獲得し得たるも、中頃にして大に感ずる處ありて、塗料の將來益々有望なるに著眼し、今を去る十七年以前、科學の未だ幼稚なるの時代、殊には退嬰保守主義の京都に在りて、飜然として塗料に手を染めたるもの、抑々君の今日あるを致せる動機なりしなり、君の斯の如き英斷は屢々乎として進歩しつゝある建築界に對して、將來同業の益々審接なる關係を有し來るべきを確信したればなり果然時は明治二十八年の交、第四回內國勸業博覽會の開催に際し、君が此立志の成敗順逆を試驗すべき好箇の時機は到來したり、此より以降刻苦勵精二十有餘年一日の如く、業績は著々として緒に就き染料塗料は、一般の華客以外に各官衙の用命を受くることゝなり、遠く關東關西九州の諸方に及びたり、其他同店の特色としては、京都九條工場、及び山科工場に於て砥の粉、金粉を製造し、其搬出一箇月貨車十車を下らずと云ふ、以て其商圏の如何に廣汎なるかを推知するに足るべし、斯くて少くとも、京都產出中の數量に於ては、先以て隨一の地位に在りと云ふ、乃ち其業績の昂上に伴ひ目下山科に之が專屬倉庫を建設中に在り、尙君の干與せる事業としては、山口縣長府町に於ける桃皮エキスの製造所にして、這は大正五年の創立に係りたるものにして爾來益々良好の成績を擧げつゝあり、其他木材艶出し塗料の如き、同店の賣品としては、頗る好評あるものに屬せり。

君が成功の歷史の概要は以上の如し、然も其成功の原因は、全く君の少壯時代にありしなり、君が家督を次ぐや、世は未だ幕末の餘風を脫ずして、文明の進歩は尙淺く、地方各地の交通の不便なる殆と今日之を想像するも、須く隔世の感ある時代に於て、君は屢々商用を帶びて、伊勢伊賀及近江界隈を往復し、時としては伊勢の津より行程二十里を遠しとせずして、終日徒步して京都に歸れること少なからず、又た古來日本三險道の一と數へられたる、伊賀近江の國境鈴尾峠上下三里の行程は巖石道をなすの峻坦なるに拘らず、粘土の泥濘膝を沒するをも物とせず、然も肩には數貫の貨物を擔いで數十度か躓きては起ち、倒れては起き辛ふして京都に歸來せしこと幾十回なるを知らずと云ふ、此時代に於ける君の堅忍力行は、老來一度追憶するも、常に快心堪へざるを覺ゆる由、少くとも君が後年、進取一番舊業を改めて塗料に志し、遂に其初一念を貫けるもの、畢竟するに此の堅忍に依つて、相當の基礎を確立したるに之れ由るなり。

君の此の非凡なる堅忍力行は、必ずしも君の人格の全部に非ずして、實に僅に其一端のみ、君には鐵石の如き强固なる意志を有する一面に於て、至誠の人として殆と全き典型を具有せるを見る、君や由あらば必ず『親を粗末にすな』とは殆ど口癖の如くに發せらる、斯くて此心凝つては則ち義俠となり信義となり、惻隱となり、祖先を崇拜し、歸依菩提の念を構成し、學ばずして悟道體得の人となれり、曾て君は京都市永養寺に無緣の塔を建て一千の精靈を慰めたる、時に獨れては之が供養に餘念なしと云ふ、洵に古人の俤を偲ばしむるあり、又現に府下伏見町には目今福住小路と稱するものありて、電車々掌の如き其他の薄給者の住居に便にし、蔭乍ら之を愛育するより、遠近君の美德を慕ふて此處に集ふもの多しと云ふ、特に君が性來趣味なるもの甚だ少なく、所謂道を好んで獨り喜ぶもの人情輕薄の今日稀に見るの人格者たり、君の足跡が天下到る處の神社佛閣に遍ねからざるなきを見て、如何に其道念の厚きかを見るに足らん。

君は斯の如くにして、努力を以て其運命を開拓し、儉讓以て其身を修め、老成道を樂んで其天福を全うす、誠に人生の淸營利貨殖に於て、非凡の天才を有せるに依ると雖も、抑々亦た其心を用ふるの至れるものあるが爲めなり、君の如きは洵に克く祖先の功績を顯彰して、父祖に報ゆるに絕大の孝を以てし、又一面には無言の大敎訓を附して、子孫の爲めに大業を樹立したるもの、青年子弟の師表として亦間然する處なきに庶幾し、君未だ必ずしも老いず、其傳ふべきもの、今後更に益々多からんこと、を君の爲めに希ふものなり。

道念の人格者

福住清兵衛君

東京に於ける化學藥品問屋として、其名を周知せらるゝ、日本橋區本町三丁目十四番地小西宗七商店の創業者、宗七君は大阪の人にして、嘉永三年を以て生る、家元と累代藥種商にして、君亦少壯にして之を繼紹したるものなるが、維新以降廣く洋藥の用ひらるゝに及んで、舊來の藥種商が漸次其勢力の失墜すべきを看取し、時代の推移に順應して、自ら大に進取せんと企畫する處ありき。

是に於て英斷にも、明治二十一年大阪の店舗を閉鎖して東京に移り、化學藥品及機械商たる、本町杉本商店に入りて、專ら新進化學藥の取扱を習得し、其商道を研鑽すること數年、大に悟る處あり。

斯くして明治二十五年始めて本町二丁目に獨立の店舗を開營し、試驗藥及工業藥を取扱ふ、是れ實に同店の今日ある澄觴なりとす、爾來氏一流の健實主義を以て牛歩遲しとせずして、尺進して今日に至れるものなり、氏の商人としての素養は之を大阪に於てせることゝして、其商風自ら東京に相應しからず、氏自身としては爲めに其豫期の成功を疾からしむる能はざりしや〻知るべからず、特に其創業の初期たる明治二十八年頃は、我化學藥業界の最も不況なりし時代にして、一段の苦闘を要したるものゝ如し、越えて三十年以降は業界も亦た頗る順調にして、他の商品の如く戰爭影響を蒙ること甚だ大ならざるが故に、一擧大に晋む能はざりしも、又俄然として損壞を蒙るが如きことなく、加ふるに其健實なる商風は、漸次地歩を堅固ならしめ、遂に今日の如く確乎不動の基礎を構成したるものなり。

氏は其坊間に見るが如き、淺薄なる才商にあらず、而して又た徒らに權謀を好ひの智商にもあらず、天資謙讓にして能く人に下り、一毫驕慢を挾む處なし、されば人能く氏の德に服し、好んで其傘下に集まる、氏が能く多くの青年徒弟を操縱して、永く首服せしめたる所以のものは、全く此天成の美德に由るものにして同時に其成功の一半亦係つて此處に存するものと云はざる可らず、特に舊來の藥種商が駸々として進化しつゝある時勢に醒むること能はずして、尙舊來の惰眠を貪りつゝある間に於て、夙くも時運の赴く處を察して、新運命の開拓に努力したるは、主として、其炯眼の致す處にして、其今日あるを得たるもの其由來する處亦實に此處に存せるなり。

氏は明治四十二年の交より、老餘全く閑に就き、店務の一切は之を長島市之助氏に一任し、自ら善良なる監督者として之を扶け、頗る清廉なる晩年に入れり、市之助君は乃父が東京に移れるの時は、尙年齡十四五歲の少年にして、爾來中學校及英語學校等に入りて、專ら學問の修業をなしたるが、會々藥律改正となりて資格を具有するものにあらざれば藥品取扱をなす能はざることゝなれるより、急速藥學校に學び、明治四十年藥劑師の資格を得て、有資格者として、益々祖業に奮闘したるなり。

小西宗七君

順應の明者

先代の退隱以來商風は全く一變せられて、純乎たる東京風に化せらる、今や同店の商業的規模は頗る擴大せられて、之をしも、十年前に比較すれば、眞に隔世の感も亦當ならず、目下荏原郡平塚村に同店の專屬工場を有して、主要の藥品を自供する以外、直輸入、及各外國商館よりの取引、並に內地有力なる製藥工場、岩井商店の如きは重なる仕入先にして、其關係の廣汎なる他に多くの比なし、勿論同店の取引先は、一般工業藥品とは其趣を異にして、專ら官衙、學校、鑛山、並に各工業會社等にして、市內は勿論、其地方的關係も亦頗る普遍的にして、關東關西共殆と其商圈中にありと云ふも可なり、特に最近は單に內地の需用のみならずして、遠く支那上海、並に南京方面の市場に向つて輸出するの量却々鮮少にあらざるなり。

一度時代の推移を洞察して、和漢藥を放拋して、新進化學藥を以て其商路を開拓したる小西一門は、恰も今の時局に於て更に發展の第二期を劃することゝなれり、元より此商業は化學事業の隆替と共に伸縮するの運命にあるものにして、勿論今日迄は專ら專門的方面の需用のみなりしも、今や製藥事業並に化學工業の未曾有なる勃興を見、將來我工業力のヨリ多く此方面に傾注せらるゝものあれば、從つて同店の商況は年と共に愈々益々繁忙となり、其消化力を增大するは極めて明なる事實なりとす、加之も其經營者たる君は、專門家として此種事業の知識者に屬すれば、之を市場尋常の同業者と比して、遙かに其價値を異にする處あるを見るべきなり。

同店は依然として小西宗七氏の個人經營商店としての形體を存續するも、其內容實質は法人ならざる合名組織として其一門の鞏固なる結束に依つて成立し居るものにして、十餘名の店員は支配人青木民治郎氏の周到なる指揮の下に、日常頗る多忙裏に奔驅しつゝあり、一見其旺盛を偲ばしむ、創業守成共に人を得たりと云ふべし。

年少にして商道に志し、父兄の諫言を遮つて、異鄕の主家に其身を捧じ、刻苦琢屬して獨立するや、幾多の苦惱艱難と戰つて、克く之に勝つ、今日あるを致せるもの畢竟するに、君の確乎不拔なる堅志と、其間の經驗とが與つて力あるを看取するに足る。

君は慶應二年德島縣阿波郡粟島村に生る、君の家は此地方の名家にして、君の父文八郎氏に至るまで、十三代の間庄屋として鄕黨に重きをなし、君の嚴父に至りより、所謂當時の寺小屋なるものを興して育英に努め、相俟つて地方民の尊重する所たりしが、維新以降社會組織の變動に伴ふて、家產漸く傾き又た昔日の威望を存する能はざるに及んで、小さき君の胸中には深くも自主獨立の念の萌すありて、君は此機會を以て、寧ろ一身の運命に一新機軸を出さんと企て、乃ち明治二十三年本所區相生町二丁目に獨立の店舗を設けて、藍販賣業を開始し、爾後不斷の努力を以て拮据怠らざりしが、日淸役後に於ては業界の景況活躍して、君亦た相當の產を成し、其業礎愈固からんとするに當り、人の勸說に餘儀なくせられて未だ嘗て經驗なき事業に放資し、之が經營に苦心すること年餘に亙りしも、遂に何等の光明を認むる能はざるに至りて、全責任を負て其終末を告げ、具さに失敗の慘苦を嘗め盡したるが、君は之が爲めして、痛傷を感じて以來、他勸的の誘因に依りて事を起すの極めて危險なるに想到し、後進を戒むるにも亦た常に自ら信じ自ら深く知る處あるものにあらざれば輒く手を下すべからざるを以てし、其自他を戒むること頗る至れるものあり、君が以來外來の動因に依れる失敗なくして今日に至れるもの、全く自重山の如きものあるが爲めなりしなり。

大正三年以降區民の輿望を負ふて、議席を區會に有し、更に本年市會議員となり、頗る熱誠を以て之が修業に努め、體得する處頗る深かりしが、不幸にして同店は明治二十一年に至りて閉店の悲運に際會し、君も亦朋輩と共に離散するの已むなきに至れり。

然れども此主家の悲運は、君の志をして一層堅固ならしむるの中間動機なりしなり、君は此機會を以て、寧ろ一身の運命に一新機軸を出さんと企て、乃ち明治二十三年本所區相生町二丁目に獨立の店舗を設けて、藍販賣業を開始し、爾後不斷の努力を以て拮据怠らざりしが、日淸役後に於ては業界の景況活躍して、君亦た相當の產を成し、其業礎愈固からんとするに當り、人の勸說に餘儀なくせられて未だ嘗て經驗なき事業に放資し、之が經營に苦心すること年餘に亙りしも、遂に何等の光明を認むる能はざるに至りて、全責任を負て其終末を告げ、具さに失敗の慘苦を嘗め盡したるが、君は之が爲めして、痛傷を感じて以來、他勸的の誘因に依りて事を起すの極めて危險なるに想到し、後進を戒むるにも亦た常に自ら信じ自ら深く知る處あるものにあらざれば輒く手を下すべからざるを以てし、其自他を戒むること頗る至れるものあり、君が以來外來の動因に依れる失敗なくして今日に至れるもの、全く自重山の如きものあるが爲めなりしなり。

大正三年以降區民の輿望を負ふて、議席に永年藥造したる業礎の一半を崩壞せられしも、再び營々として之が回復に努力し、其痛痍未だ癒えざるに當りて、日露役前の不況を受け、此時艱に處するの方法亦た頗る慘憺たるものありしも、戰役以降市況は再び回復して、爾來稍順調裡に推移したるものあり、此間實に君は勤儉を旨とし、誠實を經とし、勤勵を緯として遂に今日あるを致せり。

君が中頃にして一度未經驗の事業に著手して、痛傷を感じて以來、他勸的の誘因に依りて事を起すの極めて危險なるに想到し、後進を戒むるにも亦た常に自ら信じ自ら深く知る處あるものにあらざれば輒く手を下すべからざるを以てし、其自他を戒むること頗る至れるものあり、君が以來外來の動因に依れる失敗なくして今日に至れるもの、全く自重山の如きものあるが爲めなりしなり。

大正三年以降區民の輿望を負ふて、議席を區會に有し、更に本年市會議員となり、頗る熱誠を以て之が修業に努め、體得する處頗る深かりしが、不幸にして同店は明治二十一年に至りて閉店の悲運に際會し、君も亦朋輩と共に離散するの已むなきに至れり。

然れども此主家の悲運は、君の志をして一層堅固ならしむるの中間動機なりしなり、君は此機會を以て、寧ろ一身の運命に一新機軸を出さんと企て、乃ち明治二十三年本所區相生町二丁目に獨立の店舗を設けて、藍販賣業を開始し、爾後不斷の努力を以て拮据怠らざりしが、日淸役後に於ては業界の景況活躍して、君亦た相當の產を成し、其業礎愈固からんとするに當り、人の勸說に餘儀なくせられて未だ嘗て經驗なき事業に放資し、之が經營に苦心すること年餘に亙りしも、遂に何等の光明を認むる能はざるに至りて、全責任を負て其終末を告げ、具さに失敗の慘苦を嘗め盡したるが、君は之が爲めして、痛傷を感じて以來、他勸的の誘因に依りて事を起すの極めて危險なるに想到し、後進を戒むるにも亦た常に自ら信じ自ら深く知る處あるものにあらざれば輒く手を下すべからざるを以てし、其自他を戒むること頗る至れるものあり、君が以來外來の動因に依れる失敗なくして今日に至れるもの、全く自重山の如きものあるが爲めなりしなり。

大正三年以降區民の輿望を負ふて、議席

自重山の如き

角野庄太郎君

を區會に有し、更に本年市會議員となり、市政に參與して貢獻する處ありしのみならず、深く意を育英の事に注ぎて區內の學事に力を盡すこと多し、特に近來頗る商業道德の頽廢を慨し、折に觸れては之を當路の人々に謀る處多しと云ふ。

嘗つて君の人生觀を聞く、曰く世の富貴榮達は全く勞苦の報酬にして、世俗の常に云ふ處の僥倖又は偶然の幸運と云ふが如きは實際に於て在り得べきものにあらず、唯其成功發達の徑路を第三者が望觀する時は、或は僥倖にも見え、或は偶然の幸運にも見ゆるなり、と君は幼少の時代より之を以て信條となし、其所謂一寸を得れば一寸を攝み、一尺を得れば一尺を攝み、以て今日に到達したるものなり現代の輕薄者流は、少しく產を得れば直ちに知られんことを求めて、妄に其邸宅を壯にし、頻に賣名の具に接近して厭く處を知らず、斯くて終始僥倖の間に其身の榮進を望むものに比して頗る其風格の徑庭あるを見る。

君不幸令閨との間に子なし、乃ち其令弟を養つて嗣とす、由來君の家は長壽の系にして、嚴父文八郎氏は八十九歲の高齡を以て昨年易簀し、君が母堂も亦た今年九十一歲を以て、其迹を逐はれたりと云ふ、明治四十一年八十四歲にして自ら絲を紡ぎ自ら之を製織して　聖上陛下に獻納し御嘉納の榮を得たりと、君や年少雙親の意に忤ふて鄕關を去り、幾何もなくして獨立し以て其父母を安せしむ、既に孝の道に於て亦た至れるものとせざるべからず。

君亦た更に曰く、予は今や徒に產を成すに汲々たるの要なし、今後は其餘力を割いて聊か公共の事に其力を致さんとすと亦た以て其志の存する處を知るべし、されば區議の再選に就ても、夙に區民の嘱望する處ありと云ふ、君頗る俗的の趣味に乏しく、一意商賣を以て趣味となす、商估として成功する所以、其由つて成る處偶然に非ず、其所業化學染料の華麗なると雖も、亦不朽の國產として、今後の開發は一に君等の盡瘁に俟たざるべからず。

崇德の人

寺田君は明治十四年三月三日、德島縣名西郡、南島村に生る、父を阿部長八と云ひ、君は實に其三男なり、由來君の鄕里は和蘭の產地として、其產額天下に冠絕す、而して洋染の需用未だ普及せざるや同縣の蘭商は實に天下を舞臺として隨所に活躍したるものにして、青年子弟の此方面に業を修ひるもの亦比較的多數なりしなり。

君も亦小學敎育を了るや、明治二十五年十三歲にして、名西郡天神村の豪商武知米太郎商店に入り、電勉業に服して商道の硏鑽を積み、二十一歲にして同家を辭し更に志す處ありて東上したりき。

斯くて明治三十六年、初めて柴田商店に入り、新進の商道を硏究することゝなり同店に在ること實に前後九年、此間に於て、君は他日斯界に獨立するの素地は遺憾なく成立したるなりき。

是より先き君が同店に在るや、明治四十二年寺田家に入つて其嗣となる、寺田家は實に古き由緖を有するものにして、今を距ること百十七年前の開店に係り、初代を佐吉、二代幸兵衛、三代幸兵衛を經て君に至りて四代を閱す、實に染料商としては其沿革に於て寧ろ屈指すべきものの一なりとす。

同店は斯の如く單り沿革に於て見るべきものあるのみならず、其商勢に於ても亦た古來侮るべからざるものあり、特に君の義父幸兵衛氏に至りて、恰も需用界の變革に際し、舊來殆んど和染を專業としたるもの、時運の推移と共に、其商運を開拓して、化學染料工業藥品を取扱ふことゝなり、大正三年歐洲大戰物發以來の大活躍に乘じて、更に其商運は一段の進展をなし以て今日に至る。

斯の如きもの須く祖先以降堅實眞摯の家憲を遵守したる結果なりと雖も、抑々亦た君が年來の新進なる經驗を實現したるの致す處多かるべきなり、

今日同店が有する處の販路は東京附近一圓、並に市內特に本所方面には其華客最も多く、地方の同業者との取引亦極めて般盛を極めり、同店は啻に看板たる藍、染料、工業藥を取扱ふのみならずして、最近に至りてはセルロイド用、及靴クリーム用染料をも取扱ひ、其商圖日に益々般盛多忙ならんとす。

吾人が本編に君を收むる所以のものは君を以て商才澁渋の士となすにあらず、又必ずしも君を以て商界の風雲兒となすものに非ず、寧ろ一個の商人としての全部の裡より、商業道德上開却し得ざる美點を摘發せんとするものなり、君は能く主

寺田幸吉君

一片輕佻の迹を認めず、今日世上身を店僮に起し、主公の援助に依りて、一店の主となるもの幾何なるを知らず、然も一度順調の發展を見るに至らば、果然主家の舊恩の如きは之を忘却して、動もすれば反噬の態度に出でんとするもの滔々として成な然り、之をしも君の心事に比較すれば其の人格の厚薄到底同日の談にあらざるなり、君が才商にあらず、又豪商にあらずして、望を深く業界に繫ぐ所以のものは、全く此敬虔なる道德心の尋常企及し難きものあるが爲めなり。

君天資頗る溫和謙讓能く人と和す、而して趣味亦多しと雖も、就中最も嗜ひものは、圍碁なりと云ふ、家庭に於ける君は頗る多幸にして、君の義父母は尙健在にして、夫人ふく子との間、長男實次郎、次男直次郎、三男武夫の三兒を擧ぐ。

今君の年齡及境遇より推察すれば、今日に於て必ずしも斷定的批判を下すべきに非ず、君自身が頗る謙抑して自ら未成のものと信ずるが如く、事實に於て君の前途は甚だ多望にして、多くの光明を存するものなり、惟ふに業界の風雲兒は悉く此戰時の局を善用し利用して、浮雲の富を贏ち得たり、而して自ら大に足れりとして、前途の進境を見出すの意志に乏しきものすら少しとせず、君は此間に介在し、同じく戰局に齎せる幸運には浴せりと雖も、君の意や蓋し必しも滿てるに非ず、今や君の主業は一時の過大なる活況の反動を受けて、往年の雄勢を見るべからずと雖も、君等の乘ずべき機會は更に今後に於てヨリ多く到來し來るべし才人謀商の一巡り辛辣なる商戰を試みたる後こそ、重厚溫和なる君等の活躍時代は現出するなるべし、今や經濟界、思想界が共に舊套に厭きて局面の展開を望みつゝあり、恐くは今後十年今日の敬虔なる道義心を維持して渝らずんば、人心の翕然として君に向ふに至るべきと共に、其主業に於ても恰も君の得意時代の來るを見るに難からず、吾人は斯る紆遠なる見地に於て君の前途を祝福し、且つ比較的多くの期待を以て、君の將來に刮目せん

君は昨大正四年物故された青木喜助氏の令息である、本所松井町三丁目の現營業所は、君の先代以來の營業所であつて、君は明治二十一年東京に生れた、生粹の江戸ッ子である。

君は年齡から云ふても、未だ三十にならない青年である、從て多くの前途を有して居つて、其經歷には特筆大書すべきものもないのであるが、君の先代喜助氏と君とは、單に普通の親子關係と云ふ許りでなく、其家督又は營業に就て、他店に多く其例を見ることの出來ない、特殊の點があるのである、先代喜助氏は無類の樂天家であつて、又稀に見るの達觀家である、君の店は染料工業藥品商としては業界に於てそれてを押しも押されもせぬ格であるが、君の先代は今より十數年前、君が尙ほ十八歲と云ふ、青年時代に君に店務の一切を任して、云はゞ後見監督の委ねつて居つたのである。

斯の如くにして君は、一通りの敎育を終るなり、直ちに若い主人公として、此店の經營に任じたのである、個人主義の發達して居る、歐洲では家督又は世襲の營業と云ふ樣な事を以て、子孫の自由意思を束縛することがないが、我國の風習としては、一切が家族制度世襲本位から割り出されて居つて、長男としては將來其家を嗣ぎ、且つ父祖の遺業を繼續するを以て、唯一の責任としてある、今日でこそ時勢の變遷が急速であるから、此美風の幾分は打破されて居る樣であるが、今尙老人階級に於ては、此美風を損するを以て、祖先に對する罪惡として、動かすべからざるの信念を持つて居る、勿論家督の相續は法律を以て規定されてあるが營業の世襲は、其選擇の自由に任してある、併し其家名を嗣ぐと云ふ事が、祖先に對する孝の最大なるものであるならば其營業を世襲することも、已むなき事情のない以上、或る程度迄强ゆるの必要があるのである、之は單に祖先の勞苦を永遠に記念するの誠意から許りでなく、各自の階級を鞏固にし、發展せしむるの第一歩である。

後繼者の模範

青木喜一郎君

今近き一例を示すならば、近年農村の年々歲々疲弊して、田園が荒廢と迄は行かずとも、大なる發展を見ることの出來ぬのは、農業本位の我邦としては遺憾千萬の事である、而して其原因を探究すれば近來文明の發達と共に、地方青年の漸次田園生活を厭ふて、父祖開拓の地を棄てゝ爭ふて都會生活に走つた結果である、其時勢に依つて、如何なる職業にも盛衰浮沈は免れぬことであつて、之を他と比較して俄に心を移す樣であつては、餘りに近眼者流の仕事であつて、大國民の襟度ではない、此點に於て君の先代は、須く確い信念を有した人であつて、君も亦其鑄型の中に鑄出せられた人である、僅に十八歲の青年に荷も一店舗を一任したと云ふに就ては、最も通俗的に考へたならば、君が果して異常の天才であるか、但しは先代に何等か然るべき理由がなければならぬ、然れとも君の先代は、決して斯の如き理由に依つてゞはなく、君を早く店務に從事せしめたのは、須く青少年をして自營自活の精神を鍛錬せしめやうとの注意と、營業世襲の主義を最も健實に實行した結果に外ならぬ、抑々商人には學問は無用であると絕叫した二十年前の父老も、實は甚だしく頑迷であつたが、去りとて敎育に心醉して、其結果子弟を學究にして了ふと云ふ事は、商家としては大に考へねばならぬ事である

商道夫れ則ち一種の活學であつて、之が習得は其內容に於て歲月に於て、學校敎育と必ずしも徑庭はないのである。

君の先代は此意味に於て成功した一人である、斯の如き先代の遺鉢を傳へた君は天資溫良にして、然も非常に商道を好み餘暇あれば只管染料の實試驗に沒頭して、日もまた足らざる有樣である、されば之を君は昨年嚴父の物故に遇ふても、營業資產の關係に於て、何等の故障を見ることなく然も今回の染料大暴騰の爲めに巨額の利潤を得て、資產狀態は更に一層の隆盛と豐富を見るに至つた。

君の家庭は又窄に見る賑かな而して多くの骨肉を有して居る、現在は君の兄弟六人と若き君の令閨と其他の店員とが、極めて圓欒の裡に、家門の繁榮を謳賀して居る、君も亦此點に於ては幸運の人と云はねばならぬ。

君が少年にして此店の代表者となつて、今日に至る迄、能く嚴父の志を成し來つて、家門を繁榮せしめた功績は、特筆すべきものであるが、上來記述したるが如く、君の商業的經歷は、其修養時代と云ふ、第一期を經過した許りであつて、特に前年迄は嚴父の監督下に在つて、樞要の事は多くは嚴父の指導を俟つたことであらうが、今日よりは既に善意の注告者として、又監督者としての人が亡くなつて愈々萬事獨立獨行せねばならなくなつた君の任や之より益々重く、且大である兎に角君は多くの前途を有する丈、君に對しても亦吾人は、多くを將來に期待するものである、幸に家門の爲に又業界の爲に奮勵する處あつて欲しい。

君は埼玉縣南埼玉郡粕壁に生る、現今淺草區諏訪町に宏大の店舗を有し、巨萬の富を成すに至れるも其今日に至れる閲歴は、實に慳慢たる苦闘史にして、其忍耐其勤儉、恐くは人倫に絶したものと云ふても宜しい。

君は僻邑の商家に生れ、年値かに十六にして、後日商を以て身を立てんことに志し明治廿五年上京して、初めて知手を求めて、瀬戸物町の黒田市之助商店に住込んだのである、斯くて入店以來、君は天禀を發揮して、克く主命を奉じ、働き其上極めて異面目にして節儉己を持することも亦た一段人に勝つて居つた、そこで何時とはなしに、店主も君の將來に着目する樣になり、君の朋輩も亦た君を以て一種の變り物とするに至つた。

斯くて十九歳の時に拔擢せられて、上州方面へ出張販賣を命せられた、之れより君は更に一段の特色を發揮して、同店の名物男と評せらるゝ樣になつた、其任にあるや君は殆と黎明より夜半迄吃々として勤勞し、凡ての荷造りの如きも大方自ら手を下して叮寧を旨とし、其華客の開拓と賣上成績とに於て、異常の成果を得るに至つたのである、特に染料檀の取扱などに至つては、隨分面倒なものであるが君は此間怠らず主家の信用を向上し、華客の滿足を得ることに向つて、實に最善の努力を盡したのであつた。

此當時君の先輩としては、林、金井、服部、大竹などの俊材があつた、斯くて君は廿四歳の二月地方販賣の任に在つて三月尾關家の養子となるに就て、主家を去

自己の上に獨立せる

尾關長治郎君

當時尾關家は淺草の駒形町に錦繪商を營んで居つた、固より君の響得する處とは大に趣を異にするを以て、君は間もなく自分の修練したる繪具染料工業藥品商を始ひるべく、行商を始めたのであつた、乃ち寺島村方面から本所石原へ懸けて、繪草子や團扇の製造家が多いのを幸ひに塞暑に拘らず毎日五時頃には家を出て、薄暮家に歸ると、先づ普通な人ならば、疲勞して休息するが當然であるが、精力して愈々主業を以て獨立し、たのである。斯の如くにして時局以來、君の商運は益々隆盛を加へて富巨萬を重ね、大正四年四月には、現所の宏壯なる店舗に移轉し、同業成功者中の重なる一人となつた。

君の勤儉は獨り其商勢を盛ならしめた許りでなく、一面貨殖の能に富んだ人であるから、一厘半錢と雖も、替て之を等閑にせず、克く之を蓄積して、利用した爲めに、本所押上方面には夥多の貸屋をも所有して居る、實に君の半生は、殆と苦闘を繼續したものであるが、然も決して世俗の所謂慳吝なるものとはならず、性慈善にして、公共の志厚く、克く神佛を敬して之に歸依し、又能く後進を引立つるに就ても、太だ至れるものがある、又以て勤儉の眞諦に達したるものであらう今や君の店舗は寧ろ卸と小賣を以て、内及び地方を華客として居る、六七名の店員又深く君の美德に服し、各々精勵主家の爲に働いて居る。一言以て君の風格を評するならば、所謂恭儉己を持して、一點依頼の心を起さず飽く迄自己の上に獨立して、其天分を發揮したことは、之を龜鑑として普通の人に倣はんことを責むるのは、稍や極端な例の一つである、併し乍ら人生の成功なるものは、到底普通の徑路に於て得べきものではないから之を極端に求めるのは是非ないことである、唯併し普通人が見て至難の極とする處も、自ら向上の一路に向つて突進する場合には、決して第三者が考へる程に、苦痛のものでなく、所謂希望と共に活きた、活ける手本は則ち目の當り君に於て之を見ることが出來る。

獨立と云ふことも、其内容に於て意味に廣狹の差が生ずる、十年一日の如く主家に身を奉じて、而して後主家の補助に依つて一店舗の主となることが、殆と有ゆる店員の理想であつて、又多くの人々は之に依つて今日の地位を有するに至つたのである、然も君は此徑路に據らずして飽く迄自己の力の上に獨立して來た所は實に見上げたものである、吾人が特に君を立志傳中の人と推稱する所以は則ち此點に存するのである、徒に主の威を假り力を借るを以て能事とする、平凡兒の爲めに誠に活ける龜鑑ではあるまいか。

君は以上の如く全く自己の力を以て、自己天賦の幸福を開拓した人であるが、年齢未だ僅に卅七、其春秋に於て前途尙遙なりと云はねばならぬ、此絶大の精力と鐵の如き意思とは、今後如何に繼續して、其商圏を擴大するかゝ見物であらう。

△此頃國民運動がシコハンドの域を脱して即ち幇間的運動ではなく自主的自助的運動でなければならぬ、國民が其國民的自覺の時代に際會したのであると云ふ樣なことを唱說してデモクラシーの活ける運動を奬勵する聲を聽く。

△最う少しく内容を詳說すると吾々の實際生活と歴史とを抱合一致せしめて内に民主々義と君主々義とを抱容せしめ一致せしめて外に民族的發展の世界舞臺に健實なる民族的運動を行ひたいと云ふのである。

△更に之を詳說すると夢想的精神と打算主義との抱合一致であるとも云へる又戰爭と平和との抱容一致とも云へる『動』と『靜』との抱容一致とも云へる。

△兎に角德川三百年の封建時代に專制主義の上に無理に抱容一致せられた國民の實生活が王政復古感想と俱に明治創業の時代が裡に國民感想に二千五百年の歴史的跳ね返りをせねばならぬ時代となつて爲に開國進取の時潮は國民に世界的生活で例令形式にせよ暗示を與へたとは云ふとは内外俱に國民の全的生活に一種の大動搖を與へたのである。

△四十五年の明治生活は實に此間にあつて國民の内國的生活の上にも又世界的生活の上にも過渡期をなして錯雜せる生活の龜裂の上に其生活は投げ出されたのである。

△大正維新となつて是等國民の全的生活に對して國民的自覺、民族的自覺の時代が來たのである。

△國民的自覺の裡にはデモクラシーと打算主義が色彩鮮かに現れ來らざるを得ないと同時に民族的自覺の裡には君主々義と皇室中心主義とにマニズムとが強い意義となさねばならなくなる。

△茲に於て民本主義と君主々義との抱合一致、夢想的精神と打算主義との抱容一致、即ち根本的に國民の歴史と生活とを抱合一致せしめねばならぬ斷崖に立つたのである。

△此後の日本人は國内生活と國外生活との二分子を巧みに取扱つて行かねばならなくなつたのである。

眞手の男子

小田治三郎君

△斯の如き立場に立つた日本人である以上は其歴史の熱烈なる信仰者であると同時に實際の生活は如何にしても民本的自主的に革正して行かねばならぬ、世界的生活に於て民族主義者として熱烈であるべきと同時に内國的民的生活に於ては打算的であり。夢想精神的でありたい、民主的で而して絶對の君主的でありたい。

△記者は昨年下半季の業界を窃かに觀望して我時到れりとなし斯の主義と精神とを斯民と斯界とに絶叫したいと考へてゐた、慥かに斯界の業人は昨年の下半季に於て國内的商業から世界的商業と實際に經驗したに相違ない、是を少しく具體的に云へば一手販賣の商業が順進的に國產製造的となり合政的になる商議的になつて嘱てトラスト的に征伏せらるゝ暗示を得たのである、而して對外的商業の舞臺にまで漕ぎ出さうとするのである、云はゞ商家の生活が内國的産業から世界的産業の暗示を享けたのである商家の内省に強いローリングとピッチングとが是から内國的産業と世界的産業との海洋に搖き起されるのである。

△永い〳〵議論をした、江端鈴之助君を月旦壇の人となしたが江端君の舊宅があつた、無云ひ豐島町に江端君の舊宅があつた、無二の親友として交情蜜の如き小田治三郎君を今回月旦するに際して長談義を試みたのも全く小田氏の人格が吾輩をして躍として斯言をなさしめたのだ。

△吾輩が小田氏に初めて會つたのは新報主催の第一回運動會を企畫した時私が訪問したに始まる、其時非常に運動會開催に賛成して呉れた、私は其時私の腦裡に『慕しい人』と云ふ印象と『頼もしい人』と云ふ感情を授けて呉れた、其後會話するに從つて私は一種の人格に打れた打れざるを得なかつた、而して私は君を評して心窃かに英國の紳士を連想して私の夢想的人物の戀しさ懐しさ慕しさの氣分を斯人に投げ返へさずには居られなかつた。

△私の淺學をして云はしむれば個人として英國人を敬慕する、私は小田治三郎君を敬慕せざるを得ない。

△治三郎小田君は日本橋鐵砲町の田中半兵衛商店出身である、マルタ商店で押しも押されもせぬ老舗の出身者としてマル治商店の小田商店を其分身に得ることは相方の光榮であると思ふ、明治四十一年の四月頃今の京橋區弓町に開店した、勿論習得せられた、工業藥品と塗料の販賣とは販路をメキ〳〵擴張したのである。

△最少し評論せしむれば民本主義の人であつて君主々義の人である、吾輩は君に於て内國産業と世界産業との抱合一致點を見出すべき氣品の人と思ふ、ロマンチーズムな生活の裡に打算生活を忘れない人であると考へる進取的で決算式の人である。

△噫夫れ待るゝ君の氣品、その氣品の光輝が君の全的生活として認めらるゝ時こそ我産業界は幸福なるかな、我産業の爲め斯界に斯人を得たるを光榮とする。

君は明治十七年東京日本橋本銀町に生る所謂生粋の江戸ッ子である、君の家は染物業者として、相當業界に謳められて居たのであるが、然るに君は生家の本業を踏襲することなく、全然畑違ひとも云ふべき、藥種商に奉行したのである、業界に有名なる南川商店は、實に君の主家である。

君は十四歳の時に、南川商店へ入店して爾來實地を習得し、前後七年二十一歳の時には、約束の年季も無事に終つて、同時に徴兵に合格して、陸軍に入隊したのである、斯くて在役中日露戰爭に從軍し各地に轉戰して、偉功を樹て、勳七等に敍せられたのである、而して除隊と同時に再び南川商店に勤續し、滿二年間の御禮奉公を全うした、後明治四十一年の末に、始めて現在の營業たる染料塗料工業藥品商として、一店舗を持つてとゝなつたのである。

斯くて開店するや、君の商運は異常の發達を遂げて、僅に六箇年にして、店舗の狹隘を感ずる樣になり、更に神田區東龍閑町一番地を卜して、之に移轉することゝなり、到頭業界に於ては、押しも押されもせぬ、商店となつた、開店以降僅に六年にして、此處に至つたのは、一般の範疇を拔いて居るが、之れ時期到來の僥倖か、抑々亦た君の偉質が之を然らしめたのであるか。

君は豪膽にして、又最も細心な人である丁度膽汁質と神經質とを程能く混淆した樣な人格者である、古來人間の成功史は必ず、豪膽と細心との、二性格が指揮者となり、魁導者となつて、大事を爲して來たのである、併し乍ら此性格を個人に求める時には、豪放な人には得て細心な注意を缺き、細心な人には必ず法儒逡巡が宿るのである、個人にして此性格を具有するものは、今後の社會が渇望する處ではあるけれども、斯の如きは全く曉天の星である、君は確に業界に於て、此二大性格を具有し、兼備して居る一人者であらう。

君が細心な　注意の內容は、確に深く徹底した智力となり、而して其半面に於ては强大なる意志の人であると云ふことが解せられる、敍上君の閲歷から云ふならば寧ろ多くの成功兒に比して、頗る順流に棹した觀がある、從て盛衰興亡の渦中に在つて命限り、根限りの働きをして、其間に修養鍛錬したと云ふよりも、君の此二大性格は、天禀に屬する處が多い樣である、併し駿馬も用ひずんば駑となる君の性格も亦た南川商店の樣な、大商店に在つて、外界の刺戟に依つて、迸發して來たのである。

時代々々に依つて、其要求すべき人物は異るのである、既に知の時代は辭り去られんとして、當に來るべきは實力の時代である、而して實力は强大なる意志の後援に待たねば、形造ることが出來ぬ、即ち豪膽にして、細心なる人は、維持と進取との二方面を、同時に受け持つことの出來る人である、維持と進取とを同時に全うするは、即ち刻々に其大を成す所以

江端鈴之助君

放膽にして細心なる

である、君が開店僅に六年にして、業界稀に見るの發達を遂げたのは、畢竟するに上述の理由が、主として力あつたものと見ざるを得ない。

吾人は屢々巷間に、君の爲人を聞き、就中君には單に此豪放と細心の二德を有するのみでなく、都て一種の稜々たる俠骨があつて、友人知友の爲めに、常人の爲し能はざる處を行つた美談を耳にするのである、元來江戸ッ子には、見樣によつては一種の弱點にして、又美點たる俠氣がある、人情の上より最も至難なる、俠氣を發揮して、快を貪る江戸ッ子氣性は或る場合に於ては、奸者の利用する處となり、寧ろ愚を以て迎えらるゝことの多きも、君の如き理性に徹底した、眞正道理の命ずる處に非れば動かざる、强い意志を持つた人を透しての義俠は、如何なる場合に於ても、敍上の誹りを受くることなく、一片の俠氣は直ちに、相手方の肺腑を貫くことが出來る、此點に於て君は所謂從來の純江戸ッ子に、冷靜なる智力と、豪强なる意力を加へた人格者であつて、爾今要求さるべき、性格の典型であらう。

君の嚴父は長谷川繁次郎と云つて、君は其人の次男であるが、三十一年伯母の家名を相續して、現在の江端姓を名乘つたのである。君は又一方に於て、故舊緣者並に主從の情誼に厚く、獨立以降順流に棹して、刻下の狀態頗る得意なるものあるも、毛頭主家を思ふの心を失はず、儼然として、本支店の形式と情誼とを持つて居る。

君の年齡や今當に三十三歳、其既往を顧れば志業の基礎は既に成就し、其將來は甚だ豐富なる春秋を以て滿されて居る、從來幾多波瀾を以て描かるべき、業界に活躍すべく、多くの期待なきを得ずである、君の令閨は又佳人淑婦として、令名を存し、君の令息又頗る君に酷似すと云へば、家庭の人としても、亦た甚だ多幸なる人と謂つべしである。

君の放膽なる才氣の裡に營々細心なる態度は即ち小に居つて大に志し大に居つて小を忘れざる、後進の模範であらう。

我が業界に商人としてよりも、寧ろ凡ての舊型を蟬脫した人として、最も深い印象を與へて居る西野治平君を敍するに當つて、先づ君の嚴君先代西野治平君の閲歷から寫ふことゝしよう。

先代西野治平君は初老に至る迄麹町屋七條佐與太商店に奉公して、明治二十六年三月三日初めて獨立開業したのである。而して印度藍の好況に乘じて、大に活躍して產を成した、而して後柴田氏等の阪東青藍組起るに及んで、馬獅子インヂゴーピューアの販賣に全力を注いだのである、氏は實に熱誠勤勉の人であつて、人格も亦秋霜の如く凜然たるものがあつた明治四十五年の初夏　病を以て長逝されたのである。

君は故人の長息であつて夙とに東京に生れ、商工中學を卒業して、後柴田染料店の試染所に入つて、有馬吉岡氏等の薫陶を受けて染料の知識を體得したのである二十一歳恰も壯丁の年に一年志願兵として四谷信濃町輜重兵第一大隊に入營し、除隊の後結婚して父の業に從ひ、父の歿後直に其家督を相續したのである。

君の店は市內及近縣の染色業者を顧客として、餘りに華美でない營業振りを以て經營して居る、尤も日獨戰爭勃發以來染料界の活況に乘じて、相當の利益を獲得したけれども、極めて質實な方針を取つたが爲めに、所謂成金振りを發揮する迄には至らなかつたが、其代りに何等の負傷も負はなかつた、斯くて今日頗る順調なる營業振りを示して居る。

敍上記する處が所謂君の閲歷である。若し此閲歷のみを以てしたならば、業界の先輩と同列さするのは吾人は君の爲に忍びざる處である。いざ去つて一度君の性格並に其精神生活を一瞥しよう、君は君自身が常に確信し主張するが如く、世の中を公正に活歩するの勇氣を有して居る權勢に媚び富貴に諂ひ、若しくは幇間的の態度をすることは君の最も排斥する處であつて、常に商人として一種の理解と氣品とを具へねばならぬと云ふ持論を持つて居る、而して其が須く時勢遲れであると云ふ反駁が在つても、毫も意としない丈の信念を有して居る、世人は或は君を以て優柔な平凡な微溫的な人だと判定して居る樣であるが、赤裸々の君は寧ろ理想的に社會、又は階級に對して、猛烈な反抗心を持つて居る、加之我と云ふものが何人にも犯されぬと云ふ森嚴な自尊心を有して居る、意志の人としての西野君は先づ斯うだ。

理性に忠實なる

西野治平君

が併し君は一方に非常に明晰な理解力を持つて居る、而して人を理解し世間を理解し、同時に己を理解して居る、故に社會又は階級に對する反抗心を輕々しく態度に表現する樣な愚を演じない、又所謂先輩なるものゝ說話を聞いて、物質的成功者の範疇に學んで、大に爲すことを期さぬではないが、君は自分と云ふものを爾く無智にして無意義な生活の裡に投入して終ふことが出來ない、所謂自惚れもしなければ自棄もせぬ、最も冷靜に自分を客觀して居る、知の人としての西野君は先づ斯うだ。

君は未だ少年時代に新俳句に親しみ、碧梧桐氏の新傾向派運動に參加したことがある、而して拔くべからざる趣味性を此當時に培養し得たのであつた、壯年の今日好む處は瀟洒、求むる處は溫雅、追ふ處は淡彩、是れ悉く趣味に依つて構成せられた君の性格となつたのである、人生の曝き反面も、同時に冷酷なる半面も宇宙の大も、造化の微妙も物像のレンズに映ずるが如く君には感ずる、而して其感の一點を以て何事にも峻烈な批判を下し得るのである、君は常に凡ての商人として牙籌を弄して落花に咏ずるの風趣と餘裕とを持たしむべしとは、少くとも君の理想であるらしい、情の人としての西野君は先づ斯うだ。

君は常に自ら主張して居る、『自分は商人の地位に在るのを大に愉快とする、而して理解を持つ業界の一人となり得ることに大に努めて居るものである』と此一語の中には識見と努力がある、君の精神生活は此一語を以て殆ど云ひ盡して居る、而して吾人が知、情、意三方面から强て觀察をしたことに對して、君自ら結論して居る。

君は昨年來棚橋三千郎君と謀つて平凡會を造つた、之は業界の風淫逸に流れつゝあるに抗爭して、主として體力の鍊磨の爲にする機關である、是は決して君が突嗟の考ではない、寧ろ宿案である。又藍友會を造つたのは藍商中に何等の統一のなかつたのを見て之が鍵鑰を設けんとする叫びの反映であつたのである。

蓋し君を史中の人たらしめた所以も自ら判明するであらう。

今や世界的戰亂は漸く終熄して、世界を擧て經濟戰に移らんとす吾人は此戰局の今後の業界に如何なる影響を與へ、又業界の人が是に向つて如何なる對應策に出づるかを知るべく努力しつゝある、斯くて君の今後の措置に對しても、取分け一種の興味を以て期待して居るのである

意思の強烈と、堅き忍耐とを以て、獨力能く一箇の運命を異郷に開拓したる、近藤君の半生の活歴史には、花實共に具へたる美談も亦多し、君の苦闘時代は、復た好箇修養の時季たりしなり。

君は明治四年一月廿一日、福井縣坂井郡、池上村に生る、父佐右衛門氏の次男なり、家農を以て業とす、幼時郷黌に小學の課程を卒るや、心窃に上京して商事を以て其身を立てんことに志し、明治十七年年十四にして、一人の親友と相携へて、家人に告ぐることなくして窃かに上京の途に就き、沿道百餘里汽車汽船に依らず、哺旅舎を求め、鷄鳴駄を穿ち、十數日の後漸くにして東京に著し、當時南川商店の支配人たりし、叔父近藤清八氏の許に其身を寄せたり。

斯くて叔父に從ひ、日々出店して、店務を扶けつゝ後店員に列し、勵精業に從事したりしが、偶君年十八にして、南川商店の分身たる神田明神坂の染料工業藥品商池田六兵衛商店へ轉勤することゝなれり。

當時の池田六兵衛商店は、規律嚴格にして尋常の青年にては、所詮任に堪へざりしも、堪忍なる君は獨り能く其間に堪へて、六七年の間何等の批難を蒙ることなくして、勤續を全うし、内外の賞讃する處たりき。

是に於て君は叔父清八氏と謀り、尚其家に假寓しつゝ、一輛の箱車を牽いて、市内及近郷に亘りて、染料工業藥品の行商を營ひ、是れ實に君が今日の成功ある所以にして、清八氏の家や、正に君の爲めに發祥の地たりしなりき。

當時の業界は日清戰後の比較的好況なりし時機なりしより、君の徹底的の努力は、日に月に幸運を齎し來り、朞年ならずして大に業績を擧げたるより、此處に始めて日本橋區久松町に店舗を設け、獨立の商店となる、實に明治卅年二月十五日とす。

開店以來君の商運は年と共に伸び來り、加ふるに水野虎吉氏の如き、商才あ取れることと幾何なるを知らず、君常に當る番頭を得て、大に君を扶けて其商機に

近藤熊助君

謝するのみならず、其遺兒は殘らず是を引受け、一々是に學校教育を授け、業を與へて其後圖をなさしめ、尚君の店舗には其次男を伴ひ來りて專ら修業を督す、君が其律義なる行爲に至りては、凡そ君を知る人の均しく稱揚して措かざる處なり。

其他市内及横濱には、君の鞠育推挽に依つて、獨立の業を營める縁族あり、此一事以て如何に君が其故舊に厚きかを窺ふに足るべし、蓋し幼少故國を去りて、

鐵腸人の

乘ずる處あらしめたるより、幾何もなくして、掌固なる業礎を築くことを得たるなり。

其後幾何もなくして、君の叔父清八氏は長逝したり、清八氏は常に君が追慕するが如く君の爲に大なる恩人にして、父母に亞げるもの、君が轉々商家に從事する間は云ふも更なり、其獨立の準備をなすの時に當りて、君の爲めに綢繆の勞を時を追懷し、其舊恩を偲び、深く是に感

他人の間に勵淬したる修養の結果たるべし。

敍上の如く君の商運の頗る順調に發達し來りしに加へ、大正三年世界的の戰亂勃發して市況は活躍を極め、益々君をして僥運に導きしより、一躍して今日の大を現出するに至れり、君には幾多の僥倖あり、然も能く其幸運を逸することなく、是に乘じ是を善用して、必ずや善果を收めずんば止まざりし、君の精力と一種の

手腕とは、之を認めざる能はず。

令閨ちせ子は故情八氏生前自ら選定したる處に關り、其操行女德兼ね備はりたるを看破して之を君に薦めたるものなるが、合黍以來琴瑟相和し、擧やる處の子女既に六七を數ふ、君は元來商賣上の勉强家にして、青年時代より他に俗的の趣味を求めず、俗に所謂商賣好きと稱するが如く、其業務直ちに君の娯樂なりしかば、未だ一事の風柳を語るに足るものなし、唯釣魚は最も嗜む處のものにして、自ら閑あれば、必ず一竿を携へて蘆荻の間に快を行るを常とす、若し夫れ其社會に至りては、極めて質素着實にして、毫も分外を衒はず、己を奉ずる薄くして、而して人を愛すること深し、此點に於ては實に君は質實の君子人なり。

君產成り、業擴大し、大正四年　月日本橋村松町の現所に新に店舗を築きて移轉せり、今や店員六七名を用ひ、市内及地方殖と均等の勢を以て、商勢を擴張しつゝあるなり。

吾人は僅に以上の事實を以て、君が性格上の美點と、其行動の一斑とを觀察したるに過ぎず、若し時間と能力とを費すあらば、尚幾多の美點と長所とを探り得るものあるべし、要するに君の今日ある、少年時代より鋼鐵の如き意思を有したるに基因するものにして、其如何なる處に於ても落伍者とならず、當初の目的は必ず之を達して、其收ひる處を敢め、何等外來の誘惑に致されざりしが爲なり。

君や年齡尚四十有八、春秋尚富めり、凡そ小成に安ずるものに非ずんば、更に今後益々伸ぶる處あるべく、其特性を發揮するならんか。

君は明治九年都下深川の佐賀町に生れた生粹の江戸ッ兒である君の兩親は更なり君も亦幼少の時分から商人として立身するに志して君が十二の時に日本橋區堀留町の岩本染料工業藥品店へ住込んだのであつた。

此時分は東京の商家と云ふものは未だ全く舊風を脱する事が出來ずして小僧から番頭となり番頭から店舗を持つ樣になる迄の順序規律は非常に嚴格なもので今日のやうに中途から飛び出して行ように泳ぎ附けると云ふ樣な輕薄な事は却々に成功しなかつた時代である則ち君が當初主派な商人となることを理想として居つた事から推考すると少くとも小僧中僧番頭の順序を經由して主人の推輓によつて店舗を持つ迄の確い〳〵決心が出來て居つたに相違ない而して君は此無言の約束を實行した忠實の一人である。

兎に角君は最も氣長に最も確實な決心を以て特に忠實に主家の爲めに働いたのである君が番頭時代になつてから夏は熔金の暑さを避けず冬は凛烈の寒風を辭せず日夕店の世利帳を以て東奔西走得意の開拓と商品の賣込に苦心した事は今に尚君を知れる人々の間に一美談となつて傳へられて居るのに見ても如何に君が忠實なる精勤家であつたかゞ窺はれるである。

君は敍上の如く一面赤心を以て主家の爲に奔走し更に一面には最も眞面目に商道の研究に餘念がなかつたのである天性溫厚に過ぎた程の人であるから澄澈たる商才は表面に現はれないけれども人情の機微商略は具さに此間に於て體得したのである君の此店に在ること前後通じて十有四年であつた。

今更改めて云ふ迄もないが君の番頭時代に於ては染料と云ひ工業藥品と云ひ決して今日の樣に羽振の宜いものではなかつたので少しくチヨコ才のあるものや目先の利く連中は一方に駸々として改良され進歩して行く社會の要求に應ずべき有利を而してハイカラな商業に眩惑されて中途河岸を替へたものが少なくなかつた而も君は斯業に餘念なく主家に對しても思

無言の教訓者

坂倉榮次郎君

來世界的戰亂の餘波は忽ち染料の輸入難となり未曾有の價格暴騰となり此間同業者は巨額の利潤を博したが君も亦此順潮に掉して矢張り莫大な利益を博した一人である。

抑々生粹の江戸ッ子は其意氣に於ては天下に冠たるものであるが併し執著耐久の念に於て蓋し缺如した處がある君の四十餘年の經歴は抑々江戸ッ子の爲めに萬丈の氣焔を吐いたものであつて取つて以て

君は一體子福者である君は令閨との間に五男一女を擧げた家庭の主人公として父として些の寂寞を覺えないことであらう而して君には何等世評に上るべき又た累を家庭に及ぼすべき道樂と云ふものがないから其家庭は恰も陽春の如く溫いのである世には溫良人を服するが如き人でも其拭はれざる習癖として何等かの道樂を有するものであるが君に於ては其迹なきは誠に見上げた人格である。

只徒に勤勉と云ひ又精勤と云ふても連續した意味あるものでなければ大を爲すことが出來ぬと共に立志の人として語るに足らぬのである三年甲に從事し五年乙に手を染め又去つて更に行くが如くんば假令其間何程の勤勉があつても悉く徒勞である時間の空費である今顧みて君が十二の年から二十六歳の青年に至れる迄は兎に角修養の時代として一日も無意味の日はなかつたのである更に店舗の主人として今日に至る迄も亦然りである則ち其修養したる素質の實演時代であつたことをしも一面から云ふたならば何等の盤根錯節なき平凡の半生涯であるとも見るであらうが其精神的生活は矢張り數寄の運命を辿るより以上に活動し苦闘したに相違ない先づ四十一年間の君の立志的行動は以上の如くであるが兎に角今や君は根據を得た時代を經過して基礎を作るの時代今や既に作り得たのであるされば今後は則ち擴大の時代に入るのである君今や年齡に初老之より思慮益々圓熟し血氣收まり頗る圓轉なる商才を示すことであらう以て得難きの商材とする。

他の絶とするに足るべきものである。

更に云はしひれば意氣を以て鳴つた江戸ッ子には從て溫厚の分子は少ないけれども君の性格を一言に評下すれば溫厚の二字を以て居るのである君が内外の同情を一身に荷ひ主家の愛え又芽出度かつたのは一重に此溫厚の德に基因したのである君は常に此の天成の美德と無類の精勤とを以て無言の裡に其接觸して居る人々に感化を與へつゝあるのである。

ふ存分の忠勤を擢んで又己れも一派しの素養を得たのである。

君は斯の如くにして今より十五年前本所吉岡町に獨立して店舗を持つたのである斯くて主家と同樣の營業を開始したのであるが凡そ業界に於ては君の熱誠と著實とは誰知らぬものなく從て社會の同情も又多かつたから兎に角此店舗も順調に發達して年々相當の成績を擧げて追々其面目を改めて來たのである然る處一昨年以

君は現今本所區柳原町二丁目十八番地に營業所を有して繪具染料工業藥品商を營んで居るが君の四十二年の經歷も亦立派な立志傳の一である。

君は明治八年群馬縣の桐生に生れ生家は相當の機業家であつて君は其二男に生れたのである君も當初より商人として世に立たんことを思ひ立ち僅か十五歳の時に出京して當時銀座に大店舗を有して居つた羅紗商杉浦治助氏方へ住込んだのである然るに君は羅紗商となることに多くの望みを屬さず機會だに在つたならば他に轉じやうと思ふ居つた。

然るに丁度君の伯父に當る新居良助氏が丁度日本橋の堀留に染料工業藥品商を開業して居るのを幸ひに其方へ轉勤することになつた斯くて君は躍る心猿を抑へて緣の伯父を主人として日夕勵精商道に志し前後十五年間當家に勤續したのである抑々君の修養時代と云ふものは其取扱品は決して今日の如く好羽振を示したものでなく一種の藥種商が僅に文明の餘波を受けて新らしいものを取扱ふ樣になつたに過ぎなかつたのである然るに君が羅紗商を捨てゝ斯業に甘じたのは聊か同業の前途に看取する處あつたのであらうか抑々亦偶然か。

明治卅七年春日露の國交斷絶して干戈相見えるに至るや主家は丁度陸軍の御用を帶び居つたので君は滿洲軍兵站部附となつて久しく主家の爲めに其任に服して居つた斯くて君は終始何等の缺點なく主命を果して歸京し明治卅八年始めて本所に獨立開業することゝなつたのである。

尙此處に特筆すべき事柄は君は單に商人としての修得がある許りでなく其の商品の要部たる染料染色に就ては相當の科學的智識を有して居ることは君が獨立の始めに於てアーレンスの技師長室原氏に師事して相當に科學的智識を得たのである今日でこそ少しく教育ある同業者は相競ふて或は分析に或は試驗に夫々頭腦を勞して居るけれども其の平凡時代とも云ふべき當時に於ては商品として採算上の研究こそ盛なれ其實質の效用價値の如き意に

田村龜藏君

確信の人

て偏に伯母若くは緣の伯父の庇護に依るものとなすかも知れぬ若し然りとせばそは最も淺薄なる見解である何となれば教育家と雖も尙且つ其子の教育は學校に一任するが如く凡そ商店に於て多くの小僧番頭に伍して漸進せんとするに當り特別の緣故又は血脈を有するものは多くは中途にして去るか其進路を喪ふに至る然る所以のものは一方主家に偏愛あれば必ず其の當人は恩に狃れて增長し遂に大を爲すに至らずされば主家としても其親緣族を小僧番頭の間に伍せしむるは操縱上少なからざる苦心を要するものである君は此間に處して能く初一念を貫徹するに至つた迄には胸底深く此間の消息を悟了して克己忍性自ら强うしたるに原因し一方又主人の陶冶其宜しきを得たるにも敬服せねばならぬ。

由來群馬縣の地たるや古來俠骨稜々たる人を出す溫厚篤實衆人の儀表となる人よりも精悍倜儻の人を出す方が多い樣である君も亦其氣を稟けて容易に人に下らぬと云ふ利かぬ氣の人である六ヶしい人情の曲折を含める主家から漸次經上つて今日に至る迄には君ならずでは耐へられなかつた幕も少なからずと察する併し之が通常の人であつたならば其硬直は頑迷となり愚直となり遂に一身を過るに至るであらうけれども君の硬直は由來君に屬することなく兎に角却つて君に祉して居ることを思へば君の美點として以て推賞するの外はないのである。

君の家庭には令閨との間に男女各一人の子を擧げ店舗には店員が汲々として店務に服して居る君は亦家庭の人としても平和の中心點となり何等の缺點を見ないのである。

今回の染料工業藥品の暴騰は業界に取つては殆ど幾十年來の豐年であるか知れないが君も亦此千載一遇の機會に遭遇して多大の利益を上げて家門彌が上にも榮えつゝあるのである素より資本の貧富著眼の高下各々其結果を異にするけれども君の如きは其不斷の用意と難に處するの勇氣がある爲めに矢張り一歩も人に遲れず其成績に於て遂に人後に落ちなかつたのである。

君の三十歳に至る迄は少くとも修養時代準備時代であつた而して其獨立後は奮鬪時代であつて今は正に其第一期を經過したのである年齒僅に初老君が思慮手腕は之より更に鍛練され圓熟して其永き前途に向つて活躍せんと備へつゝあるのである既往を顧て疚しからず其將來を想ふて樂しきは君の如きに在る。

君は明治十一年芝松本町に呱々の聲を擧げた人であるが凡そ少年時代君の如き數奇の運命に翻弄された人も少なく而して又其品性人格を傷けなかつた人も少ないのである少くとも君は此點に於て後進に範たる特格を備へて居るのである。

今君の生立ちから紹介すれば七歳にして横須賀在船越に身を寄せて十五歳迄當時の小學教育を受けたのであるが土地が海軍の根據地であるが故に自然に其感化を受けて將來は海軍々人で身を立て樣と志し而して其實格を造る可く勵め修學に志して東京へ出たのが十六の時であつた併し別段學費の供給を受ける所もなく誰在つて面倒を見て呉れる人もない爲に先以て苦學しようと決心して某牛乳店へ配達に住込んだのである而して閑暇を求めて修學の目的を達しようとしたけれども四六時間殆ど店務の爲めに寸暇なきのみならず劇務の爲めに四體は綿の如くに疲れて了つて所詮目的は達せられさうもなかつたから到頭三年の後恨を呑んで横須賀へ還つて了つた。

斯くて君は手蔓を求めて横須賀區裁判所の雇となつて月給六圓を給與された其傍ら同地の順榮塾と云ふに入つて英漢數等の普通學を修めたのであつた所が曩には出京して苦學を決心した位であるから其勉强も一際目立つたものと見えて二年の後塾長の目に止まつて其紹介によりて鎌倉由比ヶ濱の小學校教員に推薦された時に君は二十歳であつた其翌年徵兵適齡で再び出京したが當時君の志は聊か變つたのである更に陸軍々人として立身しようと思ひ替へて陸軍士官學校入學試驗に應じた處が不幸にして不合格となつて了つた於是乎再び恨を抱へて口を糊すべく就職の途を求むるの餘儀なきに至つたのである。

東奔西走の結果君は府下淀谷村の書記となつて辛くも衣食を供せらるゝに至つたそこで再び陸軍生活に入學の途を購じた教道團入學の志願をした處幸にも合格したけれども果して入團し得るや否やは知れなかつた爲めに君の志は再び動いて日

麻田弘君

實に偶發の機會から巴石油株式會社の社員となつて後間もなく新潟縣の事業地に出張し爾來君は非常の精勤を以て同社の勤務に與り明治四十年迄無事に勤續して此間相當に蓄財も出來たが君は更に越後の地を去るの已を得ざる事情が突發したそれは明治四十年巴株式會社の寶田に買收された一事である是に於て君は久し振にて東京へ還つて來た。

歸京後君が以上の經歷は更に君に幸ひし本法律學校入學試驗を受けて合格して通學するに至つたかくて同年九月に入ると突如として教道團から入團の通知が來た君の志は再び逆戻りをし始めたが君は千思萬考した結果寧ろ法律を修める方が將來立身を容易ならしめ得ると考へ直して果然教道團に向つて願書の取下をしたのである幸ひに之は許可されて無事通學して居つたが後二箇年を經過し君が二十三歳の時初めて運命の第二期に入つて稍順調になつたのである。

敷奇の苦鬪者

人形製造は殆ど君を以て嚆矢とする國產奬勵の折柄斯業の如き切に其振興を祈つて罷まぬのである。

君の家庭は夫人の外に一男一女がある君の趣味としては謠曲であるが君は却々の通人と見るべき節がある今や君は往年の書生風を脫して完全なる商人として些の缺點を見ぬのである、君も亦其境遇を能嚼し消化するの妙手である。

以上敍したるが如く君の少年時代は血氣の定まらざるに乘じて或は教育者となりて大成せず苦學を以て成らず陸海軍人たらんとして又得ず其間轉々して官公衙の雇員となり所謂手を以て口を養ふの悲境にあること久し大凡斯の如き數奇流轉の運命を繼續したるものは必ず社會の壓迫を感じ世の冷酷を思ひ却つて此冷かなる社會に報いんとして執拗冷酷の人となり世を害し事を破るも少なからず然るに君に於ては些も此傾向なく一難の來る毎に益々其志を堅うして然も實業會社に入るや往年の左觀右稽を罷めて一意精根を傾けて十年一日の如く之に服し遂に相當の資格を作つて更に臺灣製糖に入りて第二の運命を開拓し而して後日獨立の基礎を爲したのは最も常識ある規律ある而して順序ある經過であつた君は今や半宵燈前に往事を追懷したならば恐くは門外漢の窺ふべからざる感懷があるであらう。

社會の進ひに從つて世路の艱險は日に益々甚しくなつて來る今日の青年が進路を開拓するに就て其智見よりも寧ろ意思薄弱なるの憾みがあるのみならず目前の利否のみに著目するの弊があるが君の如きは當に好個の龜鑑であらう。

君は明治卅年頃から臺灣製糖に入つて販賣係となつた斯くて前後五箇年間熱心に販路を研究し斯業の造詣を深からしめたのであつた大正二年現職を辭し後京橋區南大工町に居を卜し日本橋小網町三ノ廿四に臺灣製糖の特約販賣店として酒精販賣を營んで居る。

君は最近更に國產上感ずる所あつて紙壓搾の人形製造に志し目下工場を設けて大々的製造に著手して居る元來紙壓搾の玩具は明治三十年代に於て二三の製造輸出者を見たが其後餘りに振はぬのみならず

神田區久右衛門町、染料工業藥品荒物商牧野新七商店主、新七氏は所謂江戸商人としての堝中に錬化されたる、完全なる典型なり、純江戸商人として殆ど全たき資格を具有したる紳士なり。

君は明治十四年五月一日の出生にして幼名を勝太郎と云ふ、嚴君新七氏は房州勝山の人にして、夙に江戸に出でゝ、日本橋區大傳馬町通稱丸八と稱する、當時有數の筆墨問屋の店員となる、氏人と爲り謹嚴勵精にして、能く人の爲めに力を惜まず、終年東西に奔走して、周旋し扶掖して自ら慰藉となす、人其德に服して衆望日に加はるものありき。

氏の同店に在ること前後二十八年、必を傾けて同店の繁榮に全力を注ぐ、然も店主牧野氏は資性、磊落豪放にして、狹斜の巷に一夜千金を投ずるが如き、必しも、珍しからざりしも、氏の在るありて常に綢繆其宜しき得たりしも、後氏は當主牧野氏の姪を配とし牧野の姓を冒して獨立するに及んで破綻百出し、流石に世に時めきし筆墨問屋丸八も、哀れ潰滅するに至りぬ。

氏の牧野の姓を襲いで獨立するや、全く從來何等の經驗なき繪具染料工業藥品商を開營せり、當時君と肩を伍して同一の業を營めるもの、先代柴田藤兵衛、守田定七、田中半兵衛の諸氏ありて、然も平素の親交も亦た深かりしなり、實に今より四十年前の事なり、氏の丸八に在るや常に忠言耳に逆へて、屢々主公と相容れざるものありしも能く其頽勢を支へて疾く潰滅を防げるもの全く氏の忠勤勵精の致す處にして、氏の去るや倒潰の悲運に遭遇したるもの、蓋し已むを得ざる處なり、然も氏の如き天資と衆望とを有すれば、之く處として恐らくは可ならざるなし、其全く何等經驗なき現業に從事して、能く終りを完うし得たる所以のもの一に其人格の致す處たらずんばあらず。

君年十五にして、君の嚴君は、君を守田定七商店に託して、親しく商事の見習をなさしむ、君は斯くして後家に歸りて其祖業に從事す、當時君の店舗は日本橋

積善の繼紹者

牧野新七君

時未だ洋酒の普及少なく、其取扱に於ても亦頗る困難なるものありき、然も大に著眼する處ありて、是が取扱を開始せしひるや、事志に反して、君も亦其果ひを蒙ること頗る多かりしと云ふ、蓋し已むを得ざる事態の下に在りしなり。

然れとも嚴君の健實なりしが如く、君も亦た其遺鉢を傳へて極めて健實を旨とし、信義を信條として移らず、爾來主業に三昧して年々好個の成績を擧げ、且つ及んで專ら力を市内に注ぎ、逐年販路を開拓して、今日視るが如く牢乎たる基礎を築造することを得たるなり、斯の如く仔細に觀し來れば、平凡の間に移り來れりとなして、何等其間著しき變遷を認めざる同店にも、少くとも君を中心として二十年間の苦鬪苦戰の迹頗る歷々たるものあるを認識せしひると共に、君が好個立志傳中の一人たるに於いて、何人も亦肯定するに吝かならざるものあるなるべし、今や同店は同業界の一員として知らるゝのみならず、新たに素人染アニリン染料本舗として天下に周知せらるゝに至れり、人物、基礎、業況と相俟つて間然する處なき同店の前途に向つて吾人は無限の祝福を禁ずる能はざるなり。

最後に君の風格を一瞥せんか、一言以て之を約すれば、溫厚にして寛大なるが其個性なり、吾人寡聞にして未だ君の商略、權謀、手腕等、其技倆に屬するものを知らず、一個の君としては、人に接觸する頗る溫厚にして謙讓、人に待つに極めて寛にして容れざるなし、素より世の所謂良家に人となり、精神家なる故人の薫陶を受けたるが故なるべきも亦一天稟の然らしむる處たらずんばあらず。

吾人は今の如き巧利の世に於て好んで宿令を語り、因果を說くが如き愚を好まずと雖も、銘ずる處君の家は是れ一積善の家なり、故人が造次顚沛善を選みて移らず、人の喜びを以て自らの喜となし、其生涯頗る清福の間に一代の運命を開拓し其餘德は更に脉々として、君の一代に充放したるをも閑却する能はざるなり天此好賈人をして今後幸に餘慶あらしめよ。

小網仲町に在りて、先代勵精の後を享け既に相當の基礎と信用との上に立ち、君が商人としての發程は、斯の如く順調にして、且つ幸福なるものありき。

明治三十年君年十九にして嚴君を喪ふ斯くして君は一箇の少年商人として、一家を雙肩に擔ふことゝなる、其任や必ずしも輕からざりしなり、其後君の令姉に店員を娶はせ、以て牧野の本姓を襲はしめ嚴君在世の志を成さしめたりしが、當大正三年以降の勝局に處して、商策其宜しきを得、大に其基礎を鞏固ならしめたり、約言すれば、君が中年は恐く世の不幸兒と共に屢々不如意の間に人生と鬪ひ一通り世の辛酸を嘗破したるものにして自然に習錬し、事に觸れて修養し、其天資を玉成したるの結果たらずんばあらざるなり。

先代新七氏は地方開拓を以て唯一の商略となしたりしも、君の是を繼紹するに

TRADE MARK

IMPORTERS EXPORTERS

REGISTERED

DYE-STUFFS, CHEMICALS, PRODUCTS,

&

GENERAL MERCHANDISE.

H. SUGO SHOTEN.

本店

東京市日本橋區濱町二丁目十七番地

電話浪花 長三三八 長二二三 九〇

電信略號（ムツ）

米國染料會社
及ナショナルコーデッドペーパー
製造會社東洋特約代理店

染化學藥品雜貨
輸出入

菅生彦四郎商店

支店

米國紐育市フィフスアヴェニウー二二五

電信宛名 Hikoshiro Sugo

大阪市南區安堂寺橋通二丁目四十一番地

電話長船場 六七二番

HEAD OFFICE; 17 NICHME HAMACHO TOKYO

BRANCH; 225-5th AVENUE NEW YORK. U. S. A.

41 NICHOME ANDOJIBASHIDORI MINAMIKU OSAKA

大阪上杉治兵衛商店製造

登錄商標 ⊕ 東印郷 澁木エキス

關東一手販賣

本店 東京市日本橋區瀨戸物町廿四番地
電話本局 四九八五番 四八八一番

出張所 大阪市東區北久太郎町一丁目十四番地
電話 東 五一三番

出張所 東京府豐多摩郡戸塚町三百十五番地
電話番町 三三三二番

高橋善郎商店

ダール染料會社
日本特約店

萬歲糊 製造 發賣元
(織物用配合糊)

水野染料商店

本店 大阪市東區唐物町二丁目
電話 東 二〇九番 二五五三番

支店 尾張國一ノ宮町上本町
電話 三六八番

染料工業藥品
和洋紙砂糖　商

田 柳田市郎右衛門

栃木縣足利町六丁目
電話六十五番

工業藥品

繪具染料 治 各國塗料

營業品目

化學工業藥品
歐米各國塗料
和洋膠類
和洋布紙總
木材防腐劑
電氣諸機械
用藥品。
和洋アスフアルト類。

小田治三郎商店

東京市京橋區弓町十六番地　電話京橋二〇四八番　振替東京二〇六五五番

登録商標

REGISTERED
TRADE MARK
KONDOU'S STUFF DEALER
NIHONBASHI KU
TOKYO JAPAN

袋鼠印

力

近藤賢一商店

東京市日本橋區橋町三丁目

電話浪花千六百四十番
振替口座東京一六五二一番

染料工業藥品問屋

長印

浮粉及び生麩
ブリッチシューゴム
デキストリン

一片栗粉芋粉コーンスターチ其他澱粉各種
一工業用藥品クレー粘土精製食鹽官鹽元賣捌

一手販賣

H印

純良可溶性

ソルブルビジード
スターチ製造販賣元

染色の花をけさぬ整理仕上糊

東京市日本橋區本石町二丁目八番地

久

半田屋號

半田右一

電話本局四五六三番
振替貯金一九六八八番
電略（ハンウ）又ハ（ウ）

内外機業用糊一式
各種澱粉工業用藥
官鹽元賣捌品

富士製紙株式會社製精藍發賣元

東京市日本橋區本材木町二丁目十六番地

藍染料
工業藥品 商 阿波屋 寺田幸兵衛商店

電話局本局二七七一番
振替口座東京七五七九番

染料塗料工業藥品商

原弥助商店

東京市日本橋區大傳馬鹽町二番地
電話 神田五六三番
振替貯金口座東京一八六三八番

染料工業藥品商

東京市日本橋區本銀町四丁目

林彦治郎商店

電話本局四〇九六番

繪具染料工業藥品荒物問屋

東京市淺草區諏訪町十二番地

豐榮堂 尾關長治郎商店

電話下谷長三五四三番
振替口座東京一六四八六番

繪具染料工業藥品商

足立三商店

東京市日本橋區伊勢町十四番地

電話本局 四九二番 八七三番

出張所 大阪市東區北久寶寺町一ノ五 電話東 三八七番

繪具 染料
工業 藥品
印刷インキ
及材料一式
各國 塗料
油類化粧品
化學用藥品

明治製糖會社酒精特約店
ライジングサン會社貝印揮發油特約店

伊勢屋號

江端鈴之助商店

東京市神田區東龍閑町一番地
電話神田 三三二、九二七
電信略號（イセス）

繪具染料工業藥品商

坂倉榮次郎商店

東京市本所區吉岡町十四番地

電話本所一一五六番

染料工業藥品問屋

小島深料商店

東京市日本橋區堀江町一丁目

電話浪花一五四五番

PEACOCK BRAND

紙ヤスリ

布ヤスリ

クジヤク印

舶來品以上の品質

染料塗料工業藥品線香薫物問屋

永下田嘉右衛門商店

東京市日本橋區通油町十七番地

電話 長一六三三番

涙花 二九七八番

振替東京二一四九番

染料工業藥品商

三河屋號

青木染料商店

本所區松井町三丁目四番地

電話 本所 一三六三番

登錄商標

染料工業藥品問屋

東京市日本橋區小舟町

株式會社大竹商店

電話浪花（四二一八番 四四〇六番 二五二九番）

繪具染料工業
藥品純粹青藍商

東京市日本橋區村松町二十三番地

近藤染料店

近藤熊助

電話浪花五四九八番

振替口座東京二一八一四番

登錄商標

繪具染料
工業藥品

東京市日本橋區本銀町三丁目十三番地

森峰次郎商店

電話本局四六八番

化學藥品輸出入商

小宗商店

小西宗七商店

東京市日本橋區本町三丁目十四五番地

電話本局 長八二五番 四二八四番

振替口座東京二〇八六七番

發電略號（コソ）

メチールバイオレット製造販賣

繪具染料工業藥品商

東京市本所區柳原町二丁目十八番地

田村龜藏商店

電話本所二〇四〇番
振替東京九三六九番

工場　東京府下巢鴨村字巢鴨宮仲

營業種目

◎商業部

製紙原料　屑物一式
毛織原料　屑物一式
古銅鐵　一式

（工業部）

人造藍
硫酸礬土

東京王子

東洋ランル合資會社 工業部

電話長五番
振替東京一一六一〇番
電略トオヨ

素人用
早染料
アニリン染製造元
繪具染料工業藥品商
牧野染料商店
東京市神田區久右衛門町
電話神田二〇六三番
振替東京四六二一番

大兵肥滿堂々たる體格と然も嬰兒尙ほ親しむべき容顏とは先以て君が天有の美財たり而して君が更に一の大なるものを有するに至りては世上多く之を知らず曰く何ぞや君の實力之なり君の現れたる事業現れたる閲歴以外に於て君の底力ある實力に至つては世上之を知るの少きは勿論第一に君の風格の眞相すら多く之を知せざるに似たり其克く斯の如きものありしは君が未だ曾て妄に其鋒鋩を現すを戒めて其實力を用ふるに欝を以てするの用意ありしが故なり之れ吾人が君を以て負嵎の虎の如しと云ふ所以なり

君は明治四年六月を以て久留米藩に生れ後專修大學經濟科に學び二十六年業を了へ帝國生命に入り遂に大阪支店主任となり貢獻する處ありしが卅三年退社して飯田家を襲ぎて今日に至りたるものにして同家は慶應元年繪具塗料商となりし以來連續して同業を營み斯業界に於ける先輩者たり爾來大阪に支店を設け關西一帶は支店に於て擔任し東北北陸東海の一般は本店に於て直轄し英佛米の外品直輸入をなすと共に中頃大阪阿部ペイントの關東一手販賣をなす等年々隆盛の成績を收め年商內高本支店を通じて百萬圓を數ふるに至れり以て一代の成功兒として賞讃すべきものなからずや。

君や天賞勝大にして細心以て大事を成すの器を有せり今之を君が日常の細事に見るも先其店員を見るに於ても平生細心の觀察を以てし一度其信頼すべきを知るや必ずや一部の擔任となして毫末も之を疑はず由來君は此筆法を以て經營上の信條となし來りたるが故に現店舗尾張屋の組織は悉く部屬擔任制度として他店に見るべからざるの特徴を具有せり其觀察力の銳敏なるに反して克く人を信じ人を容るゝの雅量あるは其天禀人に幹たるに足るものあるを見る。

而して君の日常人に接するや極めて慇懃にして初對面の人をして直に陽春和平の想あらしむ之れ必すしも君が自から努むるに非ざるも所謂天眞の流露するものにして之れ又商人としての好個の典型を具信ず君は久しき以前よりの國產奬勵論者

業界の策士

飯田連庫君

有せるものなり。

若し夫れ吾人をして更に君を知れる範圍內に於て語らしめば君の半面は全く豐富なる思慮を以て滿されたるを見る凡そ君の事に當るや苟も機智一時を宜しうするを以て滿足せず必ず再考三考して然も機の到らざるあらば十年と雖も隱忍する極めて深大なる自重性を有せる故に常時屢々見る機才煥發の狡獪兒より之を見れば或は姑息の如く將た隱險の如く幾多の誤言を以て迎へらるるなるべしと雖も之れ悉く當らず凡そ商道に身を置くもの其利害得喪を考覈する宜しく君の如くにして始めて蹉跌を免るゝことを得べし。

之を要するに君は實力の人なり之れ事業上に君の樞要なる所以にして又た敵の恂々措く能はざる所以なり吾人未だ寡聞君の公人若しくは赤裸々たる個人として幾何の缺點あるかを知らず兎に角商道の人としては比較的凡ての資格を具有せるを信ず君は久しき以前よりの國產奬勵論者たり又同時に相當の抱負を有したりしも遂に其機を得ざりしが最近に於て其抱負の一端を實現するの機會に到著したり卽ち今回創立したる東亞ペイント製造株式會社の創設者なり抑此計畫たるや此頃徒に發生せんとする塗料會社に伍して鐘錄の利を網せんとするものに非ず期する處は外品の驅逐を計らんとするものにして君が該社設立後に於ける施設として從來開拓したる得意の凡ては悉く輸入品を用ひたるに引換へ卽ち其自家製造品を以て之が供給をなさんとするものにして五十萬圓の株式會社は必ずしも之を以て大となすに足らざるも幸ひにして君が平素の用意は效驗を發し其設備は驚くべき急速の進捗を見て其聲を聞くや幾何もなくして實に製造に其人を得て經營又適材を得たり吾人は此一事を以て深く望を將來に屬すべきを感せざる能はず此計畫や抑君が社會の表面に馳騁する初陣とも見るべく其武者振りの如何に鮮かなるかを見んとするものなり。

君の嗜好として行住座臥其指頭を捨てざるものはシガーなりとす而して君の偉大なる體格は酒量も亦發なりと雖も自重の君は可成之を避けて多くを用ひず其他の高尙なる趣味としては書道に深きものありと云ふ尤も君の手跡は天禀か修練かは知る能はざるも優に凡俗を超越したるを見る亦た愛すべきに非ずや。

君が家庭は令閨喜代子の外一男二女を有す長女喜久子は君の禀性を受けて才色共に麗秀之より大に其天賞を發揮すべかりしに昨年十四歲を一期として此世を去れり當時君の痛嘆慟哭は道傍の吾人吊客をして漫に同情の涙禁ずる能はざらしめたり。

君の性格經歷の梗概は以上の如し若し夫れ人生有爲の時代より觀察すれば年の年齡四十餘歲將に血氣の時代を經過して思想健實意思剛健思慮圓熟の境に入れるものにして更に其の底力ある實力は之より將に展開せんとする工業界に向つて一大活躍を試むることを信ずると共に商人として事業家として國產奬勵の理想を遂行せんことを望む。

君は明治元年三河國蒲郡町に生る、幼少郷校に學ぶ二十一歳の時、爾來商人たらんことを志し、始めて横濱に出でて、塗料商鈴木市三郎氏の店へ住み込んだのであつた。

爾くて以降滿三年間、拮据黽勉して一通の知識を得て、直ちに獨立して、太田町に店を持つたのである、斯の如く立身の早かつたのは、君の天資聰明であつて、且つ研究心に富み、鋭敏な感受性を有して居るからであつた。

爾來君の商運は、年々歳々發展して、今では兵庫の西出町と、浦賀と東京には芝口とに支店を有して居る、君の得意の營業課目としては、塗料、舶具、舶底塗料であつて、現に東洋舶底塗料合資會社の業務擔當社員となつて居るが、同社の營業狀態及び資産狀態は、其規模と共に某商會の其よりも遙に大である。

君は尙其他に琥珀の山を經營して居る、舶底塗料並にワニスの原料としては、必須の品であつて、然も年々輸入することの甚だ莫大であるのを慨して、之が防遏に志して、君は目下自産自給して居るが、之丈でも君個人の資産として相當な價値を有し横濱本町に店舗を稼せり。

更に最近に於ては、獨逸の石ロールの輸入して以來、宮内某氏が之が發明に苦心し、而も資力盡きて、意の如くならざりしを補けて、君は自費を投じて東洋石材ロール製作所を設けて、今日の如く製造を開始せしめたるが如き、如何に君が新事業に趣味を持つて居るかゝ解る。

君が斯の如く短日月にして、塗料界に出色の人となつたのは、一は君が天來の聰明性が之を然らしめたのであらうが、一面君には他に多くの例を見ない進取的氣象と、極端な事業趣味を有して居るからであると思ふ、此點に於て君は慥に、商界の快男子である、開港地の商人と云ふ好個の典型を具有したものである。

君は現今東京に住つて居るが、毎朝一定の時間が來ると直ちに横濱に行く、斯の如くにして四六時間、殆と進取的に積極的に活動し、營業上の勞苦を以て唯一の趣味として、他に何等の俗的娯樂を貪らぬは誠に當代の珍とする處である。

同じく立志傳中の人にも、堅忍不拔百難に堪へて、常人の爲し能はざるを爲した人もあれば、天禀の才識を以て更に努力を加へて、始めて大を爲すものとがある、君の如きは實に天禀の聰明性に加へて、商業に有する非常の趣味と、常倫の及ばざる努力を以て、今日の運命を開拓したものに外ならぬ、特に君が此の特長を以つたからだ、文明は海波的である、港灣的である、更に交易的であると云ふが長崎の地は此の資格に缺る處がなかつた、故にこそ日本最近の文明に對して關係の深い土地となつたのである。

開港場裡の人と云ふ特殊なる君の今日の立場から君を觀察せんとしたから前述の如き開陳ともなるのである、横濱が長崎程に文明に深甚なる關係はないとしても少くも東日本に與へた開港場としての役目は絶大なるものであると云はねばならぬ、此意味に於て横濱人を尊敬したい、而して横濱の此後の發達と云ふことに就いても餘程考へてやらねばならぬと思ふ文華過渡期に於ける眞面目なる開港場の役目を卒直に成遂げたと云ふ上に於て横濱程無邪氣なものはないと思ふ、外國商館云はゞブローカーとしての役目を成遂げて今や横濱は第二の仕事に向つて進まねばならぬ狀態となつてゐる、横濱の其後を悲觀する人は其餘りに手際に一筋道にブローカーとしての横濱の役目を仕遂げ拔いた處に許り考を運ぶ人の考である杉本君は此點に就いて横濱人として何と考へてゐられるか、君が横濱に於ける船具商として船底塗料として横濱在來の港灣的價値を永續すべく、君の意向は工業地として横濱を築かんとする意見を抱いてゐる樣である、君が決して目先許りの人でないことが解る。

吾人は横濱を以て恬淡な土地と考へてゐる、杉本君も恬淡な人だ先づ杉本君を横濱氣質の人と觀ると新しい物が好だ、新しい事物に對して信仰を持つてゐる樣である新しい運命新しい使命是等に横溢たる信仰があつたなれば此後の横濱の發達は悲觀するより外に途はないのだ此意味に於て杉本荒吉君を横濱の代表的氣分の人と云ひたい、君は三河武士で有名な三河の產んだ、而して思想界實業界の革進時代に人となり、内外知識の折衷點に人となり其天才と、而して時と處の宜を得た人で、大正の聖代に横濱此後の發展上好個の手腕家として横濱の代表人物として大なる活動を希望する。

海國商人の典型

杉本荒吉君

大阪塗料商工組合長として、業界の重望を一身に負へる岸上新助氏は、少年時代に於て極めて數奇の運命に翻弄せられたる一人として、亦た運命と健闘したる立志家として閑却すべからざる閲歴を有する一人なりとす。

君は明治元年鄕里和歌山縣鷺の森に生る僅に八歳にして、父に從て大阪に出づ、當時君の父新助氏は骨董商として、一廉の具眼者なりしが、君を携へて大阪に移住するや幾何もなくして病歿す、斯くて君は幼にして孤兒となり、祖父の許に引取られて漸く年齢十三に達するや、祖父の勸めに依りて、大阪立賣堀所在日向の物產問屋に住込むことゝなれり、之れ君が商界の飯を食める始めにして、天資謹恪の君は勵精能く主命を奉じて、前後十年間主家の爲めに勤勞し、商業上少なからず會得する處ありしが、天は尙君に幸するを恬みて、主家は偶々商業上の蹉跌に由りて破產の悲境に沈論し、眷族主從悉く離散するに至りて、君が多年の貢獻も亦何等酬ふる處なく、徒に恨を呑んで去るの已を得ざるに至れり。

當時君の年齢は既に弱冠を越へ、商業の經驗に於ては亦た相當の域に在りと雖も、未だ不幸にして君の爲めに推輓の勞を執るものなく、空しく髀肉の嘆と共に歳月を費すに過ぎざりしが、絲物の小賣店を開き又は行商を營しも到底亡父の遺志を繼ぎ家產の軌同することの遠きを憂ひ、斷然廢業の上偶々亡父の知人なる京都貿易商先代池田清助氏に母を介し前途の指導を委囑したり、之れ實に君が後年立身の端緒にして、君が生活は之より益々意義あるものとはなれり、君が同店に入るや其操行謹恪忽ち主人の親任する處となり、當時氏は京都貿易銀行の事務として、京都財界に雄飛したる折柄とて、君亦た常に主人に代りて銀行に出入し、遂に經濟界の新知識を吸集することも最比較的多かりしなり、其初めには純然たる商業に從事し而して更に金融機關に接觸したるが故に君の半生は誠に好個の研究時代として、最も有效に經過せられたに過ぎずして、君が傳記としては極めて難駁たるものなるも、此數奇の運命の裡に在つて、斯の如く有終の美を收め得たるものは、長者の指導宜しきを得たるものも亦一主因なるべしと雖も、抑々亦君が終始一個の主義を以て貫徹したるの力亦決して閑却すべからず、君が一個の主義とは何ぞや、曰く篤實之なり、篤實は如何なる人如何なる階級に於ても、以て處世の要訣たり以て身を持するの鍵鑰たるものゝしなり。

斯の如くにして君の同店に在ること、前後六年、二十八歳にして初めて同店を退き翌二十九歳に及んで、大阪に歸り獨立して塗料商を開業したるものなり、爾後君の業務は極めて順調に發展し、斯界に對する勢力も亦た年々に重く、遂に居然として大阪同業界の雄を以て數へらるゝに至れり。

以上は單に君が閲歴の梗概を列記したるも雖も、特に商人に於て最も要あるを觀る、篤實とは則ち理義に從つて動き誠實を以て之を盡くすに在り、君が此の美德は則ち主家の信賴となり、業務の發展となり、衆望の集り來る處となり、以て今日あるを致せるものなり。

今假りに吾人をして、君の爲めに其既往を回顧せしむべし、君の池田清助氏に從ふや、君が十數年主家に於て研鑽したる修得は、君の修養又は知識として、永く君の財產たるを得たるべしと雖も、君の築きたる地歩は全く主家の潰滅と共に、泡沫に委したるなり、換言すれば君は全く二十有三にして、新たなる生活に入りたるものにして、之れより根底を造り基礎を築きたるものにして、父母の餘澤に衣食する能はざるものとしては、非常の大打擊ならざるべからず、從て其精神上にも亦一種拭ふべからざる痕迹を刻し、所謂放浪生活を意とせざるの端を啓こと多し、こは全く吾人が日常幾多の不幸なる壯年者の徑路に就て之を目擊し、轉た寒心に堪えざる事なりとす、君は實に此危險なる人生の航海に於て、確乎不動の方針を採りて、移らざりしを見れば、君の意志の如何に鞏固なりしかは云ふ迄もなく、能く君を導きたる池田氏も亦尋常の人に非るを見る、更に特記すべきは君が後年獨立するに當つて、未だ曾て經驗なき塗料を選定したるの一事なり、尤も用意周到なる君にして或は、日常之が調査と研鑽とを怠らざりしものあるを想見するに足るものなり。

塗料界は日露戰後に於て極めて長足の進歩をなし、君亦此機運に乘じて家門大に榮へ、大正四年六月新町通りに住宅を新築して引移れり、公人としての多くの閲歴を有さゞるも、衆望從て同業以外にも及べるものあるが故に、君が公人的生活は寧ろ今日以後に於て、刮目すべきものあるべし、今は只僅に大阪西區六聯合衛生組合評議員及西六會幹事の職に在るのみ。

君の家庭は夫人の外二男三女あり、令息は目下大阪高等商業學校在學中にして年齢僅に十九操行成績共に佳良なりと云ふ君の令室は同業富永氏の令妹にして和氣洋々たる家庭の中心人物たり。

命を知れる人

岸上新助君

君は明治六年東京府下荏原郡大森町蒲田に生る而して君の家は代々酒造家であつて傍ら米穀の販賣をも兼ねて居つた。

君は明治二十四年十九歳にして横濱の松村商店に入りて工業藥品西洋塗料及鐵物等の取扱に從事したのである抑々君の商人として他店に從事したのは之が始めであるが此當時と云ふものは我商界は尙未だ進歩の遲々たるものであつて外人の我を見ると半開の如くであつて然も其一面には本邦人が外品崇拜の極點に達した時であつた日清戰爭の終るに及んで始めて列國も我の實力を認め從て我商界も亦大に覺醒するに至つたのである君は丁度吾國文明の過渡時代を商店員としての活動時代に經過したのであるから君の頭腦中には比較的多量の參考資料が包藏されてある譯である。

君は開港地として何事にも觸感の鋭敏な横濱に於て十有餘年の實習を得て明治三十一年同店を退いて神田區南乗物町今川橋畔に店舗を開き次いで深川猿江町に製造工場を起して塗料の製造販賣を營みつゝあるのである。

我安太郎當間君を見るにイキとスイを混合した樣な商賣振り商員等に對する君の衷心の意嚮は殊に恁な氣分に充されてゐる。

産業に對する君の意見を聽くに斷じて我利々々亡者の臭紛々と其選を異にしてゐる、營利を目的とする商人に營利以外に超越せよと云ふのは無理、けれども〳〵我が産業に對する國家的觀念に乏しい今日、營利は營利として更に大なる我産業上の國家的觀念を抱持して時に觸れ折に當つて衷心の熱望を吐露し實行し主張せんとする意氣は壯とせねばならぬ、我當間君は此の壯氣を衷心に抱持して未だ嘗つて離さない、和製ヴヮニシが出來れば其製品を手にして笑顔を作る、外國貿易と云へば君の眼尻は烈しく張る。

君の商賣は營利をのみ目的として積産の快、而して後の樂隱居を夢見てゐるの乎、否君は慥かに其産業界に投じたる君自身本來の使命を衷心に畫きつゝ終生此の使命を全うせんとする壯なる意氣が君の柔い彼イキな姿の底に根强く固著して離れないのである。

我當間安太郎君は分限者ではない、而かも壯なる意氣を藏して至つて平民的に活快な生活と商賣とを營んでゐるを慶せねばならぬ、今日銀行王としての安田善翁を偉としない記者も一介の安太郎當間君の意氣を壯とし快とせざるを得ない。

君は他の一面に旅行家である、法華行者である、茶道愛好家である、君は山嶽を好むと同時に茶道の趣味に入つてゐる其も是れも君は自己修養の一助であると云ふてゐる特に君が其の店員に對する態度及意嚮がチッと異つてゐる、店員には機時も商賣熱心なることを勸めてゐる、店員には店主として當に然るべきではあるが其説明が面白い、店員に商賣熱心なれと云ふのは、他日獨立して營業する時の素地を造れと云ふ意味である、店員に自立を希望すると同時に其商賣熱心なることを命令してゐるのである。

尙君の商店の營業課目が諸工業用藥品船舶織道建築用塗料類の直輸入販賣にあるを以て如上營業の外に工場の隣家に廠具田工場を設置して貧童に興産の法を授けると同時に一般の營業に於て輸出入の相殺を行ふて居るのである。

塗料界の覺醒以來君の奮闘努力は更に一段を加へたのである君が之れ迄心血を注いだものは卽ち和製ヴヮニスの改良であつたが最近に於て最も君が苦心を凝したものは防錆塗料である然も昨年君は遂に其製作に成功して之を賣出したが其功驗著しく江湖の賞讃を博した斯の如くにして始終君の頭腦は改良進歩の一方に働いて居るが商人としての所謂營利なるものは專ら之を求めずとも斯くの如くにして君の手に入るのである。

君は亦一面に於て人に幹たるの素質を有して居る其努めて巧言令色を避けつゝも其親み易く店員に對する又多くの場合無言の教訓者たる態度を失はず年齢今や僅に初老を超ゆ血氣漸く收まり思慮又聞熟の境に達せり加之見聞經驗又漸く深く向後益々殷盛を極むる業界に向つて君の貢獻や蓋し多大なるものがあるであらう。

所謂製造販賣に從事して居るものは業界に於て決して一二には止まらないが其違大の思想と抱負とに至つては先以て君の如きは稀に見る處である多くは廣告術を以て乃至は看板を以て其品質は兎も角も甘く人氣に投じて多量の賣行さへあれば我事成れりとする人に多いのである獨り塗料のみならず百般の工業が斯の如く徒に目を內に注いで居るが故に其品質の向上輸入の防遏なぞを慮ることが出來ぬのである君の如きは所謂營業としては素より算盤を持つて無り事業として則ち我邦の產業を最も價値あらしむる道に向つて努力しつゝあるのである。

君は言ふてゐる『輸出入の相殺は零になつて仕舞ふ、什麼しても輸出超過の營業振りに迄進めねば氣が濟まぬ』と、記者は我產業界の爲めに大に其健闘を望む。

當間安太郎君

大阪市西區北堀江御池通一丁目四番地早瀨塗料店は、歐米塗料直輸入、塗料塗油類一式問屋として、洵に完全なる體型を有し、其規模組織に於て、自ら他に一頭地を拔くものあり、當主は大阪塗料商組合の副組長從七位勳六等陸軍二等主計、早瀨榮之助氏にして、明治三十五年の開店に屬し、其沿革に於て太だ古からずと雖も、其發展の運須く著しきものあるを開却する能はず。

君は明治九年大阪に生れ、明治二十八年大阪高等商業學校を卒業し、後志願兵として入隊軍務に服したりしが、日露の役起るや乃木軍に從ひ、硝煙の間に克く軍屬としての任務を全うし、無事歸朝したり、抑々君が斯業に着眼し、且つ營業を開始したるは、是より以前の事にして大阪勸業博覽會の開設せらるゝや、當時君は其出品中塗料の著しく進歩し、而して將來重要なる工業品たるの位置を得べきを看取し、爾來心を傾けて之が研究をなし終に開店して其業志を達するに至れり、君は其以前に於て、大阪セメントに事務見習として入り、頗る新進工業の將來に期待する處多かりし折柄の事とて、君の決心をして一層牢乎たらしむるものありしなり。

君は自ら製造家たらんとするよりも、大なる販路を獲得せんとしたる初一念は、年々共に實現せられて、目今特約したる製造所としては、米國アリメ塗料製造會社、英國ダブリュ、エロース會社、大阪阿部ペイント製造株式會社、東洋木材防腐株式會社、スタンダードコーポレーションペイントコンパニー、英國マイダス會社、米國ラサル、ペイント、オイル會社、千代田塗料株式會社等を網羅し直取引所としては、英國トーマスハバックエンドソン、英國ブランデルスペンス、エンドコンパニー、英國インクハム、クラークエンドコンパニー、英國ハミルトン、ブラシュ、コンパニー、米國ジヤスケンドフア、ブラザース、米國スタンダード、ワニスコンパニー、獨逸ヘンタース、フアブツク、獨逸セストズリクゼエス、チユーツ等知名の製造所を網羅せり。

早瀨榮之助君

打算の人

而して君の商略や、實に細心周到細大遺漏なきを期し、商品を吟味し、力めて良好の品質を吸收して之が精選に苦心を拂ひ、且つ之が仕入の方法に就ても頗る心を用ひ、最も割安にして良品を蒐集すべき便宜を求め、時價騰落の機に先んじて常に利潤を逸せざるに力む、更に認むべきは顧客の待遇にして、其市內なると地方なるとを問はず、一度華客となるものに對しては、從來偶々見る輕薄皮相の方法を須ひず、極めて親切に、努めて其便益を謀り、以て永く其心を繫ぐの用意に至りては、同業者の大に學ぶべきものなりしとせず、其他通信機關を設けて、每時出入の狀況、市價の騰落等を通信すると共に、華客の照會等に對しては、極めて敏速に回答を與へて、其滿足を買ひつゝあるが如き、又最も地方荷主の苦痛を感じつゝあるを造りに就ても、更に一層の意を用ひ、堅牢を旨とし、交通の利便を善用する上に於て又た遺憾なき注意を拂ひつゝあり、約言すれば其營業方針は誠實を以て奮闘するものにして、販賣本位の同店としては、其主旨體型極めて完全なるものとして、推重に價するものあり。

斯の如く營業方針に就て、極めて華客の意を迎ふるに力むるも、其一面に於ては又た頗る健實なる手口をなし、商人の最も恐るべき、回收不能の厄に備ふるの方針も亦た頗る見るべきものありて存す、今試に同店の、註文に關する規定を一瞥せんか、諸官衙、法人團體、確實なる會社工場等を除くの外、其關係の親疎に關らず、概ね現金取引を旨とし、手金を受けて發送するものに對しては、其殘金は必ず荷爲替に依つて、個々の取引をなし極めて確實ならしむるの方針を採りつゝあり、同店が創業以降僅に十四五年間に於て、異常の發展をなし、今日の隆盛を見るに至れるもの蓋し所以なきに非ず、按ずるに明治の初年及其以降に於て、所謂過渡期に處したる商人は、放膽奇落伸るか反るかの間に馳驅して、能く大成をなし得たるも、社會の秩序整頓したる時代に於ては、頭腦敏密にして、組織的才能を有するものに非ざれば、到底其地歩を維持し競爭の渦中に在つて、自立すること能はず、君の如き商業的教育を受けて朝算暮算數に親しむべき軍屬となり、出でて商界に牙錆を採る、其修養に於て固より間然する處なし、加ふるに思慮周密小事を以て等閑にせず、溫良能く人に接し人を率ゐ、赤誠以て人に交はり、又業を營むの信條となす、十餘名の店員克く君の風格に服し、各々君の爲めに勞するを以て喜ぶ、洵に慶賀すべき事に屬す。

君又夙に謠曲の趣味を有し、殆と二十年來之を以て唯一の嗜好となすの外一切の俗的の趣味なく、一意專心主業の爲めに力を注ぎ其興隆を以て慰樂となす、君令夫人との間に一女を設け其家庭亦た頗る圓滿なりと。

今後同業の進歩と需用とは追々に其面目を一新せしむべく、君の斯界に覇を稱するも亦遠からざるを保すべし。

井上屋の當主渡邊雄藏君は、千葉縣の出身であつて、明治十九年始めて、出京し、日本橋區呉服町貿商町田半三郎と云ふ伯父君の家に寄宿して、當時設立された神田仲猿樂町の、東洋商業專門學校に入學して、餘念なく商業學の研究をしたのであつた。

然るに此時分は教育の普及は今日の如くでなく、專門學の眞價が今の樣に知れ渡つて居らず、從て父老の多くは、子弟の修學を以て一種の贅澤の樣に考へて居つた、則ち君の伯父君も昔氣質の此一人であつて、所謂商人には、學問は無用と云ふ、筆錄で、君の修學に反廢したのであつた、所が君も血氣旺盛の青年時代であつたから遂に學校を廢して了つた、其から後兩三年と云ふものは、放浪の裡にあるとあらゆる苦心を嘗め盡して、漸くの事人間は眞摯ならざるべからず、立身の第一歩は眞面目にあると云ふことを自然に悟了されて來た、乃で明治二十五年始めて渡邊商店の店員として、同家に住込んだのである。斯くて急轉して、商家の徒弟とはなつたけれども、商業上の實驗と云ふものがなく、之が修得に一方ならぬ苦心をして前後八年間、只管に主家の隆盛を謀つたのであつた、此處に少しく君が主家を語らねばならぬ、抑々井上屋は女主人の商店であつた、主人婦美子は今は額齡隱居の格であるが、先代新七氏の亡後今の商賣を始めたのである、婦美子刀自は埼玉縣熊宿の立場茶屋渡邊新七氏の後妻として、嫁したのであつたが、第一立場茶屋と云ふ商賣が何うしても刀自の意に愜らず、今の金六町の單笥屋の荷造盃の上に漉を塗る、其漉を賣ると云ふので、今の商賣に取り懸つたのである。而して漉を賣ると同時に之に附帶した商品も賣る、斯の如くにして、歳々其業況は發展して今日の塗料屋となつたのである。

之が女一代の事業であると思ふと、立派な立志傳中の一人として刀自の生涯は光榮あるものである、然も此女丈夫をして其志を遂げしむべく。終始其傍に在つて好個の補助者として、其衝に當つたのが

唱和の成功者

渡邊雄藏君

現主人の雄藏君其人であつた。

君は表面に於て必ずしも大なる特徴を持たぬけれども、君には補助機關として、又參謀として、他人の企及することの出來ない性格を持つて居る、其耐忍力行商賣に一種の趣味を有して、十年一日の如く勤勉する其恆心と辛抱とは、共に後進の龜鑑である、君の此性格特徴は何時しか女主人の眼底に映じて、明治三十二年同家の養子として其籍に入つたのである

由來人と唱和すると云ふことは、事實に於て抗爭するよりも面倒である、日本の風習として古來有ゆる階級に於て、其子弟の内から相續者を求める、家族制度の發達して居る我邦としては、自分と何等血族關係のない家に對しては、敬虔の念を以て之に盡すと云ふことが事實に於て六ケしいのである、さればこの主人若くは師老の目に止まつて、跡目相續をするものは實際に於て少ないのであるし、又其人が攀酌折衝常に自分の主義を行ひつゝも師や主人の意を迎ふるに餘程の努力を要するものである、君は此點に於て、殆と全き資格を具有して居るのである。世人は君の如き、和協の力に由つて成功した人を列擧して、直ちに後繼者を子弟の中に求むることの、最も安全なるを觀くけれども、見渡す處父祖の名聲を傷けるもの及び其事業を潰滅するものは、比較的此意味に於ける養子に多いのである畢竟するに大概なるものは、主從の間變じて親子の間柄となつても、其本體が他人である以上、常に自分の爲めに嚴重なる監督者としての印象を空うすることが出來ず、折に觸れては放漫の心萌して、冷淡の振舞を敢てするのみならず、若し嚴重なる監督者が、一朝世を去るか、專制力を失つた時には、忽ち假面を脱ぎ捨てゝ專横無節制の所爲に出づるを常とする斯の如き實例の頻にたる中に於て、君の如きは全く此臭味から脱して、義には忠良の店員にして、後には誠實無二の養子となつたのである、加之も君の今日より案ずる所、其商賣を好む處、其素行の修まれる所、世に處するに誠意を以てする所、將來益々商運を開拓して、井上屋の發展向上に腐心しつゝあるものたるを疑ふの餘地はない。

所謂此の誠意は、則ち君が商賣の上に現れて、斷じて粗品を賣らんと云ふ、一種の商業道德となつて來たのである、君は既往に於ては、此道德を以て成功し、今後も亦之に依つて、向上し發展することゝ信ずる、語を換えて云ふならば、十年一日の如く汲々として、銭鋏の貸を積んで一人前の商人となつたのも、君の如くにして果を得たのも、成功の價値に於て何等の軽軽がない筈である、其常人の忍ぶべからざるを忍び、耐へざるを耐へて成す處あるに至つたのは、共に傳へて後進を導くの好個の鑑とせねばならぬ。

今や工業は未曾有の勃興をなし、君の營業は別して、此勃興期に最も密接の關係を有するが故に、君の前途には幾多の希望と幾多の責任が重疊して居るのである。

大阪に於ける阿部一家は、關西商人としても、亦た江州商人としても、其歴名は天下の周知する處となつて居る、特に此處に紹介する、大阪阿部ペイントの經營者たる阿部市三郎は、單に江州商人又は大阪商人と云ふ舊型に捉はれて居ない、極めて進歩した點に於て、特筆するの必要を認めるものである。

君の家は遠き元祿の昔し、初代市郎兵衛氏に依つて興されたものである、累代疊絲及絲布商として、阿部市と云ふ商號寔に斯界の鳴物であつた、特に中興の祖とも云ふべき五代目市郎兵衛氏は、同胞二人と協力して、奮勵刻苦、克く江州商人の眞髓を發揮して、北越地方は勿論、遠く出羽奥州の果までも跋渉して、製品を賣擴め、更に北國地方の特産たる、紅花豈に麻絲を買收めて之を大阪に移し、紅花を絞つて食料紅を製出し、傍ら紅染と麻布との製織を始めたのであつた、斯くて此刻苦は程なく效を奏して、忽ち關東關西の各地に、近江麻布の名を嘖々たらしむるに至つたのである、爾來同家は江州の紅市と稱して、聲望東西に喧しいものであつたが、星移り物變つて、近代に至つては、紅は全く外國品の爲めに壓倒されて、殆と存在を失ふに至つたのである。

當主市三郎氏は、此中興の祖たる市郎兵衛氏を距る四代の孫である、生れて性敏捷、夙に父祖の志を次いで、克く其の主業たる疊絲緣布の販路を擴大し、著々として家名を揚げて居つたが、偶々明治二十年前後に於ては、全國で需要するペインキの總額が二十萬圓以上に達して居るにも拘らず、其が悉く輸入品であるのに著目し、之をしも國産としたならばと云ふ處に氣が付いて、何事も無經驗の此事業に着手したのは、實に明治二十一年二月の事であつた、其英斷、其先見、當時に於て正に一箇の快男兒であつた。

斯くて西區西野田下の町に製造所を設けて、愈々ペンキの製出に着手したけれども、何分にも當時我國に於ける技術は至つて幼稚のものであつて、適當の技術者は勿論、良品を出すと云ふことが、却々

塗料界の鼻祖

阿部市三郎君

して、重きをなせるもの、蓋し謂れなきに非ずである。

爾來此事業は益々順潮に發達して、殊には日清戰役は、斯業發展の大動機となつて、諸般の設備に改良を加へ、更に工學博士西川虎之助氏を顧問に聘して、專ら製品の改良に努力し、君は進んで英獨先進國視察の途に上つて、少なからず研鑽する處あつたのである、下つて日露戰爭當時には陸海軍工廠よりは多大の用命を受けて、遲滯なく之を完納して、間接乍ら大に軍國の爲めに貢獻したのである四十四年以降は、關税の保護に依つて、本品の前途は益々好望となつた爲めに、新たに吉川龜次郎博士を聘して、同氏の設計に基いて工場全部を改築し、斬新の機械を據付けて此處に全く理想的の設施を完了したのは大正元年の交であつた、斯くて年産二百五十萬圓の生産能力を有するに至らしめたのである。

今や其製出に係るもの頗る多く、亞鉛華、光明丹・鉛白、艦底塗料、ソクイッド、ドライアー、蓄電池用酸化鉛、其他凡ての顔料に及び、而して商圏の漸時擴張するに伴つて、全國各地樞要の地區に特約販賣店を設け、關西塗料界の覇を稱した、而して目今の製造設備は敷地總坪數二千二百五十坪、工場建坪千百五十五坪にして、事務所原料倉庫酸化水銀室鉛白製造室ペイント煉上室原動室貯油室修繕室等悉くを完備し極めて理想的の設備をなして到らざる處なし。

由來江州の地は、堅忍不拔にして商才に富めるの人を出して居る、現代に於て東西に其大を爲しつゝあるもの、殆と枚擧に遑ない位であるが、君の如く克く時代の進運を豫知して、大勢に順應した人は甚だ稀である、此點に於て全く君は江州商人の爲めに、一大氣焔を吐いたものであらう。則ち保守健實と進取の氣とを竝び備へたものである。

君の店舗は今尚ほ家憲として、其徒弟は必ず江州人を用ふることゝなつて居る畢竟するに父祖の遺風を紹ぐことゝ、其習俗が商人として好適である處に留意した結果であらう、君が一代の成功は斯の如くにして贏ち得たのであるが、更に經營に於ても亦類る堅實と誠實とを旨とし支配人關口源太郎氏又溫厚篤實の天賞を以て君を扶け、其業運は愈々隆盛を極めつゝあり、業界此消息を知るもの、實に此店主にして此支配人ありと傳へて以て君を祝福するもの、確かに君が積年苦戰の賚であらう。

本邦塗料界の鼻祖として推重せらるゝ所以のもの實に偶然ではない。

露光量違いの為重複撮影

自主主義の遂行者

田阪友吉君

法科の出身にして、夙に實業に志し、遂に素志の一端を貫ける君の如きは、現在及び將來に於ては、愈〻多かるべしと雖も既往に求めては、甚だ少數の一人たらざるを得ず。

君は元と東京の人、夙に順序ある教育を受けて、帝國大學法科に學び、明治三十三年業を卒へるや、君が宿昔の志實業に在りしより、直ちに日本郵船株式會社に入りて社員となり、同時に法政大學の講師として一方に教鞭を執り、頗る内外の重望ありしが、其後拔擢せられて、倫敦支店詰を命ぜられ三十九年迄滯英其任にあり、爾來歐洲各地に遊學して明治四十二年歸朝し、郵船會社を辭して、初めて日本ペイント會社に入る。

君は曾て法科の俊材として知られ、聘されて田阪家の家庭教師となり、更に其材幹の深く同家の嘱望する處となるや、請はれて同家の女婿となりて分家し、一家を創立したるものなり、爾來君は田阪家一門の新知識として、凡て本家の樞密に參畫し、嚴君を扶けて、事業上に貢献したること、獨りペイント會社のみに非ざるなり。

順序として暫らく、日本ペイントの發達に就て回顧する處あらん、今や同社は資本を抱擁すること五百萬圓、其販路の廣き殆と東西市場に比肩を見ずと雖も、其前身を訊ねれば、蓋爾たる規模の幾多の曲節を辿りて今日に至れるものなり、抑〻當初は明治十二三年の交、今の重役某氏等に依りて、僅に資本金二三萬圓の工業組合の如きものゝ設立せられ、極めて微微たる製出をなし來りしが、明治二十七年日清の役起るや、財界は之が爲めに好潮を呈し、船舶及建築界に於けるペイントの需用頓に增加し、此處に初めて發展の曙光を認め來たり、明治三十一年には其規模を增大し、組織を變更して二十五萬圓の株式組織となし、天下に其存在を認めらるゝに至れり。

以降十年ならずして、日清の役起るや財界は未曾有の活況を呈し、同社の業況も亦た頗る長足の發展を來し、明治二十九年には大阪に支店を設け、明治四十年より改良製品を出市することゝなれり、爾來財界又は事業界の盛衰に依りて其業況に幾分の隆替あるを免れざりしも概して順潮に發達し來り、其間事業の擴張と共に資本を增大し、遂に今日の如き巨然たる大會社となれるなり。

君の本社に入るや、恰も本社の新計畫當時にして、其計畫に翼贊し。以て今日の隆を見るに至りしもの、以て其功勞の一半は君が有たらずんばあらず、本社は戰爭毎に一新機軸を示し、漸次西に向つて發展の途あるに對して、君は將來に對する計圖の一端を語りて曰く、

今やペイント界の現況は、全く大阪を中心として、支配さるゝに至れり、本社の如き營業所を東京に有すると雖も、今や其實際に於ては、大阪支店と主客轉倒するの奇觀を呈し、他の同業者も亦た支店若くは出張所を東京に有するもそは只中央政府等の關係に過ぎず、依然として主力の大阪に集注されつゝある所以のものは船舶艦艇鎮守府等の、ヨリ多く關西に存在するのみならず、人文も亦從つて進歩しペイントの需用も亦た從て頻多なるが爲めなり、東京は之に反して都下の需用地として殆んと語るに足らず、既に東京以北と云ふ以上は一足飛びに北海道を數へざるべからず、併し之とても平時は、海運賃率に於て大差なきが故に、直接大阪よりするの遙に雙方の便益なるに似たり、斯の如くなるが故に、本社の事業も戰爭と共に進歩し、東より西に向つて發展しつゝある現狀にして、今後各社が相共に販路を海外に求めんとしつゝあるは、極めて自然の順序なりと云はざるべからず、加之單にペイントとしての需用は、人爲的に期待し得る處は極めて少量にして、多くは偶然の結果に俟たざるを得ず、然も今日の如く到る處問屋關係を以て殆んと地盤の容易に動かすべくもあらざるより考察して、無限の發展をなし得べしとは期待する能はず、唯近年一般工業の勃興し來りしに伴ひ、護謨電線燐寸又は一般顏料の原料として、亞鉛華の需用一段の面目を改め來りしより、寧ろ之が原料供給の地位に立ちて、以て收益の增大を圖り、而して一方塗料の改良進歩を策するは今後に處すべき緊肯事たるべし、と

以て君の識見拘負の存する處を知るべし君曾て追懷して曰く、余と同期の卒業生は今將た官に在りては局長たり勅任官たり、更に郵船の司僚に至りては、或は支店長若くは之に準すべき樞要の地位にあるべし、顧みて幾分の感慨なきを得ず、然れとも余は元來官人を好まず又た鶏口となるとも牛尾たるを喜ばざるの主義を有し、心竊に其素志の一端を實現したるを見て自ら慰むる處あるのみと。

過去に於けるペイント界は、之を譬ふれば寧ろ搖籃時代なりしなり、歐洲大戰以來工業熱の勃興に伴ひ、更に經濟界の膨脹に隨ひ、其需用の增大したる、眞に隔世の感に堪へざるなり、特に昨年以降原料亞鉛の騰貴し來りたるにも拘らず、内地の需用は勿論、海外の需用一層の增加をなし、各生產業者は晝夜兼行其生產に沒頭して尙且つ内地の需用をすら滿足せしむることは能はざるの盛況を演出したり畢竟するに海外市場を獨占したるの餘波なるべしと雖も、抑も未曾有の時局に際して、我生產能率の增大したるを證するに足るなり、加之其他の副生品たる顏料原料等亦た未だ曾て見ざる大需用を喚起し、同社の如きは一面大ペイント製造會社にして、一面には立派なる工業原料會社として、頗る長足の進歩と發達とをなせるものなり、されと兩三年來相當の實力を有する競爭會社の各所に現出するありと雖も、何等の影響を感せざるのみならず、其生產力と、會社の果實とは、一季毎に增大して當に底止する處を知らざらんとす、斯の如きは固より天來の時運なるべし、然も其時運に順應して今日あらしめたる經營の當事者たる者、當然其名譽と幸福とを享受すべきものたるべし以て君の風格を想ふに足らん、斯くみ進の工業に盡瘁す、亦業界得難きの材たり、家庭亦た頗る和氣藹々たるものありと。

器局の人

貴志富六郎君

大阪西區立賣堀南通六丁目大元商會は則ち君の經營する所である、君の今日に至れる、其成功の經路に就ては尋常商人とは又大に其趣を異にして居る、而して其性格及其抱負などを伺ひ來ると、現代の商人中、更に新進の頭腦を有して居るものである君は奈良縣郡山の出身で、舊柳澤藩士であつた、慶應元年の出生で、十六歲前後迄東京に在學し、其後大阪に歸つて、大阪府立師範學校を卒業して、教員となつたのである、然るに其後君の心機も一轉し、又君の周圍の事情も、君を導いて、明治二十五年以降は作州國產品の委託販賣を開始することゝなつた、之が抑々君が商道に足を入れるの初めであつた、併し乍ら君としては全然畑違ひの事にもあり、且つ幼時より商道の修養がなかつた爲めに、此委託販賣では、遂に豫期の成果を收めると云ふことが出來なかつた、明治二十八年時分は最も君の失意の時であつた。

其後に至つて新たなる動機は更に君をして新たなる運命に導いたのである、則ち日本ペイントの成立に當つて、君は大に同社株式の募集に盡力し、大に會社に向つて重ををなし、續いて彩工舍の立野氏等と共に、同社の關西代理店を引受け、少から ず製品の消化に盡瘁したのであつた、斯くて同社が關西工場を建設するに當つて、君は大に其進捗を扶けて、後には大阪工場の支配人となつた、而して明治四十五年迄一日の如くに其職に精勤して、其事功を擧やること蓋し少なくなかつたのである。

君は大正元年獨立して、新町通四丁目に大元商會と云ふを設けた、蓋し其年號に因んだのだとの事である、而して大正二年現住所たる、立賣堀南通六丁目一番地に移つた、然も君の開業は、一般商人とは大に其趣を異にして、直ちに製品を小賣店に給付する純粹なる問屋でもなく又直ちに需用家に向つて直接販賣する小賣商でもなく、又甲乙丙丁の間に介在して、荷動きの斡旋をする才取でもなく、一口に云はゞ一種問屋の又問屋と云ふた風の事實業界の爲めに貢獻した事も少らず、目下大阪塗料商工組合の評議員として、盡瘁しつゝあるのである、君天資頗る快潤、其事業に對しても常に相當の抱負を有して、向上心の旺盛なること卒に見る處である、然も素と君は教育家であつた丈に、常に業界に於ける、惡風と弊害とに著眼して、之が矯正に就いては不斷研究を怠らず、特に同業中船員に接觸して居る連中は、往々船員の狡猾醜劣なる風商法である、兎に角君が此處十數年來塗料界に繼ける地盤と云ふものは、其堅固なる警くべきものがあつて、家格よりも實本よりも、君に取つてはより以上の財產である、されば君は常に生產者と問屋との間に立つて、有力なる調節者の一人として深く業界に認められ、遂に問屋相事實業界の爲めに貢獻した事も少らず、目下大阪塗料商工組合の評議員として、盡瘁しつゝあるのである、君天資頗る快潤、其事業に對しても常に相當の抱負を有して、向上心の旺盛なること卒に見る處である、然も素と君は教育家であつた丈に、常に業界に於ける、惡風と弊害とに著眼して、之が矯正に就いては不斷研究を怠らず、特に同業中船員に接觸して居る連中は、往々船員の狡猾醜劣なる風習に浸染して、漸時高尙誠實なる、商風の日に增し廢頹するものあるに氣附いて之が矯正にも少から ず心血を潤いで居る

按ずるに今日の如き所謂過渡期に在る商人は、營々として自己の立脚地の安固を計り、其商圈を維持して行く事のみを能事として他を省みないものと、少くとも其周圍の事より著眼して、商道の改善を謀り、時代の進運に貢獻しようと云ふ側との二つが、最も旗幟鮮明に區別されてある、而して其前者は多く生粹なる商家に屬して居つて、後者は多く畑け違ひから這入つて來た連中に多いのである、仔細に商界發達の歷史を按ずれば、後者の如き一種の有志家が、生粹なる商人の間に介在して、其濁濁せる空氣に波動を與へて、之を指導し改善して來た事は古今實に一樣である、君の如き其初め教育家として、極端なる精神的の職に在つて、然も爾後幾何か其の商道に入りて、其苦味酸味を嘗盡し、更に事業界に手を染めて、其能力を經營の一方に注ぎ、側面から業界の生活を觀望して、相當の經驗と識見とを備へて、初めて純粹なる商人の列に入つた召の如きは、所謂業界の指導者として、改善者としては最も完全なる資格を具有したものであらう。

君は又一面に於て趣味の人である、而して高尙なる趣味の人である、謠曲は最も君の嗜み措かざる所、一方又俳句を能くし、常に風物感想を筆に寄せて、以て風流の氣を遣る處、好個紳士の典型である今や業界は工業の勃興と共に、世上注意の焦點となり、今後又日と共に其面目を一新するものあらんとす、幸に君の如き、雄大の抱負と機警の眼識とを以て、改良革正の急先鋒として、其努力に俟つは何ぞ必ずしも、一部の要請のみと云はんや。

君亦家庭の人としても幸福の大なるものあるを見る、令息克藏氏は既に伉儷を求めて、愛すべき孫のあるあり、長女リン子は他に嫁し、三女日英子（日英同盟の年に生る）は同家庭に在り。

君尙前途春秋あり、幸に自愛して業界の爲に其力を致さんことを望む。

露光量違いの為重複撮影

自主主義の遂行者

田阪友吉君

法科の出身にして、夙に實業に志し、遂に素志の一端を貫ける君の如きは、現在及び將來に於ては、愈〻多かるべしと雖も既往に求めては、甚だ少數の一人たらざるを得ず。

君は元と東京の人、夙に順序ある教育を受けて、帝國大學法科に學び、明治三十三年業を卒へるや、君が宿昔の志實業に在りしより、直ちに日本郵船株式會社に入りて社員となり、同時に法政大學の講師として一方に教鞭を執り、頗る內外の重望ありしが、其後拔擢せられて、倫敦支店詰を命ぜられ三十九年迄滯英其任にあり、爾來歐洲各地に遊學して明治四十二年歸朝し、郵船會社を辭して、初めて日本ペイント會社に入る。

君は曾て法科の俊材として知られ、聘されて田阪家の家庭教師となり、更に其材幹の深く同家の囑望する處となるや、請はれて同家の女婿となりて分家し、一家を創立したるものなり、爾來君は田阪家一門の新知識として、凡て本家の樞密に參畫し、嚴君を扶けて、事業上に貢献したること、獨りペイント會社のみに非ざるなり。

順序として暫らく、日本ペイントの發達に就て回顧する處あらん、今や同社は資本を抱擁すること五百萬圓、其販路の廣き殆と東西市場に比肩を見ずと雖も、其前身を訊ぬれば、蓋爾たる規模の幾多の曲節を迪りて今日に至れるものなり、抑〻當初は明治十二三年の交、今の重役某氏等に依りて、僅に資本金二三萬圓の工業組合の如きものゝ設立せられ、極めて微微たる製出をなし來りしが、明治二十七年日清の役起るや、財界は之が爲めに好潮を呈し、船舶及建築界に於けるペイントの需用頓に增加し、此處に初めて發展の曙光を認め來たり、明治三十一年には其規模を增大し、組織を變更して二十五萬圓の株式組織となし、天下に其存在を認めらるゝに至れり。

以降十年ならずして、日露の役起るや財界は未曾有の活況を呈し、同社の業況も亦た頗る長足の發展をなし來り、明治二十九年には大阪に支店を設け、明治四十年より改良製品を出市することゝなれり、爾來財界又は事業界の盛衰に依りて其業況に幾分の隆替あるを免れざりしも概して順潮に發達し來り、其間事業の擴張と共に資本を增大し、遂に今日の如き巨然たる大會社となれるなり。

君の本社に入るや、恰も本社の新計畫當時にして、其計畫に翼賛し。以て今日の隆を見るに至りしもの、以て其功勞の一半は君が有たらずんばあらず、本社は戰爭毎に一新機軸を示し、漸次西に向つて發展の迹あるに對して、君は將來に對する計圖の一端を語りて曰く、

今やペイント界の現況は、全く大阪を中心として、支配さるゝに至れり、本社の如き營業所を東京に有すると雖も、今や其實際に於ては、大阪支店と主客轉倒するの奇觀を呈し、他の同業者も亦た支店若くは出張所を東京に有するもそは只中央政府等の關係に過ぎず、依然として主力の大阪に集注されつゝある所以のものは船舶船渠鎭守府等の、ヨリ多く關西に存在するのみならず、人文も亦從つて進歩しペイントの需用も亦た從て頗多なるが爲めなり、東京は之に反して都下の需用を除かば、關東、東北はペイントの需用地として殆んと語るに足らず、既に東京以北と云ふ以上は一足飛びに北海道を數へざるべからず、併し之とても平時は、海運賃率に於て大差なきが故に、直接大阪よりするの遙に雙方の便益なるに似たり、斯の如くなるが故に、本社の事業も戰爭と共に進歩し、東より西に向つて發展しつゝある現狀にして、今後各社が相共に販路を海外に求めんとしつゝある からず、加之單にペイントとしての需用は、人爲的に期待し得る處は極めて少量にして、多くは偶然の結果に俟たざるを得ず、然も今日の如く到る處問屋關係を以て殆んと地盤の容易に動かすべくもあらざるより考察して、無限の發展をなし得べしとは期待する能はず、唯近年一般工業の勃興し來りしに伴ひ、護謨電線燐寸又は一般顏料の原料として、亞鉛華の需用一段の面目を改め來りしより、寧ろ之が原料供給の地位に立ちて、以て收益の增大を圖り、而して一方塗料の改良進歩を策するは今後に處すべき緊肯事たるべし、と

以て君の識見抱負の存する處を知るべし君曾て追懷して曰く、余と同期の卒業生は今將た官に在りては局長たり勅任官たり、更に郵船の同僚に至りては、或は支店長若くは之に準すべき樞要の地位にあるべし、顧みて幾分の感慨なきを得ず、然れども余は元來官人を好まず又た鷄口となるとも牛尾たるを喜ばざるの主義を有し、心竊に其素志の一端を實現したるを見て自ら慰むる處あるのみと。

過去に於けるペイント界は、之を譬ふれば寧ろ搖籃時代なりしなり、歐洲大戰以來工業熱の勃興に伴ひ、更に經濟界の膨脹に隨ひ、其需用の增大したる、眞に隔世の感に堪へざるなり、特に昨年以降原料亞鉛の騰貴し來りたるにも拘らず、內地の需用は勿論、海外の需用一層の增加をなし、各生產業者は晝夜兼行其生產に沒頭して尙且つ內地の需用をすら滿足せしむること能はざるの盛況を演出したり果竟すること海外市場を獨占したるの餘波なるべしと雖も、抑〻未曾有の時局に際して、我生產能率の增大したるを證するに足るなり、加之其他の副生品たる顏料原料等亦た未だ曾て見ざる大需用を喚起し、同社の如きは一面大ペイント製造會社にして、一面には立派なる工業原料會社として、頗る長足の進歩と發達とをなせるものなり、されど兩三年來相當の實力を有する競爭會社の各所に現出するあり と雖も、何等の影響を感せざるのみならず、其生產力と、會社の果實とは、一季毎に增大して當に底止する處を知らざらんとす、斯の如きは固より天來の時運なるべし、然も其時運に順應して今日あらしめたる經營の當事者たる者、當然其名譽と幸福とを享受すべきものたるべし以て君の風格を想ふに足らん、斯くみ進の工業に盡瘁す、亦業界得難きの材たり、家庭亦た頗る和氣靄々たるものありと。

大阪西區立賣堀南通六丁目大元商會は則ち君の經營する所である、君の今日に至れる、其成功の經路に就ては尋常商人とは又大に其趣を異にして居る、而して其性格及其抱負なぞを伺ひ來ると、現代の商人中、更に新進の頭腦を有して居るものである君は奈良縣郡山の出身で、舊柳澤藩士であつた、慶應元年の出生で、十六歲前後迄東京に在學し、其後大阪に歸つて、大阪府立師範學校を卒業して、教員となつたのである、然るに其後君の心機も一轉し、又君の周圍の事情も、君を導いて、明治二十五年以降は作州國產品の委託販賣を開始することゝなつた、之が抑々君が商道に足を入れるの初めであつた、併し乍ら君としては全然畑違ひの事にもあり、且つ幼時より商道の修養がなかつた爲めに、此委託販賣では、遂に豫期の成果を收めると云ふことが出來なかつた、明治二十八年時分は最も君の失意の時であつた。

其後に至つて新たなる動機は更に君をして新たなる運命に導いたのである、則ち日本ペイントの成立に當つて、君は大に同社株式の募集に盡力し、大に會社に向つて重きをなし、續いて彩工舍の立野氏等と共に、同社の關西代理店を引受け、少からず製品の消化に盡瘁したのであつた、斯くて同社が關西工場を建設するに當つて、君は大に其進捗を扶けて、後には大阪工場の支配人となつた、而して明治四十五年迄一日の如くに其職に精勤して、其事功を擧ぐること蓋し少なくなかつたのである。

君は大正元年獨立して、新町通四丁目に大元商會と云ふを設けた、蓋し其年號に因んだのだとの事である、而して大正二年現住所たる、立賣堀南通六丁目一番地に移つた、然も君の開業は、一般商人とは大に其趣を異にして、直ちに製品を小賣店に給付する純粹なる問屋でもなく又直ちに需用家に向つて直接販賣する小賣商でもなく、又甲乙丙丁の間に介在して、荷動きの斡旋をする才取でもなく、一口に云はゞ一種問屋の又問屋と云ふた風の

器局の人

貴志富六郎君

事實業界の爲めに貢獻した事も少らず、目下大阪塗料商工組合の評議員として、盡瘁しつゝあるのである、君天資頗る快濶、其事業に對しても常に相當の抱負を有して、向上心の旺盛なること空に見る處である、然も素と君は教育家であつた丈に、常に業界に於ける、惡風と弊害とに著眼して、之が矯正に就いては不斷研究を怠らず、特に同業中船員に接觸して居る連中は、往々船員の狡猾醜劣なる風習に浸染して、漸時高尙誠實なる、商風の日に增し廢頹するものあるに氣附いて之が矯正にも少からず心血を濺いで居る之が按ずるに今日の如き所謂過渡期に在る商人は、營々として自己の立脚地の安固を計り、其商圈を維持して行く事のみを能事として他を省みないものと、少くとも其周圍の事より著眼して、商道の改善を謀り、時代の進運に貢獻しようと云ふ側との二つが、最も旗幟鮮明に區別されてある、而して其前者は多く生粹なる商家に屬して居つて、後者は多く畑け違ひから這入つて來た連中に多いのである、仔細に商界發達の歷史を按ずれば、後者の如き一種の有志家が、生粹なる商人の間に介在して、其濁濁せる空氣に波動を與へて、之を指導し改善して來た事は古今實に一樣である、君の如き其初め教育家として、極端なる精神的の職に在つて、然も爾後幾何か眞の商道に入りて、其苦味酸味を嘗盡し、更に事業界に手を染めて、其能力を經營の一方に注ぎ、側面から業界の生活を觀望して、相當の經驗と識見とを備へて、初めて純粹なる商人の列に入つた召の如きは、所謂業界の指導者として、改善者としては最も完全なる資格を具有したものであらう。

君は又一面に於て趣味の人である、而して高尙なる趣味の人である、謠曲は最も君の嗜み措かざる所、一方又俳句を能くし、常に風物感想を筆に寄せて、以て風流の氣を遣る處、好個紳士の典型である今や業界は工業の勃興と共に、世上注意の焦點となり、今後又日と共に其面目を一新するものあらんとす、幸に君の如き、雄大の抱負と機警の眼識とを以て、改良革正の急先鋒として、其努力に俟つは何ぞ必ずしも、一部の要請のみと云はんや。

君亦家庭の人としても幸福の大なるものあるを見る、令息克禮氏は既に伉儷を求めて、愛すべき孫のあるあり、長女リン子は他に嫁し、三女日英子（日英同盟の年に生る）は同家庭に在り。

君尙前途奉秋あり、幸に自愛して業界の爲に其力を致さんことを望む。

君は故片岡宗吉氏の甥であつて同じく莊内の人である親戚の關係もあり且つ未來の後繼者として十二三歳の時分から片岡家にあつて普通教育を受け開成中學校を卒業するに至つたのである。

君は明治十五年六月の出生で三十五年徴兵適齢の時特に一年志願兵となつて入隊兵役に服したのである折柄其翌々年には日露の大戰となり君は從軍して各地に轉戰して殊功を樹て軍命を完うして還つた明治三十八年同家の家督を相續したのであるが誠に君の經歴を單純に記せば以上の如くである。

君はまだ三十五歳の壯年として前途尙春秋に富み從て今日迄の經歴の如きは僅に君が活動史の第一頁をも飾るに足らぬものであらう併し乍ら君の前半生涯は則ち後半生の準備時代とも見るべき幾多の事項は少くとも當代青年の範とすべきもので幾多の好事例を存して居る尤も君の今日あるは素より君が先代宗吉氏の眼鏡に止まる丈の美點があつたからでもあらうが抑先代の薫陶も與つて力あり又其遺訓を服膺して自ら渝らざるに努めた結果と云はねばならぬ。

君の先代宗吉氏は明治三十八年君凱旋後間もなく此家督を授けたのであるが當時親戚故舊は時機尙早を唱へて一は君の實力を危み一は先代の餘りに早き隱退を惜んだのであつたが先代は毫も之れに耳を傾けず斷々乎として之を決行したのであつた後常に人に語つて云ふ樣余が早く家督を養子に讓つたのは早く自ら產を治むるの手腕と家を興するの念を養はんとしたのである而して自分は常に善意の後見者の格で相當の注意を拂つて來たのである故に何等蹉跌なくして今日に至つたが思へば當時自分の見込は違はなかつたと常に誇つたさうである。

この一事を以て見ても君と先代との間には常に無言の教訓が敎授されつゝあつた事が明である先代今や亡しと雖も君能く其家督を守り其遺業を奉じて益々擴大を計りつゝあるは見上げたものである。

君は極めて男性的な人である第一其趣味

男性趣味の人

片岡勇次君

ざる點に見ても漫ろに千金の婿金を聯想せしめるに足るものがある。

君は又更に或る一面から見ると非常の精力家である今君の日常の生活狀態を見るに君が有する龜井戸の工場は先代以來ボイルド油及ペンキの製出を繼續して居るので君は每朝早くから職工服を身に纏ふて數多の職工に伍して實驗監督日も亦怠らず他所目より見ては殆んと一店舗の主人とは思はれぬ程である斯くの如きは素の内には運動が第一の慰安の樣であるさより君の斯業に趣味を有して居るが爲でもあらうが其精根氣魄と云ふものは到底近の鰻場を跋涉し夏季は專ら網を投じ釣常倫の及ぶ處ではないのである。

を垂るゝを以て最上の娯樂としてゐる最抑々君の事業たるや製造販賣であるから近同業者の大部分は空前の好景氣を迎へ工商二道を兼ねて居るのである入りては工て其額に汗せざる收益の多きを幸ひ所在製出の研究に心を碎き出でゝは牙籌に心花柳の巷に出入して酒色に耽溺する人の神を勞すされば尋常一樣の人を以てしては到底完きを期し難いが大凡製造販賣を多きが中に獨り君に於て其跡を見ないのは以て成功した人は押しなべて精根氣魄の は散服に値することであるされば之も常強い人に多いが君の如き當に其一人であに己れを奉ずることも亦薄く邊幅を飾らると思ふ。

右に述べた如く君は最に軍隊教育を經て砲煙彈雨の中に迄馳騁して來た人であるから國家的精神は人一倍に强く今や在鄕軍士となつて居るけれども尙能く在鄕軍人團の爲に奔走し喜捨し陰乍ら奉公の實を盡して居る而して君の快濶なる氣力も亦全く入隊の賜であらう吾人は寡聞にして惜むらくは君の研究上の辛苦や商道上の手腕に至つては多くを聞かず從つて亦之を批判するの資料をも有たぬ併し乍ら以上縷述した所の數多の君の特質と美點の上より推考したならば君が近き將來に於て我業界の中堅人物となることを保證して疑はないのである。

大正五年日本塗料の計畫せらるゝや、君亦た大に其議に參畫し、同社の成立するや、選まれて取締役となり同社の日本化學工業に併合せらるゝに及で退く、今後實業界に向つての活躍を偲ばしむ

古來鰐扁は性格に伴はず君が先代の寵を受けて其家督を襲ぎ且つ奉公の實を擧げて身を全うして歸つた迄は少くとも天の寵兒であつた而して君が一家團欒の溫き家庭を作り得たのは更に其寵遇を深からせしめたものである然も天公遂に君に永く幸せずして大正三年の秋に於て夫人は落葉と共に此世を辭した然も一男一女を遺して永眠したのであつた夫人は斯くて君の有爲の前途と愛兒の行末とを見る能はずして幽明界を異にして了つた君が當時の悲嘆や蓋し察するに餘りあり今や君後室を迎へて團欒故の如しと聞く今後幸に恙なからんことを祈る。

君は其溫厚篤實なる點に於て赤誠奉公の念厚き點に於て盛名江湖に高く所謂世既に定評のある人である君は天下の藥種場たる大阪道修町で育て上げた人である幼少成尾商店に入つて小僧手代番頭支配人と商店の官制全部の階級を經て後當家の別家となつたのである。

次で獨立して盛に營業を繼續した處が一旦は非常の成功を見たのであつたが不幸にして程なく蹉跌に蹉跌を重ね君が運命は急轉直下して俄に商勢を挽回するべき特みの綱も悉く切れ果てゝ了つた憐びべし君は遂に莫大小職工となつて所謂手を以て口を糊する人となつた。

世間で能く云ふ事である官吏の落ちぶれは代書も出來るが商人の落ちぶれは潰しが利かぬと云ふが一面の事實は確に然りであらう商道に深い修養がなくて徒に資本魔力に依つて推して行つた人が一度資本の力を離れて了つた時には恰も水を失つた河童の如くである其潰しの利かぬと云ふは大方此種の人竝に其修養が在つても意氣のない人を云つた事であらう。

さて深い修養と不屈の意氣と高遠の志を持つて居る君は果して如何にして其運命を支配したであらうか君は斯の如き千辛萬苦の裡にも年來の好伴侶たり指導者たる西國立志編の耽讀を怠らず其他苟も時間の許す限り有益の書籍に眼を曝して專ら新進知識の吸收に力を盡したのみならず尙閑あれば絕えず圖書館に出入して研究涉獵を怠たらず靜に機會の到來を俟つて居つた。

斯の如くにして雌伏十年果して天は君に立志の動機を與へた時は正に明治三十六年內國勸業博覽會に遭遇し外國協賛出品たるワニス及エナメルの二品に就て本邦未だ曾て先覺者なきに著眼して希くは斯業を以て一身の再興を謀り併せて國益の增進に向つて貢獻する處あらんと深くも心に誓つたのであつた。

爾來六年其間には試驗時代あり失敗時代あり原料苦心時代あり機械苦心時代あり雪虐霜鞭風沐雨親しく苦艱難を嘗め盡して明治四十二年大阪市外今池に地を

高潔の賈人

川上保太郎君

命令を受ける樣になつた。

今回の世界的戰亂の爲めに塗料原料の暴騰となるや奉公の念厚き君は敢然救濟の志を起して舊時の値段を以て市場への供給を誓ひ尙今同ベレンス絲ブリューの二染料の特許を得て輸入防遏に貢獻したのは共に得難きの美談である。

元來商人としての資格は商才に長じて貨利に敏ければ足りるのであるとの觀念は過渡の時代に於てこそ承認せられたであ

トして川上塗料工場を興して之が製出を始むるに至つた斯の如くにして君の製品は兎に角成功して輸入品の一部を防遏して鳥印の聲名遂に現代に現はるゝに至つたのである。

然も謙讓にして篤實なる君は毫も之の成功を以て人に誇らず尙相當の前途を有するものとして研究一日も怠らぬのであるが製品の聲價は日一日と高まり遂に塗料市場は云ふも更なり各官廳からも納付の品である其一部分こそ原料の騰貴又は拂底の爲めに餘儀なき騰貴であらうが大部分のものは五三の奸商が機運に乘じて或は買占をなし或は勝手に相場を吊り上げて同胞の財貨を私しようと企つた結果に外ならぬされば右樣の奸商輩は須く先づ君の面前に慚死しても可なりである。

千載一遇の好機會に於て敢然として私利を忘れて公益の爲めに力を致さうと云ふ君の心奮の高潔雪の如きには吾人は遂に讚辭を知らぬものであるが此人にして定評ある道修町に育ち半生不遇と戰つて困厄の間に人となつたのに想到すれば全く泥中の蓮華たるの感を深からしむるのである。

吾人は寡聞にして君に就ては其多くを知らないけれども君は爾來奮勵して往年失敗に伴へる善後策に就ても極めて正確高潔なる處置に出でたと云ふ事である抑々君の失敗たるや只單に身を以て落伍したるに非ずして一身の落伍と共に多くの責任を附帶したのである若し君をして當人ならしめば恐くは自暴自棄して市井に沒落し終生搖頭の機會がなかつたであらう然も其日常西國立志編を耽讀して先哲の遺訓を體得し一方新知識を追て徐ろに機會を俟つた處は實に其志の高遠と抱負の大なる誠に敬服の外ないのである善人凋落し奸者獨り立つを以て眞理と誤解して居る世の中に君は單り正義篤實の幸福を開拓し公益に資するの道であることを示した好個の龜鑑であると共に難難に遇はざるは人の不幸なりとの金言に對して立派な裏書をした人である。

ら今日に於ては一般思想界が覺醒されて商人には商人として人格を認め商業道德を重ずる世の中となつては單に我利一片を以て商界に任ずるものは漸次一般の擯斥する處となつて敗亡するの運命が近くなるのであるとは云ふものゝ實際の社會は上は紳商から下大道商人に至るまで物議を釀さぬ以上は精粗を混じ玉石を一つにして私利を營むに日も亦足らざるが常である近き一例が今日の暴騰したる商

數奇艱難は原より人生の喜ぶべからざる處なりと雖も、其心身を練磨し、以て有用の材たらしむるには此境遇上の洗禮を經るにあらざれば能はざるなり、小川君の如き洵に能く不遇失意の間に、其手腕と力量とを發揮したるものにして、君の今日ある全く數十年來修養の結果たらずんばあらず。

ライト塗料の發見者として其經營者としての小川市太郎氏の名は、今や其製品の有名なるが如く治く業界の知る處なり、而して其頭腦の明晰にして機警なる稀に見るの苦勞人たることも亦た君を知るものゝ均しく知悉する處なり。

君の祖先は代々勢州白子町に住し、紀州家の御用達を勤め、小川市兵衛の名は地方に重きをなしたるものにして、本宅は代々千歳問屋を營み、江戸の深川には肥料問屋、新堀及茅場町には棄茶問屋並に回船問屋等の支店を有し、勢旺侮るべからざるものありしが、何分其經營を手代に放任し置きたることゝて、嘉永年間には全く沒落し了れり、君の實父は再び志を起して、深川に肥料問屋を再興し、其經營に腐心したりしが、恰も君は文久三年九月同所に出生したり、當時同じく手代の奸計に罹り、其後數年ならずして、問屋株は勿論漁場貸金權利等擧て之を喜多村氏に讓渡し、且幼少なりし君をも同氏に託して君の嚴父は失意の裡に長逝したるなり。

其後君の慈母は他家に再嫁し幾何もなく死亡したれば、不幸なる君は愛の手に育はるゝの遑なく全く他人の手に依りて成長したるなり、爾來喜多村肥料店に在ること十有數年、同店は肥料雜穀材木回船等幾多の營業を有し、三百有餘の番頭に依つて支配せられ、主公は全く木像に均しく經營亂脈を極め、忽ちにして沒落の悲境に沈淪し、一族離散することゝなれり、斯くて君は明治十六年七月同店を退き、僅少の手當を受けて乳母の家に一時食客となり、幾何もなくして些少の緣故を有したる國分勘兵衛氏の知遇を受けて初めて本銀町に店舗を求めて乾物洋酒を

竟成の實行者

小川一太郎君

鬻ぎたり、然れとも經驗淺く加ふるに年齢尚甚だ若くして、經營當を得る能はず、其翌年閉店するに至りしが爾來志を屈せず、或は肥料商となり、或は金融機關の計畫をなし、或は沈沒船舶の引揚を企て、若くは銀行の經營者となり、又は遠く樺太に長驅して富源の開拓に苦心する等、三十年來殆と其席の暖かなるを知らず、然れとも其永年月の腐心多くは友僚の爲めに、或は見込を失へるが爲めに失敗に終り、遂に君をして赫々の名を成さしむる能はざらしめたり。

然れとも君は此の迂餘曲折の間に處して曾て其志を屈せず、甲を失へば乙に求め、乙に躓けば更に丙に志し、其間常に燃ゆるが如き希望を生命として終始したるなり、乃ち明治四十三年奥羽に碼石の山を得るや、其碼石を利用して室内塗料を製造し良好の成績を得たるより、爾來全力を之が販路の擴張に注ぎ、年毎に其具價を發揮せしめ、今や帝國の領土は更なり、遠く海外にも其需用を見るに至らしめたり、本塗料は其製造の初に於ては、重に微溫湯を用ひて溶解したりしも、漸次其品質を改良し、現今は全く冷水を以て十分の溶解を見る迄の進歩をなし室内用としては殆ど天下の逸品となれり、君が本業開始以來四五年に亙るの間は全く其效力の普及を全力を傾注して一日の寧處なかりしも今や昔日の素志は其一端を貫徹して、業界の一部に雄飛することを得るに至りしなり。

願ればなく君の半生は不遇失意なりしなり、然も君が胸中は常に溢るゝが如き希望を以て滿され來りしなり、然れとも志あるものは事竟に成ると云へり、全く君の如きは此格言に裏書したる、最も執拗なる實行者たりしなり。

惟ふに君の閲歴は、一言にして評せば恰も千山萬岳を踏破して、僅に坦々たる大道に出でたるに均し、而して其千山萬岳は悉く君自ら好んで選びたるものにして一方より見れば、如何にも數奇の生涯に似たり、然も仔細に觀察し來れば君は頗る多くの經驗を有せり、一事非なれば直ちに一事を創ぬ、未だ曾て其志を達するに當つて、其手の淀めるを知らず、世俗徒に才人を以て任じ、尚且一事の成らざるに逢ふや、閉塞して再び出でざるもの多し、君に於ては則ち然らず、吾人は實に君が幾何の精力と抱負と經驗とを有しつゝあるかに驚倒せざる能はず。

吾人は君を以て竟成主義の人となす、志の存するもの事竟に成るの格言は吾人も亦夙に之を體せり、然れとも如何なる場合に於ても之を信じて疑はざるの勇氣に至つては蓋し甚だ乏しきなり、君は此點に於て一の宗信を有するに似たり、蓋し君の如く竟成を信ずれば天下亦何事か成らざらんや、只憾くは君をして少しく晩成せしみたり、然れとも志の成りて後大を爲すは古今甚だ連にして其例に多し、精鐵の如き練鍛せる手腕と、修養とは今日以後必ず一事に傾注せられて、名を成すの機あるを疑はざるなり。

君は廣島縣三原に生れたる人、年齢僅に十歳にして大阪に出で、親戚の關係を有して居る山田繪具店へ見習として住込んだのであつた、而して當主の先代即ち君の叔父君に就て、繪具の製造から、商賣上の驅引に到る迄、何呉れとなく指道を受けて居つたのであるが、丁度君が十八九の時であつた、某師匠に就て英語を習ふべく通つて居る内に、偶然にも師の許に於て某英人に會し、職業上の話から圖らずも其英人が本國に於て、塗料製造の旺盛なることを話したのである、所が此話が青春の君の頭腦に深くも滲入して何とかして塗料界に馳驅して見たいと云ふ好奇心が起つたのである、今にして思へば實に此一英人の談片こそ、君をして今日塗料界に其名を成さしむるに至つた一大動機であつたのだ。

斯くて其燃ゆるが如き、希望と熱心とは遂に叔父に乞ふて其膝下を離れ、約半年は經驗ある繪具屋を營んで居つたが、程なく君は其素志たる塗料の製造に從事したのである、實に明治三十年の事であつた、當時に於ける我塗料界なるものは、蓋極めて幼稚なものであつて、其大部分は輸入品であつた、特に個人で塗料の製造に從事して居るものは、極めて少なかつたのである、此時に當つて君は塗料中に於てもワニス、ニス、其外エナメルの各種にも手を染め、幸にして繪具商が當時之等を副業として取扱つて居つた時代であつたから、自然に從來よりの取扱上の便宜もあり、從て此方面に販路を開拓するの割合に好都合なるものがあつたのである、當時君と肩を比して、同業に携つて居つたものは僅に二三の外に出でなかつた。

其後に至りて君は、一時ペイントの製造にも手を染めた、併し當時ペイントは既に會社又は個人共に、東西各地に完備したものが出來て居つたから、全力を之に注ぐことの必ずしも有利でない事を信じて專らエナメル、ニスの類を製造して、今日に至つたのであるが、其製出種類は驚く可し、現今六十餘種の多きに達してゝる所なく、又從つて技師を雇ふことなく、悉く素人を以て寄合ひ的に製造して居る所は、東西全く其例を見ない一人者である、則ち蒲生の工場こそ、君が半生苦心の歴史を物語る、雄辯なる紹介者である、兎にも角にも君は斯の如くにして、其力量信用共に業界の信認する所となつて、漸時業界に重きをなし、推されて塗料商工組合評議員となり、少なからず業界の爲に盡瘁して居る。

獨特の工者

比山茂松君

居る、然も君が此大成を得るに至る迄、曾て其製法を他に學んだのではなくて、假令ば其機械の構造でも、製造の方法でも凡て繪具製造の知識を基礎として、工夫考案したのである、普遍的に用ゐらるるロールの如きものは、同一型でそれ其他の粉碎機、混合機なとは、全く自己の腦底から考案したものであつて、實に其獨創の能力驚くべきものである、勿論製造方法に至つても、曾て之を師に受ぶて君の今日の成功を冷靜に考察すれば只其財を成したるや、商圏の大を成した位は寧ろ君の成功の副産物に過ぎぬ、元來日本人は一から十迄先進先覺に模倣して、曾つて新機軸を出すことの出來ない一面から云ふと情ない弱點がある、之に對して君は、何等他を學ばず他を模倣せずして、獨創的の工夫を凝して、業界に一本立ちをしたと云ふことは、實に工業界の爲めに一大痛快事である、之迄になるには其間有ゆる苦痛と困難と迫害とに戰つた事であらうが、其意志の鞏固なる洵に後進青年の好模範として、推奬せねばならぬ、其の成功の最も光輝ある部分は、實に此一事に存するのである、然も其資性謙讓にして、曾つて之を以て人に誇らず、立身成功の此處に至る、須く社會の同情に因るものとして又他を語らない、以て其風格の一斑を知るに足るのであらう。

特に其製品中に於ても、更に特筆すべきは、漆代用の俗稱ピカ〳〵漆と云ふものの如きは、專ら自動車なとに用ゐられて風雨に暴露して、然も非常の耐久力があり、且つ優美の色彩に富んで居つて、江湖の愛用する處となつて居る、君が開業の當時に比べたならば、今日塗料製造の進歩は隔世の感も皆ならん位ではあるが然も尚且つ泰西各國に比べて、多大の遜色ある今日、君の如き熱心にして、獨創的發明發見力に富んだ人のあるは、洵に業界の慶福にして、又國家の幸である、工業の方面に於ける君は、洵に以上の如くであるが、然らば商業上に於ける君は何うであるかと云ふと、實性謙讓の人で曾て同業者と激烈な競爭なとを行つた事はない、其商業振は、寧ろ保守的と云つても良い位であるが、一面に於ては頗る健實な所がある、意志確固、忍耐不撓、商才縱横の人であるが、然も又其半面には極めて細心周到の人である、今日の大成をなす所以のもの、決して偶然ではないのである。

令室との間に令嬢を設く、家庭又圓滿、切に其健在を祈る。

渾べて生命あるものは傳播性を有つてゐる基督が一度叫んだ眞理は驚くべき勢力を以て世界に傳播したのである、慥かに基督の叫んだ眞理は生命ある眞理であつた、彼れが自稱する樣に『永遠の生命』があるか什麼かは問題としても生命ある眞理であると云ふことは確である。

本邦にセルロイドが傳はつてからセルロイド工業と云ふものは驚くべき勢力を以て總ての物品に應用せられたのである、其傳播性とも稱すべき勢力と云ふものは洵に恐しい程である、セルロイドは決して理想的のものであるとは申されぬ。色々缺點はあるが、而かも其驚くべき應用力と云ふものは非常なものである、慥かに世の需用の何處かに應じ得た點があつたのである。即ち何處にか生命があつたのである。

日本の大政治家と自稱し誇稱する元老も大分老朽して來た、大正維新に當つて此元老の價値も幾分は減退した樣ではあるが仲々此元老元勳と云ふ部落を今遠かに我が政事圏外に放擲する譯けには行かぬ政事圏外に放擲する譯けに行かぬ丈け、餘命短かきながらも何處にか燭んなる生命があるのである、適者生存の眞理は此處にある、幾分でも生存してゐるものは生命あつて何かの御用を奉じてゐると謂はねば其世界觀宇宙觀は不愉快なものになるのである、生存物の眞價斯くの如しとすれば、今燭んに需用され應用せられつゝあるものに至つては寔に尊ぶべき世益物であるとせねばならぬのである。

記者はセルロイド工業の如何に應用力の盛んなるかを思ふと同時に本邦セルロイド工業上の先覺者たる我が田中敬信君を窃に尊敬する念の高まらざるを得ない次第である、君は歐米留學歸京後三井物産がセルロイド工業に著目し明治三十八年堺セルロイド會社を創設するに當り君は其蘊蓄せるセルロイド上の學識を傾注して其事業に資したのである、今日堺セルロイド會社の盛況は君の創業時代に於ける盡力の賜であると云つてよろしいのである。

活けるエ學者

田中敬信君

セルロイドの正に應用力の燭んなるを見るや君は自家專門の如く祕して以て隱蔽するが如きことなく、高等工業學校にセルロイドの講座を設けて現に君は講師として是が普及に勉めたのである。

尙君は非常なる國產工業の奬勵家で輸入防止の論客であり、且つ實行家である、此の意味に於て記者は一人の心强き同志を得た感なくんばあらずである。

更に君は府下王子町堀之内に田中工場を創設しザポンエナメル、コロヂオン、木材目留劑等の製作に從業し輸入品以上の精良品を製出すべく努力しつゝ、今や外國品に比して劣る所なきまでに進歩せる成績を擧つゝあるのである、玆に於て溫厚なる白羊の如き君も、一度談輸入品防止論に入れば落日の窓端に黃金色を投げ懸け、瑠璃窓に夕榮のキラ〳〵照り顯る時期まで語り談じ、論じて盡ぬことがあるのである。

君は寔に國產奬勵家である輸入品防止論者であり、兼て其實行家である。

殊に君は其半面に君の精神家的なる色彩が窺はれる、餘談教育のことに及び日本精神界のこと等に至ると君は新興味を以て領き、更に開口草茂き野邊の山川の如き語調を以て語り出で語り告げて飽ないのである。

人は物質と精神より成る、否世界は此の二方面より成るのである、人間としては此の二面の均分點に其完成がある。記者は世の所謂精神家と看板を擧げた人々即ち宗教家教育者等の側の人に失望すると共に、實業家產業家等の人々より思ひ設けぬ精神上の佳話を聽く度毎に其歡天地喜の情に堪えぬのである。

君が既往の經歷は、上來記し來つた樣に殆ど君が一個の運命に緣因されて、深くも爆發物其他の研究に一身を委ね、勞々國家にも亦た化學工學界にも貢獻して來たのである。而して現在は君の該博なる學識と、經驗とを運用して、半面には一個の工業家となり、尙半面には其知識經驗を以て、育英の任に膺り以て、間接に工業界の爲めに盡して居る。

更に君が將來に於ける價値を見んか、時や當に空前の工業勃興時代に遭遇して、到る處幾多の資本は投ぜられ幾多の新設備は創設されることゝなつたけれども之を要するに其の技術者眞の經驗家と云ふものを得ることが出來ず、行く處として此嘆聲を聞かぬ處がない、幸にして學校卒業生は無數に在り乍らも、眞に此學問知識を應用して、工業界に一新生面を開かうと云ふ人は、洵に曉天の星である、此心細い工業界の前途を眺めては、君の如き人のあるのは、抑々意を强うすべき事に屬する。

君は一面精神家である、故にこそ君は非常なる謙讓家である、記者は君の此の半面を愛す、寔に愛すべき墓はしき半面ではない乎。

本邦セルロイド工業の先覺として田中敬信君を尊敬すると同時に君が半面の生活に數限りなき何者かの墓はしさ懷しさが漂り出るのである。

江商之精

大阪西區境川町所在吉川製油所主吉川又平氏は、滋賀縣甲賀郡寺庄村の人にして明治七年八月十五日を以て生る年僅に十二歳にして東上し、其當時伯父にして元老院議官たる城多氏に寓し、小石川大曲の中村濟明氏の同人社と云ふに入りて、專ら學術の研究をなし、十七歳にして大阪に歸り專ら商業の實習をなし明治卅一年七月二十四歳にして、初めて西區薩摩堀東町に於て諸油の賣捌を創ひ是れ實に後年君が關西油界に今日の大を成すの大動因なりしなり。

彼の警敏の頭腦と、非凡の努力とを以て販路の開拓に努め、僅に四五年にして大に業務を擴張し、明治卅七年一月には地の利と店舗の狹隘とに餘儀なくせられて、境川町四百十七番地に移轉し、爾來主として力を軍隊用諸油の取扱に注ぎしが、偶々日露の役起るに及んで、巨萬の利潤を獲得し、一躍して頗る確乎たる業績を築くことを得たり。

君は單に商業に熱心なるのみならず、夙に工業に趣味を有し、過ぐる卅四年には火止石油を發明して、之が製造販賣をなし、大に天下の歡迎を博し、同時に多大の利益を獲得したり。

斯くて業運日に晋み、明治四十三年五月には個人經營より合資組織となし、大正五年一月には、現所に於て一大建築をなし、庚申一千五百坪に亘る、日露役以降は、舊來の販賣業は漸次一變して、製造販賣となり、油類にして殆ど製出せられざるものなく、全く關西製油界に其覇を稱ふるに至れるなり。

今少しく同社の規模より說かんか、本社を現營業所に置き、出張所を東京市京橋區松屋町二丁目及名古屋市中區仲之町二丁目に設け、需用の日に增し增加に伴ひ、尙目下工場の擴張準備中に屬せり、而して既に敷地として決定せられたるものは、大阪府下西成郡千船村大字佃に約五千坪を卜し、既定の販路としては內地並に植民地の全部、南洋、印度、濠州諸島、支那、米國南米歐洲各國、西比利亞等殆ど世界主要の各地を網羅す。

吉川又平君

更に其製造品目を一瞥せんか、油、脂肪、塗料、染料藥品原料各種、其他化學的製品にして、其細目を擧ぐればボイルド油、テレメン油、牛脂、ヘットグリース、コールター、鈴印クレオソート油、ペンゾール、トルオール、ナフタリン、ピッチ油、カストル油等各種一として製出せられざるなし。

若し夫れ從業者に至りては、製造業の擴大に伴ひ、目下商務部に於ては二十人、工務部に於ては卅五人、其他工場人員を算すれば實に百數十人の多きを以て數ふるなり、斯の如くにして一ヶ年製出せらるゝ處のもの、無慮一百五十萬圓に達す、

以上は實に現在迄に知られたる、君の閱歷にして業界の成功兒としては、世上多く比肩を見ざるなり、然れども向上心に富める君は、決して現在の事功を以て毫も滿足する處なく、大に進んで成す處あらんとす、君の理想としては、戰後に於ては現今の如く徒に蝸牛角上の爭下を繰返すべきにあらず、宜しく先づ歩を海外に進めて、販路を擴張するの要ありとなし、昨年來上海吳淞邊に工場を設け、先づ支那大陸に其羽翼を擴張すべく其施設に腐心し來れり、其抱負の大にして遠き、其着眼の高くして時勢を超越せる、之を尋常市井の人に求むるも容易に得る能はざるなり。

更に最近に於ては滿蒙開拓に着眼し、主として彼地の原料を以て製造したるものを同方面の工業界に供給し、大に國富の增進を謀らんとしつゝあり、此一事確に我工業家の率先して企畫すべき處、內地の工業家が徒に同士相鬪いて能事畢れりとしつゝあるに比して、其肚理の磊塊決して同日の談にあらざるなり。

君は實に以上の如く膨脹性、發展性の人なりと雖も、往々此種の人々に見る、粗放杜撰の迹なく、營業上の主義一に品質の改良進歩に存し、徒らに產額を多くして製品の價値を落すを好まず、惟ふに同業林立の間に處して、今日迄破格の好績を擧げたる所以なるべしと信せらる。

吾人は常に江州人が境外の天地に馳驅して、天下至る處に活躍し、隨所に黃金國を構成しつゝあるに敬服しつゝあるなり、吉川君も亦此邊隙に生れ、父祖の業たる鰯製造を以て主業となし、先代の逝去と共に之を中止し、始めて出てゝ商事に志したるものなるが、若し君にして當時父祖の業に滿足し、徒に墳墓の地に戀々する處あらしめば、恐くは今日の大成は期する能はざりしなるべし、然も一度志決して業に他鄕に就くや、忽ち江人の本領を發揮して、堅忍繼續巧に商界を游泳し、又能く時代の推移に順應して今日の成功を收むるを得たり、唯夫れ江人が今日迄內地のみを以て活躍の舞臺となしたるに反し、君は單り海外に飛躍を試むるは大に異數とする處なり、君尙遙に春秋に富む、其圖南の志を伸ぶるに於て、頗る意を强ふするに足るものあるなり、今閨千子性豁達にして、能く君を扶けて店務を見る、其間二男二女あり。

何れの業界にも、人の印象を深からしむる商店がある、東京の塗料商界に之を求ひれば、我熊野屋商店が其れである。

斯くて此印象を深からしめた人は、故萬兵衛氏夫妻であつた、故萬兵衛氏の一生は、當に一箇立志傳中の人である、其精勤な點に於て、仕事上手な點に於て、業界恐くは比肩する人を得ない、由來成功者の半面には必ず毀譽褒貶は附物である、從つて萬兵衛氏にも口さがなき京童の褒貶は附いて廻つたのである、併し乍ら萬兵衛氏は遂に勤勉な人であつて、而して興業の人であつて、而して常人の具似られぬ一種の力を持つて居る人であることだけは、否認することは出來ぬ。

同時に其夫人鍵子刀自の一生も亦た閑却すべからざるものである、人は凡て刀自を女傑とするに一人の異議はない、刀自は何故に女傑であるか、恐くは偉人の半面には必ず偉大な力を持つた女性の存在して居ることを忘れてはならぬ、萬兵衛氏一代の成功は、其内の幾部分は夫人鍵子刀自が、大威張りに分荷すべきものである、加之萬兵衛氏歿後に於て、其遺業を繼紹するに當つて、刀自の力亦幾何なるかを見ねばならぬ。

合資會社熊野屋塗料店の代表社員、仲萬次郎君は、實に此偉人女傑の間に生じ、其薫陶に依りて成長した人で、先代は男として將た商人として、當に其爲さんとする處を爲し、全く功成り天壽を全うして此世を辭した人である、然も二代萬兵衛たるを得ない、乃ち夫は夫人鍵子刀自を存續せしめて、其足らざる處を補ひ、而して全く萬次郎氏が、聞然する處なき相續者となるに及んで、溢焉として白玉樓に徹し去られた、天の配剤亦た妙なるかなである。

由來古きものは必ず排らる、從つて老ゆるものも亦排らる、物の老ゆるや宜しく其處に新進の生氣を注入せねばならぬ、其れが直ちに生命の存續する所以であり進歩發展する所以である、熊野屋は人の印象に依つて既に業に老舗である、併しも亦た眞の熊野屋の相續人となつて以降少なからず此經驗を繰返した、君は居乍らにして人生の眞情を經驗し、商界の苦味酸味を味ふたのであつた、君は單に萬兵衛氏の据ゑたお膳に飽食した許りの人でない、一度箸を取るや藥に舌をも燒き、甘味にも中毒し、其如何にして喰ふべきかを自ら見出す丈の苦勞を重ねたり、世人の見解は甚だ淺薄にして、君を以て單に乃父の遺業を樂みつゝありとなすは、甚しき皮相の見にして、未だ共に人事を語るに足らぬ。

第一故人が業を起した時代と君が繼承した時分の世態とは、全然比較にもならぬ程の相違がある、故人は其世態を標準とし基礎として、發展し成功したが、君は君の繼承して後の世態を基準として、其遺業を存續し、且つ自己發展を企てねばならぬ、君が相續後今日に至る迄の事實が、取りも直さず其努力であつた、其成績の高下は問題とする必要がない。

故人萬兵衛氏は、自ら恃む人に似合はず、他を參考とする人であつた、存命中常に口癖の樣に『子供に淺薄を教はると云ふことを忘れてはならぬ』と云つて、何事も若い店員に相談したと云ふ、之は實に美風と云はねばならぬ、店員をして商事に寧喙せしむるのは害がある、權威に關すると云ふ頑冥な店舗の多い裡に、同店の此の一事は見上げたものであつた。

此の美風は今に至るも尙存續して居る、されば店員は各命せられたる部署に就くと共に、全體から云ふと謀議に就いては平等に寧喙權を有して居る。

更に他の一つの美點を擧ぐれば、適材を適所に配置することである、此事實は言ふは易いが却々行ふには困難である、理窟と人情とが併行せぬ如く、適材必ずしも適所を得ず、適所必ずしも適材を得難い、是が稍理想通りに行つて居るのが、同店の一特長として數ふべきものである熊野屋商店の實力に就ては、今更の如く縷説するの要はない、其印象の深いが如く、其實力に於ても亦た強い、世には戰つて強いものはあるが、戰はしめぬ強さを持つて居るのは同店である、感情から云つても、鍔爭から云つても、業界一人の敵として楯附かうとするものがない、メートルとなし標準とする迄も決して敵とするものがない、此處が同店の實力以外の或る力と云はねばならぬ、萬次郎君は實に此名實の代表者である、春秋頗る高い君に對しては、此老舗をして常に生新の氣脈あらしむべきを期待せねばならぬ、恐らくは塗料界有望の今後、局面は益

現主萬次郎氏に依つて、頗る新進氣鋭の商舗となつて居ることを記憶せねばならぬ。

仲萬次郎君は明治十四年を以て東京に生れ、夙に外國語學校佛語科を出で、又た騎兵中尉として、日露の役に參加し、軍國の民として、相當國家に貢獻した人である。

如何なる營業にも必ず過渡期はある、而して瓦ぴんが爲に縮む波瀾もある、仲君

仲萬次郎君

守成の適者

益君に依りて開發され、向上されて行くことゝ信ずるのである。

合資會社熊野屋塗料商店は、去ぬる四月に於て、頗る完全なる業務の執行者を得た、夫は誰あらう、仲直商店主仲直太郎君である、同君の入つて此要路にあるのは、所謂鬼に金棒である、同じ一族の同君が此店に入つたに就ては何の不思議もないが、併し同君が今日迄經た閲歴は、熊野屋商店の爲めに欣幸とすべき、幾多の事實を含有して居る。

君は紀州熊野尾鷲の人であつて、明治十七年の出生に係り、乃父を庄之助と云ひて君は實に其長男である、明治二十九年即ち君が年恰も十三歳の時に、專ら遊學の目的を以て上京し、恰も其伯父に當る仲萬兵衛氏方に身を寄せたのであつた。

さるに何う云ふ都合があつたか、俄に學問修業を思ひ切つて、伯父の店即ち熊野屋商店の商事に從事することゝなつた、而して澤山な店童の間に伍して、孜々營營と働いた、天資溫厚にして情誼あり、殊には勤勉家であるから、伯父の萬兵衛氏の覺えも芽出度く、將來少からず望を囑された、同店にあること前後十年、偶一身上の都合に依つて同店を辭した、即ち君が二十三歳の時である。

其から君は正則英語學校又は三田の慶應義塾等に學んで、兎にも角にも一通りの學問をした、然るに明治四十一年再び同店に還ることゝなり、倍舊の努力を以て店務に從事した、最早年齢に於て經驗に於て申分がない、從つて業界に於ける信望も日に增し重大して來て、實に同店に於ける有力な而して有用の一人となつた從つて君が外部に對しても接觸する處頗る多く、世間亦君が同店主の血統たるに顧みて、尋常店員とは其見る處を異にしたり、然るに偶々大正四年に至りて、同店が一時頓挫を來すや、平素内外に對して重きをなせる丈其丈、君の雙肩には店外に對する幾多の重任を有して居つた、是に於て君は此間に處するべく、退店するを以て最も最良の手段なりと信じ、同店を去るに至つた。

君は當時大に感ずる處在つて、將來堅く望を業界に絶ち、遠く田園に隱退しようと決心した、併し君の友人知己は、大に君を慰撫し、從來の苦心と經驗とを屑土に委するの必ずしも利益ならざることを說いて、只管之を中止した、斯くて君も一先其諫止を容れて、足を東京に留めたが、格外爲すこともなくして居る内に、早や一年を經過して了つた。

時は大正五年七月、始めて神田岩井河岸に在る、松井洋行の一部を借り受けて、塗料工業藥品、及綿染料の取扱ひを始めた、手腕經驗の具備して居る上に、世間の同情のある人だから、月と共に發展して、約一年の後には、事務所の狹隘を感ずる樣になつた、そこで大正六年三月には神田松枝町に移轉して、著々業務を發展せしめ、短時日の間に相當見るべきの業礎を築いたものである。

敍上の如く實に君には修業時代もあり、練習時代もあり、又た煩悶時代もあつた斯の如くにして君は漸く坦々たる通路に出たのであつて、平生の外觀は不幸の樣であるが、君其者は確に裸で百貫の値打ある人になる迄練磨された、君の將來は最早當時に於て大なる曙光を得た只々其主業に三昧なれば、涓滴の河に注ぐが如く、刻々に增大し順調は來るのであつた、さるに大正七年四月、熊野屋商店が偶々業務執行社員を求めることゝなり、

情誼の人

仲直太郎君

端なくも白羽の矢は君に立つて、此場合君の意思は頗る自由であつたらう半成の事業を愛養して確く動かざるも、但しは好んで其任に就くも、固より君の自由意思に任すべきであつたらう、然るに君は果然前者を取らずして後者を取つた、即ち半ば成つた君の事業を捨てゝ熊野屋の求める處に從つた、世間は全く君の心事を解し得なかつたのである、君の此の任に就いたのは、一身の利益から打算したのでもなければ、外部から制肘されたのでもない、唯只永い間故人の伯父に對する情誼と、其血縁に對する眞情の、區々一身の利害を以て閑却するに忍びざりしが爲に外ならざるなり。

君夫人千代子との間に、命嬢文子を擧げ家庭も亦頗る和して春の如くであると云ふ。希くは永き君の前途に幸あらしめたい。

同店の商略を知り、商事上の手加減を知り、顧客の向背を知つて居る、尋常の人を以てするに非ざれば、同店の利益失れ幾何であるか。

若し夫れ君の人格に至りては、耐忍は實に君の天分である、諒解も亦君の天分である、他を諒とし己を責むるの美德に至つては、勝手者の多い世の中に稀に見る人であらう、慾を云ふならば、君をして今一つの天分を加へて剛愎ならしめばと思はるゝ、併し其處に又た溫情掬すべく、清節愛すべき君の面目が窺れる、何れにしても此の三相揃つた君を得たと云ふことは同店としては頗る幸慶であることを繰返したい、而して更に易を捨てゝ難に就いた君としても、其精神的方面に於ては、一種の幸福であると云ひたい。

則ち凡俗の見て、何等の特徴を有さざる處、寧ろ其人の圓滿無缺を物語るものにして、其接するや蜜の如く、其交るや辛鹹次で到る輕薄物は、如何に世に云ふ才又は力を具ふるとも、是等の諸點に於て、吾人は君を推賞し、辯護し、且つ紹介するを以て寧ろ一種の快とするものである。

小成に安んずるものは何になつても頭角は現せない、無限の發展的氣魄が在つてこそ、個人も向上し、國家も膨脹する、望蜀の慾は何人にも在つて欲しい、吾人は業界に其人を求めて服部君を得たことを喜ぶものである。

日本橋區通鑓町の服部重右衛門商店は、進取の氣に滿ちた當主重右衛門君の奮闘に依つて、メキ〳〵と平凡な商業の水平線から、頭角を現はして來た、服部君は實に進取して休まざる、大なる天分を特つて居る青年實業家である、君が過去に於ける出發點は實に千代ぬれ羽であつた此千代ぬれ羽に依つて、先づ君は服部商店なるものを天下に廣告し紹介した、其と同時に君は千代ぬれ羽で成功した、世は擧げて多幸な成功者、幸運な時代の寵兒と云つた、併しこは全く過去の事であつた。

併し乍ら服部君の成功は、常に進んで成功を收めんとする準備の成功であつて、其成功の帳裡に惰眠を貪つて飽食暖衣しようと云ふのではなかつた、近年でこそ世界的大戰亂の影響を受けて、人心を刺激することが多いが爲めに、然く妄如として居るものも少いけれども、過去の實業家は一事の成るや、必ず其の澄澈たる意氣を失つて、直ちに方向を轉じて惰心利殖に志すか、然らずんば座食も亦冥利が惡いと云つて、世の所謂暖簾商賣に滿足する、金のザラ付く日本橋區内には此種の人が何程あるか知れぬ。

斯る自己發展の氣魄の滅した階級は、其有する財產の限度に於て、納稅をする以外何等國家社會に向つて貢獻する處がない、所謂沈香も焚かず屁もひらず、先づ僅に社會の良民と云へば云はれると云ふに過ぎない。

服部君は既性の成功時代に於て、決して斯る徑路を選まうとも せなかつた、君は直ちに我邦に最も幼稚なる、而して最も缺乏して居る工業原料のワニスの製出に著目し、之に指を染めて以來著々相當の效果を收めて、今では外品に對して、我一權威たらしむる處迄漕付けた。

進取主義の

服部重右衛門君

君は元來工業家でも技術家でも又た學者でもない、然も我塗料の内で最も至難なるべき此工業に成功したのは、實に其發達せる常識と、進取の氣宇と、不休の精力とに由つて發現したものに外ならぬ、斯くてダイヤモンドワニスに依つて、服部君は相變らず、業界に新生命を有して來たのである。

由來本邦はワニスの原料を得るに、英米の權威を失はず、今は宛として斯界を獨すと云ふ祕密が知られた、服部商店は此處に根本的の設備をして、何から何迄永久的準備をして、原料製品貯藏の倉庫を新設し、其用意頗る周到なものであるダイヤモンドワニスの名は、年毎に一般に印象を深からしめて來た、從來の競爭品は大抵、大正四年以降塗料界の大競爭に堪へずして、萎縮したものゝ多い内に獨りダイヤモンドワニスは其名と共に不斷の權威を失はず、今は宛として斯界を獨歩するに至つたのは偉とすべきである。

近來原料の騰貴に苦しみ、何れの製品も其市價を引上げざるはなかつた、併し服部商店では、出來得る丈を忍んで元通りの値段で之を供給したのは、大に德とせねばならない、而して本年五月に至つて餘儀なく二割方の値上をしたに就いても、今日迄忍んだことに對して、世間は多大なる同情を以て迎へたのである。近來鐵道院では輸入品ノーブル出のものを用ひたのを、全く輸入の杜絕と共に、今は內地製品を使用せざるを得なくなつて、同店も亦其命を更けて納入に忙殺されて居る、斯の如く君は、第二の事業に就ても亦成功した、而して國產奬勵の實を擧げて我工業界に貢獻する處多かつた、元來君の店舗は君個人の經營であつたが、大正七年五月組織を變更して合資會社とした、進取して休まざる君は恐くは今尙ほ自ら安して成功兒とは信じて居まい、今後社會變遷の波瀾に乘じて、其機警なる眼は何處に注がれ、其不斷の精力は那邊に集注せらるゝかを、頗る興味を以て見んとするものである。

君は淺草區藏前で生れた、生粹の江戸ッ子である、明治十三年の出生で當年が恰も卅九歲、是から男盛り分別盛りに入らうとする處である、君にして此富める春秋あるは洵に鬼に金棒である。

家庭の人としての君は三男一女の父である、世上小成否寧ろ半成に安んずる青年商工業家の甚だ多い近時に於て、君の如き活ける諷刺者を得たことは、痛快でもあり、又教訓でもあることを喜ぶものである。

古來名門必ずや俊傑の人を出す、鉛市兵衛君の如き則ち是れなり、君は文久元年堺市の名賈鉛家に生る、由來堺の地たるや、大阪灣頭の形勝を占め、巨船常に出入して、我中世紀の一大要港たりしなり星移り物變つて、今や瀕海の小都邑に過ぎざるも、其盛なるや、巨商富賈軒を列べて、遠く海外と通商貿易をなし、其殷賑なる遙に大阪の上に出でしなりき、然も斯の如き要港も年と共に荒廢して、今は僅に極東のヴェニスとして、交通史上に、在りし昔の榮華を名殘るのみ。

當時君の家は市中巨商の第二位に位し君の祖先は、今を距る五百數十年前應永二年、支那より光明丹の製法を傳來し、而して其製造販賣をなしたるものにして、當時最も進歩したる堺市に於て、最も進歩したる商賈の一なりしなり、斯くて其後同家の製品は內地の津々浦々に賣渡り愈々益々繁榮を極めたりしより、隨所に類似品の製造せらるゝありて、粗製濫造甚しきを極めたるより、幕府は令を出して一般の製出を禁じ、僅に鉛屋市兵衛、鉛屋市左衛門、福島屋庄藏の三家にのみ之が製造を許し、而して三家の製品は一旦悉く鉛屋に集來り、更に檢査の上同家預りの『定丹改所』の極印を捺して始めて市場に販賣されたるものにして、爾來幾百十年、殆ど一子相傳的に、奕世其業を繼承し來り三才圖繪中にも市兵衛丹として揭載され、字書言海等にも市兵衛丹と稱して、堺界に於て製出云々と見ゆるあり、加之鉛と云へる姓は、明かに祖先傳來の家業を云ひ現したるものにして、之を稱したるものの所以なきに非ず、以來奉秋を經ること、此處に幾百年、連綿として今日に至れるものなり。

君は明治維新の當時に於て、家督を嗣げるものにして、夙に時代推移の大勢を洞察し、工業界の趨勢を達觀し、依然として一子相傳的の舊習を墨守するは、決して家運を興隆し、時代に順應する所以に非ざるを知り、其數百年來の經驗に加ふるに、歐米最新の製造方法を以てし、近く堺市市六町東六丁目三十一番地に工場を設け、酸化用反射爐、粉碎機、篩機、水

中興の名賈

鉛市兵衛君

篩機、乾燥機、送風機等の諸設備全く到丁寧にして、一度君と語を交ふるものは必ずや其溢るゝが如き情味に接して、深き印象を刻し、一面識にして十年舊知の如きを感ずるを常とす、蓋し君が人格の反映なるべし、加ふるに公共の志厚く日夕多忙なる商務の傍ら、尙ほ能く市參事會市會議員並に一般公益慈善の事業に干與し、些の倦怠なきを見ては、衆に均しく其の志の厚きに感嘆せざるものなし。

君の令息市太郎氏は、東京帝國大學出身の工學士にして、應用化學の造詣深く、つあり、加之同氏は明治二十四年頃より硝子製造業をも兼營し、之れ亦た相當の業績を收めつゝあり、元來君は獨創の能に長じ、併せて經營の才に富み、且つ時勢人心の嚮背を觀望して、其宜しきを制するの識見凡庸に一頭地を抜けるものあり、堺港が年々往昔榮華の俤を收めて當年の巨商と共に沒落するもの多きが中に、單り嶄然として此盛名ある蓋し偶然にあらざるを見るべし。

君資性溫厚、人に接すること極めて懇篤又た頭腦極めて明晰の俊材たり、始め住友伸銅所に從事したりしが、後南滿鐵道の技師に任じ、頗る長上の囑目する所となれり、而して次男源之助氏は、店舗に在りて夙夜君を輔佐し、店務を處理しつつあり、氏は曩に京都商業學校を卒業したる俊材にして、頭腦材幹共に實業家として、嚴父を辱かしめざるものありと、本店支配人梅田楠太郎氏は、既に四十年間、同家に在りて終始一日の如く店務に碎心したる人にして、悃篤忠實內外の推重措かざる處なり、一方荻田商會は神田莊次郎氏專ら店務を支配しつゝあり、氏は未だ少壯の人なるも、舉作敏活、言語明晰、然も人に接するに溫讓を旨とし、以て店員の模範とするに足るべきものあり。

要するに君が一代の事業は、固より其基礎を祖先の遺業に得たりと雖も、最近文明の東漸は、凡ての舊態を破壞し、而して之に順應なるものは榮え、其然らざるものは、悉く葬り去られたり、事後の今日に於て之を思へば、誰人も亦順逆に感ふものなしと雖も、當時の過渡期に於て直ちに傳來の事業に變革を加ふるは、蓋し容易の事に非ざりしならん、鉛氏の今日ある全く此の時代に順應したるの宜しきを得たるに依るものにして、君が中興の偉人たる所以も亦此處に在せり、二令息亦た共に俊秀有爲の人たるのみならず、店員中上記の如き人材を擁せるは、實に同家の前途を祝福すべき活ける例證なりとす、其一代の功業は以て地下の祖先を慰むる孝の大なるものにして亦後進の龜鑑なり

君は長崎縣の人夙に外國語學校に學び業を卒ひて後米國に留學してB.P.H.と云ふ學位を受け歸朝し一度外交官となつたが時勢に感じて神戸テーラックバー商會の監査役となり後東京へ轉任となつたが同商會がニユヨツプに買收さるゝことゝなりし後君は一身上の都合から商會を辭職したのであるが其の後君は友人の推輓に依つてサミユルの東京支店に入ることゝなつたのである斯の如く君は外國商館員として正に運命の岐路に上つて自分の眞骨頭を發揮しようと頗る努力する處あつたが君の衷心の意氣及理性は單純なる外國商館員として甘んずることを得せしめなかつたのである。

君は斯くて弊履を舍つるが如く此地位を拋つて東京に來りオール商會を起して輸出入商を營むに至つた而した一方にはワニスの製造に從事したのである然も機會と動機は益々君を驅致して遂に今日のスタンダード塗料合資會社を創設するに至らしめた其動機は優秀なる輸入品に對抗して將來之を驅逐しようと云ふ一の氣概に原因したのであつた。

君は相當なる學得の人であつたが君は彼岐路に立つて頭に由る解說の人より絕緣して其腹に於ける『領』の人となつたのである、而かも君は、其學得を適用して、彼の經營せる工業に必要なる知識は是を歐米の原書に聞して、更に學得の餘をして經營の人として完全なるを期すべき要途に應用しつゝ來る可き新知識を補足せんと誓ふてゐるのである。

馬蹄印の製品が市場に聲價ある所以も君の日常に處する綿密なる用意にあるは爭はれぬ事實である。君は斯く全く學者側の行路と絕緣すると共に經營家としての學究的態度は更に一層强度なるものとなつて、其工業製品の上に彼の精力は傾倒せられつゝあるのである。

科學の活用家

藤田彌三郎君

產業に對する君の主義主張は其今日の立場としては勿論、國產品奬勵輸入品防止にあるのであるが、此の以外に立つても君は最後まで、國產品の奬勵家で輸入品防止論者の急先鋒であることは慥かである。

君は其外國商館に籍を列ねし時も決して下風に立つた男ではない、一身の安全を期し、生涯の安逸を謀ると云ふ外に念がないとしたなれば、君は新しき困難を迎へて優秀卓絕せる外國製品に對抗すべき製造工業に從事する必要はないのである君は洵に業界に於ける意氣に殉せんとして先づ我ヴヲニス工業に身を投じ全精力を傾倒して、今日の馬蹄印塗料の聲價を得たのである、君は此の意味に於て全く意氣の人である。絕叫に次ぐに斷行あり、努力に次ぐに節々食ひ入る如き理性ある底の人である。

先人は人には圓滿性ありと說いた、圓滿なる人は有り得可からずと語つた、人間は動的とである、動的なるは人間本來の天性である、而も他の一面には靜的狀態がある、各自それぞれなる靜的圓滿性を所得とするのである、スタンダードの工場を一度訪ふと其處に動的旺盛なる藤田君の靜的圓滿性の發露の一面を窺ふことが出來るのである、今日の要語で云ふならば家庭的とでも云つて見たい程、社員全部の處務振りが氣に入るのである、洵に彼は內に在つて綿羊の如く其圓滿性を發揮して、內部の整調に意を致し營々として弛まざる精力を圓滿に分配しつゝあるのである。

本文の記者は最近某校の教授を訪ふて、談偶々工業界の人に及んだ處が教授は慨然一番、今日の工業者は宛として一の職工監督であつて、其學問をしたと云ふことは、則ち職工監督の履歷を飾る背景に過ぎないと喝破した、語は甚だ奇矯の樣であるけれども、凡そ今日の學校出身の工學者は校門を出るなり、直ちに有利の地位を求むるに汲々として居つて、工業界の爲めに新生面を拓かうと志すものは洵に曉星も啻ならずである、教授は更に語を次で曰く今日工業學校の卒業生が羽が生へて飛ぶ樣に實行の良いのは其從事する處が容易であつて甲にも出來れば乙にも出來ると云ふ仕事に就くの多いことを證明されるのである、語を換へて云へば則ち業界の不健全を證明するものであると、洵に然りである工業界が何か新生面を開拓し能ふ人でなければ、要求せぬと云ふ漫迄進步したならば、玉石悉く同一に實行と云ふ樣な不健全な狀態を續出するであらうと思ふ、此の如き時に當りて一面には未曾有の工業勃興となり、所謂科學の活用家を求むること矢よりも急である業界君の如き人のあるのは大に誇りとする處である。

君は斯く外國製品驅逐の獅々吼を爲しつつ、滿腔の熱誠と努力とを盡して本邦製品の向上發達に沒頭してゐるのである。

淺々たる君の眞骨頭は今や其製品の上に發現せられ君の意氣と共に我市場に其聲價を高めつゝある、斯く君は熱心な輸入品防止論者であり、兼て其の實行家先驅者として我業界に氣を吐きつゝあるのである。

其人格高雅にして更に學究の弊なく其知識と力とを以て實社會に貢獻する處敬意を表するに値す。

獨立自尊の心は男子の本領中最も尊重すべきことである、之を小にしては其一身の運命を開拓し、之を大にしては國運の發展に貢獻することになる、常に己れを中心として成敗利鈍を試みる處に於て、初めて男子としての面目が保てるのである。徒に他人に隸屬して人の糟粕に甘ずる樣では假令其人に智能才幹や主義主張があつたとした處で、一個の大丈夫として見る上に於ては、甚だ價値の少ないものである、所謂鷄口となるとも牛尾となる勿れ、語は陳腐ではあるが、千古の眞理は依然として光を放つて居る、若しも獨立獨行を以て、男子一代の面目とするならば這次紹介する板倉君の如き正に其自立的精神の權化と云ふべき素質と經歷とを備へた人である、吾人は同君が、元來才幹知力學問技能の、敢て卓絕するものなしとするも、眞に此一事を以て君を江湖に紹介するを一種の光榮と考ふるものである。

君の前半生は、當に是れ一個の堂々たる立志傳である、君は江州彥根の在に生れ年齡僅に十一歲にして東京に出たのであつた、勿論東海線も未だ完成しない當時であつたから、所謂昔しの五十三次を徒步で、日數を重ねて遙々著京して、何かな立身の緒口をと探したのであつた、處が其當時丁度、日本橋本石町の二丁目に石川と云ふ漆問屋があつて、君は此家へ小僧として這入ることゝなつた。

元來江州は才商を出すを以て、夙に其名を天下に知られて居る、君は斯うして主取りの身となるや、人も知る如く盥の中へ漆を明けて楫を以て一分間も休まず攪拌すると云ふ、此商賣での辛い仕事を長い間行らせられたが、機在らば獨立して立身の基礎を造らうと云ふ、確乎とした宿望を持つて居る君は、此の辛苦も物かはと、遂に十三年と云ふ永い間、辛抱を仕拔いて了つたが、却々天は君に獨立の機會を與へなかつた、併し何時迄待つても、凡そ天來の機會と云ふものが降つて來るものでもないから、何等の準備もないけれども、一通り商賣の道は得心して來たから冒險的に一つ行るべしと云ふので無謀にも半錢の貯へもなくして、何うにか數金丈を都合して、家丈を借受けて愈商賣の準備に取り掛つたのであつた時に年齡廿四歲。

獨立自尊の權化

板倉寅藏君

此の大膽にして無謀な遣口には、君を知るもの一同啞然として言ふ處を知らなかつたと云ふことである、然も君は一向平氣で、先づ漆商組合に向つて、極力懇請し、自分の自信の在る處を語つて、到頭相應の仕入をし且つ相應の得意を得る樣になつたが、何しろ石川に奉公して居る時、分漆を攪拌することの如何に勞苦であつたかゝ、獨立の後尙忘るゝことが出來ず、何とかして文明の利器を利用して此過大なる人力を省略したいと云ふ殊勝な心になつて、日夜此の爲に心を碎いて結局動力で攪拌することを發明し、從來の小僧虐待を一掃することが出來たのである、君は實に此動力使用の鼻祖として、全く斯界の恩人であると云はねばならぬ斯の如くにして、君は先づ數年來の宿望であつた獨立の彼岸に到著し、續いて第二の希望たる、人力省略も亦成功し、漸時組合並に取引先の信用を博して年一年と其取引關係は擴大され、今は儼然として、斯界の紳商に數へられる樣になつた順序として更に君の性格と、其事業の經營振とを窺はんか、敍上の經歷から見ると、何だか浮世物語の主人公の樣に、爲ることなすこと思ひのまゝに行つて何等の波瀾なく苦痛なく、今日に至つた樣に見へるけれども、此半面には却々吾人の窺ひ知れぬ幾多の苦心があつたのである第一廿四歲と云ふ靜若い時代に於て一店の主人公として、美事經營して行かうと云ふ自信の裏には、如何に天才とは云ひ、其商道の研究に苦心したことであらうが次には其店を持つて以來、無資本で始めた悲しさには幾度か資本の壓迫を蒙つて進退谷まつた事もあつたが能く其難關に處して、之を切拔けて來た處の勇氣と技倆とに至つては、到底當代の生意氣青年の企て及ぶ處ではない、元來君は極めて樂天家であつて、如何なる困苦に遭遇しても、心中常に脉々たる一片の平和の泉は枯れなかつた、君が十三年と云ふ永い奉公中に、一錢の貯金をもせなかつたと云ふ豪放な遣り方は要するに此天性の樂天から來たことであつて、これ又他人の容易に企て及ぶ處でないのである。

之を要するに君は年少國を去りて、溫なる家庭の味と、順序ある教育とを受くるの遑がなかつたが、年少獨立の志を起して、爾來艱難と戰ひ、然も其人物に何等の主角なく、邪氣なく、圓滿なる好賣人となつたのは一つは天性とは云ひ、兎に角此間に極めて圓滿に常識を養つた結果であることは爭はない、君は實に奮鬪の人、立志の人、常識の人、而して更に愛すべきの人、信ずべきの人である。

君は嘉永四年岐阜縣郡上郡八幡町に生れた人である家代々呉服屋を營んで居つたが君は明治四年則ち二十歳の時に内外の狀勢が日に月に變つて來るのを見て心窃に東京へ出て立身の道を拓かうと考へたが今日でこそ此の間僅に二百六十哩十餘時間で行き著くことが出來るが當時は未だ交通機關が開けず宛で舊幕時代と同じ事であつたが堅い決心の出來た君は遂に發程の途に就いた而して昔し其まゝの東海道五十三次を日を重ねて東上し十五日目によう〳〵と東京に著いたのである。

斯くて君は東京の地を踏むことを得たけれども當時君は何に依つて其身を立てようかと云ふ方針は定まらなかつた何分當時は維新匆々の時で在つて天下の人心未だ全く定まらなかつたのみならずそろそろ泰西文明が流れ込んで來た時であるから何人も今後世態が如何樣に變轉するかと云ふことさへも見當の附かない誠に混沌たる時代であつたのである。

斯樣な時代であるから當時武家が金縣を資本にして慣れぬ商賣に手を出すもあり町人から學問に志して官途に望を屬するもあり一向に歸趨する處が解らなかつた君の出京は此の折柄であるから道の君も假令其志が在つたにした處で如何にして其進路を開拓すべきかにも多大の確信を得なかつたが沈著なる君は心窃に高遠の希望を胸に秘めて先づは形勢觀望の積りで決然身を他家に寄せて犬馬の勞に服したのであつた。

此處に於て少しく當時の事情を寫ふならば元來何處の田舍にも在つた事であるが地方人が東京へ來て一冬か又は一年位の奉公で歸京するのを例として居つて五年八年と足を留めるのを長年と云つて宛然兵隊の再役でもした樣に考へて居つたのである失禮乍ら君が御鄕黨友人も君の出京に就ては恐くは右樣の推測を下して居つた事であらう。

然るに五年三年は夢と過ぎ夢と來つて君は僅の動機から神田松枝町十八番地に於て獨立の旗上げをすることになつた當時君は時の藥學校教授小林九一先生に師事して夙に製藥の方法を研究して初めて此地に於て製藥に從事したのである時正に明治十二年今を距ること三十八年の昔である。

君は兎に角永き奉公人生活を脱して此處に一家の主人となり一工場の主となつたけれども抑々當時の製藥界と云ふものは決して今日の如き旣盛なものではなく從て社會も亦左程に重きを置かず創業以降時には經營難に遭遇して　折角の宿志も伸ぶるに道なく當に其志を折らんとした事幾度であつたか知れないけれども堪忍深き君は十年一日の如く牛の歩みを氣取つて倦まず撓まず努力して居る内に君の耐久力と其の溫良寛廣なる性格とは自然に社會の愛敬を受けて漸次得意を擴まり來ると共に世は醫術及工業の進歩に伴つて漸次製藥の價値を認めることになり都下製藥業者の一人として優に其伍に列することゝなつたのである。

更に飜て君の性格を一瞥せんか一言以て蔽へば君は極端なる溫厚の人と云ふても宜い一點の邪氣なく人を侯つことも亦甚だ寛大である凡そ一度君に面接する人は其謙遜抑讓と溫厚とに對して寧ろ氣の毒の感がするのである加之其半面に於ては犯すべからざる眞面目の處があつて實に言はずして人之に從ひ語らずして人之に服するの德を有して居る。

學藝を以て立ち修養を以て人を導く人の中には稀に氏の如き人を見ることもあるが市井の人としては誠に得易からざる君子人である權謀なく譎詐なく誠實事に從ひ悠久不變の間に產を興し業を成した點に顧みれば君は立志傳中の人として又更に一個獨特の異彩を有して居るものである尙別項記載の平野幾三郎君は君の同鄕で其昔し平野君が出京の砌は君の家に寄を脱いだ關係を追懷すると今や兩つ乍ら相當に其志を達して人生の爲すべき凡てをなして共に老境に入つたのであるが此二人者が相會して談偶々當時の事に及んだならば恐くは第三者の知る能はざる一種無量の快感に打たれることであらうと思ふ。

更に君の賞揚すべき美點を擧ぐるならば更に道樂のない一事である事の眼難な間は誰人も抑制するけれども幾分か顧潮になると必ず己を奉ずる事が厚くなり從て種々の道樂が起るを常とするけれども君に於ては偶親友に對して圍碁の相手となる位のもので何等の汚點のないのは見上げたものである宜しく後進子弟の取つて以て學ぶべき處である。

君の息龜吉君は當年恰も四十の男盛りである同君は旣に店務一切を切廻して事實上の主人となつて居るから君の今日の處寧ろ樂隱居の格であるが謹恪なる君は尙且つ店務に參與して眞に善意の忠告者たる任務を全うして居る時や偶大戰亂の爲めに工業藥品界は未曾有の盛況を呈し續いて工業物興の好機に遭遇して君の製藥事業は此處に最高の機運を迎ひ其製出に係る鹽酸硝酸硫酸等は日々多大の利潤を君が店舗に齎して居る君たるもの往事を追懷して果して如何の感かある。

市井の君子

渡邊平八君

君は茨城縣相馬郡大野村の人、明治十二年鄕里に生れ嚴父を伯耆田力彌と云ふて君は實に其長男である。

明治二十五年君が年十四歳の時に、其頃盛に當る深川西町に開店して居られた、藥劑師で藥種商たる、島居庄兵衞氏の家に所謂客分として、寄寓することゝなつた、抑々君の出京は、學問の大成して、青雲の志を伸べやうと云ふよりも、寧ろ島居氏の意を奉じて、藥劑方面に相當の智識を養つて、此方面で運命を開拓しようと云ふのが、其發足點であつたようである。其當時神田の一橋に、後に明治藥學校となつた、一橋藥學校へ入學して、二年級迄の學科を修了すると、折柄日清戰爭が勃發して、主人公島居氏は藥劑官として從軍することゝなつたので、君は其留守番中の店務を託されて、惜い哉君は中途餘儀なく退學して、店務に沒頭することゝなつたのである。

此動機こそ兎も角も、君が商人としての修業に足を容れた始であつて、爾來忠實に、又た極めて細心に、營業に從事し、十分の經驗と修養とを養つて、明治三十五年迄勤續したのである。

斯くて明治三十五年君年二十四歳にして同家を去つて、今の營業所たる、本所區菊川町に根據を構へたのであるが、君は先づ獨立の第一歩として、大に製藥に力を注がんと計畫して、著々其準備に掛つたのであつたが、四圍の事情は漸次君をして方向を轉換せしめて、遂に現業の工業藥品に手を染めしむるに至つたのである、君は學校に於ける修養は、上來敍せるが如く、半途にして之を廢したけれども、元來此道に趣味を有して居つたに加へ、頭腦細密で研究心に富んで居つたから、寸陰をも之を愛惜して研鑽した效果は、二十歳にして天晴れ免狀を有するに至らしめたのである。

以上の如く君は兎に角、事の志と進ふた事前後二回であつた、半途にして君の學を廢するに至つたのは、未だ君の爲に幸か不幸かを論ずるの標題とはならぬ、何となれば、君は尙學校の修業に慊らずして、一通りの修得をするの資格を有つて居るからである、更に第二の製藥事業なるものは、恐くは君が智見備はり、經驗の出來た後であつたから、餘程根據のある計畫であつたらうけれども、之とても其結果から考へたならば、必ずしも君の心機轉換が、君の運命に多くの差異を齎すまいと考へられる、何となれば、君は君の知識圏内に於ける、工業藥品を以て十分運命を開拓し、又更に向後大に伸ぶべき手腕を有して居るからである。

伯耆田兵重君

著眼周到の

吾人は君を以て必ずしも、機鋒縱橫の才物なりとは云はず、又精根絕倫山を移すの人なりとも見ず、君には一種の同化性ありて、其之く處として可ならざるなき特徵あるを閑却する能はず、其敎へずして尙能く之を知り、授けずして尙能く之を體するもの、君の如きに於て始めて見るべきのであつて、君の今日あるは當に此天資の發揮に外ならぬ。

されば今回の世界的戰亂の爲めに、工業藥品は未曾有の暴騰となり、加之內地工業界が急速なる發展に伴ひ、此業界は實に千載一遇の活躍機に到達したのである同化性にして、消化力ある君は、克く此好機會を善用し利用し、多大の利益を贏ち得て、一躍家內の大繁榮を見るに至つたのである、第一君の營業地は此處一帶の關門とも云ふべき處であつて、頗る地の利を得て居ることも亦此繁榮に與つて力あるものである。

君は第一面に於て、非常なる世話好きである、現今君の店には、幾人かの徒弟が居るが、事情と經費の許す限りに於て、君は之等を夫々藥學校に入學せしめて居る、中途廢學の君は君自ら多くの損失を見なかつたけれども、君は常に後進の爲に憂ふるのは、此一事である。

更に卑近の實例に就て見ても、君は四年前菊川町一帶に商盛會を組織せられるに當つて、君は寧ろ其組織者の一人であつて君は其副會頭である年中の商季に於て機宜の措置をなし、且其親睦を計り、擧町の面目を保つの主意は、電車開通後も尙其儘に尊重されて、精神的に繼續されて居る、斯う云ふ公共の事に就ても君は商人としての信用以外に、一種の尊敬を以て迎へられて居る、君は兎に角此度の大暴騰に於て、最も機敏に奮闘して多大の利益を博し、同町內に住宅を買入れ、店は店員の起居に一任し、堂々として商估一段の格を上げるに至つた、獨立僅に十五年にして、斯の如くなるを得たのは實に大成と云はねばならぬ。

君の鄕里は、農家ではあるが、一方玄米商として、又麩商として閭里に知られた家である、君が東京に自立して、塗料染料工業藥品として、門地を構ふるに至つたのも亦宿緣の存する所であらうか。君は尙頗る前途春秋に富んで居る、然も君の業途は亦接觸する處極めて廣いから後來君が活躍するの天地も、又頗る廣汎であると云はねばならぬ、折柄工業界未曾有の疊醒期に際し、君の如き研究心ある、而して消化力に富んだ人の、商人として背面から活躍することは嘱望に堪へぬのである。

利用厚生の人

小川福二君

東京ランル會社の經營者たる小川福二君は、明治十六年三月、三河國渥美郡赤羽根村に生れ、幼にして機多の辛酸を嘗め夙に商道に志し、後日の大成を期して專ら努力する處ありき。

是より先き君の叔父小川覺平氏は、靜岡縣藤枝町に在りて、廣く襤褸賣買問屋を經營し來りしが、同地方は商業の範圍も極めて狹少にして、地勢も亦面白からざるより、東京市外王子町に移りて開業し漸くにして收支相償ふに至りしも、後合資組織として經營するに及んで商運振はず、負債のみ堆積して、如何ともする能はず、乃ち其善後策を君に謀るや君は決然出京して、之が整理の任に當れり。

君は爾來專心鋭意之が整理に腐心し幾何もなくして左しもに悲境に在りし同社の社運を挽回し、爾後同社に留まりて社務を執掌し、今日事實上の經營者となるに至れり。

然るに歐洲大戰以來、獨逸純藍の輸入杜絶と共に、我邦僅少の在荷は戰前百十二封度入り、百七十圓位の價格なりしが今日に於ては實に六倍强の大暴騰を見るに至れり、加之現品拂底の爲めに、內地當業者の困厄其極に達し、之が補給の急務は喧しく朝野の問題となれり、斯くて染料會社設立の動機を作るに至れるが、同社は此現狀に鑑み、一切の襤褸より正藍採取の可能なるを發見し、之が製出に心を碎きて之が供給を潤澤ならしひるに至れり、斯くて事業は日に益々盛大となり現今百數十名の職工を督し工場を增築し機械を增設し、鋭意之が爲めに盡瘁しつゝあるは、單に此好機會に於て、多大の利益を貪らんとするに非ずして、其眞意は殖產工業の趣旨に副ひ、利用厚生の道を講ずるの誠意に外ならず、其所信實に敬服に堪へたり。

而も其後に於て、凡ての襤褸が之を戰前に比して普通物は一割强、毛織物は三割の騰貴をなせるに拘らず、藍採取方法に就ては複雜なる手數と多大の經費とを要せざるを以て、故らに安價に販賣しつゝあり、斯くて現下の製品としては、泥狀藍同一號二號、粉末インチゴ等にして、其生產力は一箇年を通じて、裕に一百萬圓の純藍を產出し得べしと云ふ、實に同社が渺たる一襤褸賣買業より起りて、苦心經營の結果、廢物を利用して今や世界的重要の產物たる、染料を製出するに至れるの功蓋偉大なるものにして、其功勞は眞に實業史上後代に傳ふべきの價値を有す。

同社が斯の如く隆盛を致したるは、當業者たる小川覺平氏の溫厚篤實十年渝らざるの氣魄乘より之を然らしめたるに在りと雖も、抑も亦堅忍不撓百難を排して同社の危機を助けたる小川福二氏の力與つて大なるを閑却すべからず、同社をして九死の中に一生あらしめたるも、又今日の隆盛を招致したるも、事實上の經營者たる君の力にして、然も君の令閨靜子夫人は、之れ又現代多く比を見ざるの女傑にして、事業經營上に於ける手腕は一箇の天才とも云ふべく、福二氏今日の成功も亦令閨內助の功、與つて大なるものあり。

加之氏は又慈善心に富み、慈善事業公共事業には、必ず自ら進みて金品を寄捨したり、元來王子赤羽地方一帶は、工業地として發達し來れるを以て、附近の住民は主として、之等諸會社の下級傭員又は職工の家族なるを以て、君は屢に有志と相謀り、哺育場設立の議成るや、君は匿名を以て千五百圓を交附したるが如き以て其志の存する處を知るに足る。

斯の如くにして、尙君は自家使用人に對する取扱の如きも眞に慈味溫情の溢るゝものあり、されば職工又は使用人等も深く君を德とし、嬉々として其の業務に從ふのみならず、賃銀の餘裕も亦之れを君に託して保管を乞ふが如き、求めずして人服し、敎へずして節儉自ら風をなす、斯の如きの美風は到底他工場に其の例を見る能はざるものあり、事業の經營者既に斯の如く、從業員又斯の如し、之れ云ふ迄もなく、君一族の人格が無言の敎訓となりて、此の美風を助長せしめたるものなり。

同社は斯の如く、人の利を得たるを以て業況隆盛僅少の時間に於て、聲名を天下に馳するに至れる洵に故なきに非ず、由來叅遠の地たるや、耐久性の人を出す苟も其事業の何たるを問はず、時に依りて消長を免れず、事の順に進める場合には凡庸の人と雖も、尙且つ其衝に當ることを得るも、一度時の運と事の難に當つては、所謂知慮才幹のみを以て、之を切拔ることは極めて至難なり、此場合に於ては始めて、耐久性の有無與つて其運命を支配するに至る。

今同社の當業者の如きは、創業、守成、共に其才備はり、且つ衆を率ふるの韜略とも云ふべき慈善を好むは、洵に當代罕に見るの人々なり、折柄染料供給難は曾に現今のみならず、從つて將來に亙れる大問題にして、我邦斯の如き工業家の出現したるは、斯界の爲に大に意を强うすべきことにして、吾人は國家の爲めに、斯る事業家の益々健全なる發達を遂んことを望むものなり。

塗料一般
工業藥品
問屋

直輸出入商

尾張屋飯田連庫本店

本店 東京市日本橋區本石町四丁目
電話本局 七五二番 七五三番

大阪出張店 大阪市西區本田一番町一番地
電話 西一六一六番

九州出張所 小倉市京町九丁目一六九番地
電話 七一四番

日本ペイント製造株式會社特約店

塗料一般
工業藥品 問屋

熊野屋塗料店

東京市日本橋區本銀町四丁目

電話本局(長)
四八一〇番
四八一一番
四八一二番
六九〇番

資合會社

東洋一之塗料工場

明治十四年創業
資本金五百萬圓

登録商標

製産年額千六百萬圓

NIPPON PAINT MFG. CO.

日本ペイント製造株式會社

本社
東京南品川
電話高輪(長)三六二番 三六三番 三六四番

支店
大阪北浦江
電話土佐堀(長)一三五五番 一三五六番

出張所
上海漢口路
電話一九七〇番

漆工部 塗工部
東京南品川
電話高輪九〇五番

耐火無臭室内壁用

登録商標

ライト塗料

ライト上塗用

無色無臭

ライト防水劑

防水劑は壁。紙。布。板張。其他のライト塗の上に塗布する時は塗面を一層強固になし雑巾掛も自由となれば汚染の拭取も容易なり

各宮家
陸軍省
海軍省
司法省
臺灣總督府
御用品

ライト塗料製造發賣元

山本商店

東京市神田區柳町貳番地
電話神田一五一〇番

裁判所
鐵道院
監獄署
各大學校
御用品

當開安太郎商店
東京神田今川橋際　電話神田四五七七

化學工業用薬品
ペイント、エナメル、ワニス、及油類
輸入販賣
富士印
各種塗料及防錆塗料
發賣元

商標

TRADE MARK.

INDUSTORIAL & CHEMICAL DRAGS.
PAINTS, ENAMELS,
VARNISHES
&
OILS ETC. ETC.

Y. TAIMA SHOTEN
Side of Imagawabashi.
Kanda-ku TOKYO.

和洋ペイント塗料品卸問屋

S.K

合資會社 **岸上商店**

營業所 大阪市西區新町南通五丁目
電話長新町八三四番
振替口座大阪四四七番

本宅 同市同區新町通四丁目
電話西四〇七二番

歐米塗料直輸入
塗具塗油類一式 **問屋**

登錄商標

早瀨塗料店

大阪市西區北堀江御池通一丁目四番地
電話西長 一六六九番 二五四六番
振替口座大阪一五四五番
電報略號（ハヤ）

船具器械 塗料問屋

杉本商店

錨印塗料油類一式製造元

本店　横濱市本町四丁目　電話特長五六一番
出張所　東京市芝區芝口二丁目　電話長新橋二五八八番
出張所　神戸市兵庫西出町　電話長兵庫四二一八番
出張所　神奈川縣浦賀町谷戸　電話浦賀四九番

特約會社

英國ウードフイード社製赤紙帆走印セール
英國カレンドニアン社製スチールワイヤロープ
三井物產會社製ジンクプレード
東京製綱株式會社製品
日本製麻株式會社製品
瓦斯局製コールタール・ペンゾリ品
東洋石材ロール機械製作所品
英國ノーブルホアー社製ワニス
日本ペイント株式會社製品
近江帆布會社製コットンダック
英國アスビナルス社製サナレンエナメル
蚌鱗印ワニス錨印ペイントボイル油
東洋船底塗料製造合資會社製品
米國ゼニユーアーク社製×××印硫酸カルーム

酒精賣

臺灣製糖株式會社
帝國製糖株式會社
酒精專賣

東京市日本橋區小網町三丁目二十四番地

麻田弘商店

藥種貿易
工業藥品商

電話浪花(三)三五四番
振替口座東京一六一三番

創立明治貳拾壹年

本邦ペイント界之開祖

登録商標

參拾年の歴史ある商標

壹ケ年製造額貳百五拾萬圓

大阪 阿部ペイント製造所

大阪市西區西野下ノ町

電話土佐堀三八五番

製品科目 ●各種ペイント ●ボイルド油 ●特許光明丹 ●亞鉛華 ●唐の土

營業品目

各種ペイント類
ボイルド油類
光明丹
鉛白（唐ノ土）
亞鉛華
電池用酸化鉛
硝子陶器用鉛丹

各種ヴアーニシュ類
パテ類
繪具粉末類
美術エナメル塗料
船底塗料
テレメン油類
刷毛ブラッシ類

木材防腐塗料
ピッチ類
テール類
ポンアミー石綿
各種機械油類
綿絲製調帶
調帶附屬繼金具

日本ペイント製造株式會社製品大販賣所

モナーク ストロング 赤玉 丸大 印綿絲調帶製造發賣元
印各種塗料機械油發賣元

大元商店

大阪市西區立賣堀南通六丁目

電話特振新町二六五番
振替大阪一九〇四一番

店主 貴志富六郎

登錄商標

ツヅミ 印　ツヅミ 印　ツヅミ 印

諸品共品質頗る優良なり

鉛丹
白鉛（唐土）
リサージ
クローム
ヱロー（黃鉛）

諸品共價格頗る低廉なり

大阪府堺市

鉛市商店

電話堺 二四三番
東京振替 七九五番
大阪振替 七四八番

製品種目

塗料油、牛脂、ヘット
クレオソート油、テレメン油
ベンゾール ナフサ
其他化學的油脂類製造

合資會社 吉川製油所

本店 大阪市西區北境川町 電話西 一一八番 三〇〇一九一番 九番

出張所 東京市京橋區松屋町二丁目 電話京橋 二九二六番

出張所 名古屋市中區仲之町二丁目 電話 四八八六番

京都山科特産

砥の粉

白砥の粉・本堅地砥の粉・切粉の地・粉の砥・粉の類

一式製造元

繪具 染料 塗料 工業 藥品 膠類 販賣

京都市河原町二條南入

福住清兵衛

振替 大阪九九五六 東京一四一八二

電話上七三一

工業用
化學用 藥品製造販賣

東京市神田區松枝町十八番地

渡邊平八商店

電話神田四八六番

寶田石油株式會社特約店

印 揮發油

塗料溶解用トシテ新製品五十度ヲ提供ス

神田區東龍閑町十九番地

渡邊竹次郎商店

電話 神田 二四〇三 二二四〇四 二六六九

振替口座東京 一一五一八

REGISTERED TRADE MARK

ユシッニーアヴ ダイヤモンド

製品種目

容器

1	I/M GAL. CAN	（用付燒黑純）	クツラブンパヤジ　ユシツニーアヴーイテボ
1/2	I/M GAL. 〃	（スニ黑上最）	ーカツラクツラブ　ユシツニーアヴルパーコ
1/4	I/M GAL. 〃	（スニ白上最）	ーマダトイワホ　ズイサドルーゴ
4	I/M GAL. 〃		
1/2	A/M GAL. 〃		
5	A/M GAL. 〃		

品定指院道鐵國帝
品用御社會船汽社會輛車各

東洋唯一

品質位本

ユシツニーアヴドンモヤイダ
元賣發造製
合名會社服部商店

本店　日本橋區通鹽町一番地
電話浪花園三七八番　振替口座東京一二八六五番
工場　東京亀戸町字高貝須
電話本所三一九番

製造科目

特許
タカジオン塗料

總括的特長
不酸化ノ原料ヲ以テ製造スルガ爲ニ長日月ヲ經ルモ光澤ノ消滅龜裂又ハ剝離スルコトナク耐水、耐熱、耐久、耐酸等ノ點ニ於テハ日本漆ト同樣ノ效力ヲ有ス

精練用軟石鹼（加里石鹼）

本加里石鹼ハ動物纖維ニ對スル作用緩徐ナルニヨリ絹毛ノ精練ニ就テ左ノ效力ヲ有ス

特長
1. 手觸良キ事
2. 光澤優秀ナル事
3. 纖維ヲ侵サヾルガ故ニ練減無キ事
4. 柔軟ナル事
5. 臭氣ヲ殘サヾル事

千代田塗料株式會社

工業用
藥用
加里石鹼
ラックニス
チヤンニス
其他

營業所　東京市京橋區尾張町一ノ一　電話新橋三六〇二番

工場　府下豐多摩郡戸塚町六〇　電話番町一六九二番

取締役　諏訪方季
取締役　吳大五郎
取締役　早瀨榮之助
取締役　東甫二郎

於化學工業博覽會銀牌受領

ENAMELS, VARNISHES & PAINTS

製品種目

青鑵エレスチツクボデーヴアーニシユ、青鑵エキステリヤコーパルヴアーニシユ、青鑵ペールゴールドサイズ、青鑵ホワイトダマートランスパレント、赤鑵フアインゴーパルヴアーニシユ、赤鑵ゴールドサイズ、自轉車用焼付黑エナメル、各色エナメル（色種三十色）
ジヤパンブラツクヴアーニシユ
ブラツクラツカーヴアーニシユ
ホワイトダマーヴアーニシユ
フアーニツウアーヴアーニシユ
フレンチポリシユ（白色）
プロンジングリツクウイド
電球用摺硝子液（一名洋粉液）
電球用各色尼斯（色種十數種）

大阪市南區瓦屋橋西詰
川上保太郎商店
電話長南一二四六

工場
大阪府西成郡今宮今池 **川上工場** 電話南四二九三番
同西成郡玉出町字成亥 **川藤工場**
同西成郡稗島村北ノ町 **川原工場**

REGISTERED TRADE MARK

ペイント・ワニス
ボイルド油・亞鉛華
光明丹・妻木式ワニス
其他各國塗料藥
種繪具染料工業藥

ラクダ印塗料製造發賣元
東京市本所區相生町五丁目
合名會社 **片岡商店**
電話長本所四七九番
振替東京五八一〇番

勉 正

Trade Mark

耐酸エナメル優美堅牢
ツバメ印ドライヤ製造元
タカジオン塗料代理店

英國倫敦エメリー會社製

エメリークロース各號在庫豐富
耐酸堅牢ブリアントエナメル製造元

●歐米各國塗料
●ペイント類各種
●ワニス類各種
●彩料類各種
●和洋膠類
●木材防腐劑
●繪具顔料
●染料及媒染料
●化學工業藥品
●各國生布紙鑪
●和洋アスパルト類

井上屋

渡邊雄藏商店

東京市京橋區銀座一丁目十八番地

電話京橋 一〇九六番
振替東京三四一六七番

強 直

大阪塗料製造所

最發明 ピカピカ漆

改良エナメル

ピカピカハ從來ノエナメルヲ改良セシモノニシテ品質ハエナメルニ比シ遙ニ優勝ニシテ價格モ可驚大ニ廉價乾燥約三十分光澤美麗固着堅牢塗上ゲ眞ノ漆ノ如シ、實ニ有益ナル塗料

營業品目

ワニス、ペイント、ボイル油、光明丹、ボテエナメル、コールタール、ピッチ、テレメン油、テール、白鉛、亞鉛華、各種顔料アスパルトゴム、塗料用ゴム類、油類其他附屬品、舶來塗料各種直輸入

優等速乾液漆(白ニスノ上等)ハ弊所ノ發明品ニシテ元祖ナリ

營業所

比山茂松商店

大阪市東區平野町壹丁目

電話本局二三一七番
振替口座大阪七九四三番

斯界の壹百人

大正七年十二月五日印刷
大正七年十二月十日發行

非賣品

東京府淀橋町柏木百十九番地
染料 塗料 工業藥品新報社編輯部 編輯者

東京府淀橋町柏木百十九番地
發行者 大森元之助

著作權所有

東京市京橋區宗十郎町十五番地
印刷者 阿部節治

東京市京橋區宗十郎町十五番地
合資會社 東京國文社 印刷所

東京府淀橋町柏木百十九番地
染料 塗料 工業藥品新報社 發行所

振替東京二七五三四

ニッポンハ

世界的獨創ノ理想的羅紗店ナリ

一著宛ノ切地見本ヲ陳列セル絶對無二ノ店ナリ

着用家ニ必要ダケヲ切賣スル便利ナル小賣店也

何レニ倚ルヨリモ廉價ニ出來スル方法ノ案出者也

流行新柄實用兼備ノ羅紗常ニ充滿セリ

洋服裏地、釦等一切ヲ取揃フ類例ナキ店ナリ

如何ナル高等品モ又安價ノ物モ斷エズ豐富ナリ

御進物用トシテ時節柄最モ新シキ好ミノ品多數アリ

陳列式ナレバ用不用ハ扨措キ是非一度御覽アレ

技術優秀裁縫處特設シアレバ應御希望指定スベシ

■營業案内御申越次第進呈ス

株式會社ニッポン

店内陳列

■羅紗毛織物直輸直賣■

株式會社 ニッポン

專務取締役 薗部周吉

東京市京橋區銀座三丁目

電話京橋一六〇二番

電信略號（ニッポン）

333
73

終